川崎市総合計画第1期実施計画 政策体系図

基本 政策	政策	施策	事務事業(〇は本計画に掲載している主な事務事業
	政策 4-7	総合的な交	通体系を構築する
		施策 4-7-1	広域的な交通網の整備
			〇 総合交通計画調査事業
			O 鉄道計画関連事業
			〇 広域幹線道路整備促進事業
			〇 川崎縦貫道路の整備事業
		施策 4-7-2	市域の交通網の整備
			〇 都市計画道路網調査事業
			〇 道路計画調査事業
			〇 道路改良事業
			〇 渋滞対策事業
			〇 橋りょう整備事業
			O 京浜急行大師線連続立体交差事業
			O JR南武線連続立体交差事業
		施策 4-7-3	身近な交通環境の整備
			〇 地域交通支援事業
			〇 コミュニティ交通支援事業
			〇 交通案内情報の充実
			〇 自転車通行環境整備事業
			駐車施設整備推進事業
		施策 4-7-4	市バスの輸送サービスの充実
			〇 市バス運輸安全マネジメント推進事業
			〇 市バス安全教育推進事業
			〇 市バスネットワーク推進事業
			〇 市バスお客様サービス推進事業
			〇 市バス移動空間快適化事業
			〇 市バス事業基盤強化事業
			〇 市バス経営力強化事業
			〇 市バス地域貢献事業
			市バス経営計画推進事業

施策評価シート(第1期実施計画 中間評価)

1 施策の概	发 要											
	基本政策(1層)	活力と魅力あふれる力強い都市づくり										
政策体系上	政策(2層)	総合的な交通体系を構築する	計画当初值 (H27年)	直近実績値 (H28年度)	最終目標値 (H37年)							
の位置づけ	m 🗷 °	交通利便性の高いまちだと思う市民の割合	62.0%	64.2%	70.0%							
	実感指標②											
施策	施策コード	施策名										
(3層)	40701000	広域的な交通網の整備										
担当	組織コード	所属名										
, <u> </u>	503500	まちづくり局交通政策室										
関係課	建設緑政局広域道路整備室											
施策の概要	●高齢化の進展やライフスタイルの多様化などにより、移動の目的や利用する交通手段が大きく変化していることから、将来の都市活済活動なども視野に入れた「総合都市交通計画」を踏まえ、首都圏や本市における交通の円滑化や都市機能の向上を図る広域的な3整備を推進します。さらには、自動車利用から公共交通利用への転換に向けて鉄道ネットワーク機能の強化などを推進し、公共交通の進を図ります。 ●鉄道は、低炭素で環境にやさしく、多くの人を短時間で安全に運べる交通機関である一方で、通勤・通学時間帯を中心に激しい混雑していることから、鉄道事業者との適切な連携により、鉄道の安全性の向上や輸送力増強等による混雑の緩和などに向けた効率的か的な取組を推進します。 ●川崎縦貫鉄道計画については、超高齢社会の進展などの社会環境の変化から、当面着手できる状況にないことから計画を休止しま後は、本市の交通網のあり方を検討し、平成29年度に予定している「総合都市交通計画」の見直しの中で、川崎縦貫鉄道計画の方向いて、明確化を図ります。 ●首都圏の都市構造や経済活動を支えるとともに、本市の都市機能を強化する広域的なネットワークの形成や、市内の交通混雑の解沿道環境の改善、また、災害時における物資輸送を支える道路ネットワークの確保のため、川崎縦貫道路や国道357号など広域的な路網整備の取組を推進します。											
直接目標	首都圏におい	ける円滑な交通網を整える										

	190	は果指標やその他成果などの状況と成果の 実施計画に位置付けた指標名(指標の説明)	現状値(年度)	目標·実績	H28年度			H29年度	単位
				目標値@	-			的20%短縮(H44)	
		都市拠点から羽田空港までの平均所要時間	44	実績値ゆ	_			_	分
	1	指標の 本市拠点から羽田空港までの「公共交通(鉄道)利用所要時間(H24)		達成率(@/b))	_			_	7
		指標の と「国土交通省の調査データ(H17道路交通センサス)などに基づく自動車利用等所要時間の本市推計値」の平均値	H17·H24	指標達成度 ※1	-			-	増減
		10本学的の見温が吐用 共にわけて 温が変	105	目標値@	_		【参考]180%(H44)	%
	2	JR南武線の最混雑時間帯における混雑率	195	実績値し	_			_	90
成	2	指標の 国土交通省による鉄道関係統計データ	H26	達成率(@/b))	_			_	7
果		説明 説明	HZ0	指標達成度 ※1	-		-		増減
果指標				目標値@					
標	3			実績値し					
	Ĭ	指標の		達成率(b/a)					
		説明		指標達成度 ※1					
				目標値②					
	4			実績値し					
	7	指標の		達成率(b/a)					
		説明		指標達成度 ※1					
		その他数値で把握できる補足指標 (指標の説明)	実績	H27年度	H28	年度	H29年度	単位	
	1	指標の説明		実績					
	2	指標の説明		実績					

定性的な成果

(取組を進めたこと について記載)

●H28年度には、羽田空港への所要時間を短縮する鉄道・道路ネットワーク形成事業の進捗に伴う指標値の進展はありませんが、JR南武線の最混雑時間帯における混雑率については、新型の幅広車両(E233系)導入により、平成27年度には190%となりました。成果指標値の改善 で発現した効果などに向けて連携を図ったことにより、JR東日本による混雑緩和への取組に対し、一定の貢献がありました。

指標等の

を含めて記載)

成果分析《指標に関わる関係事業者や国、他自治体との連携した取組については、掲げた目標達成に向けて一定の進捗がありました。なお、本指標 (指標の目標値達成 は、総合都市交通計画に位置付ける施策・事業を展開することで実現をめざす値であり、休止とした縦貫鉄道計画を含んでいることから、総合 を限む<u>外的要因等</u>
都市交通計画の見直しにおいて、縦貫鉄道計画の方向性を明確化するとともに、指標についても見直しの必要性等を検討する予定です。

3	施策を構成す	る主	<u>な</u> 事務事業の評価						
					事業費	(千円)	事業の		
番	事務事業コード	サービ	事務事業の概要		予算額	決算額	達成度	施策へ	今後の
号		ス分類	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	主な取組の実績		H27年度		の貢献	事業の
7	事務事業名	//// 201	(同)米に収り		H28年度	(※決算額は	見込)	度	方向性
						H29年度			
	40701010				19,412	17,448			
			平成25 年3 月に策定した「総合都市交通 計画」について、策定以降の社会状況等					A	I
1	総合交通計画調査事	その他	の変化を踏まえ、計画の見直しを行いま	●総合都市交通計画の見直しに向けた検討を実施	12,207	10,603	3	貢献して	現状のま ま継続
	業		す。		14.482			-	
-								-	
	40701020		*******	●交通政策審議会の答申を踏まえた対応方針案の検討·策定	394,524	375,136		Ι.	,
2		その他	市内の鉄道ネットワークの充実に向け、国土交通省や鉄道事業者等と連携した取組	を実施 ●鉄道輸送力増強の促進に向けた関係事業者との調整を実施	125,516	80,161	3	A 貢献して	I 現状のま
-	鉄道計画関連事業		を推進します。	●鉄道事業者や他自治体と連携した鉄道ネットワークの機能強				いる	ま継続
				化に向けた取組の推進を実施	154,366				
	40701030				481,881	296,794			
	40701000		┃ ┃首都圏全体の都市構造の形成や本市の	●国道357号(多摩川トンネル区間)の整備促進を実施	401,001	230,734		В	I
3	広域幹線道路整備促	その他	交通機能強化を図るため、広域的な幹線	●川崎駅周辺の交通円滑化に向けた協議・調整を実施●高速道路の新たな料金体系導入等に関する関係機関との協	482,984	390,426	3	やや貢献	
	進事業		道路網の整備を促進します。	議・調整を実施	983,181			している	ま継続
					903,101				
	40701040			● I 期事業の高速部(大師ジャンクション~国道15号間)の整	60,332	0			
L		7011	 本市の都市機能の強化などに資する広域	備に向けた取組の推進を実施 ● I 期事業の国道409号(殿町〜国道15号)の街路先行整備等	00.000	0.005	_	B	I
4	川崎縦貫道路の整備	その他		の促進を実施	66,000	9,205	3	やや貢献 している	現状のま ま継続
	事業			● II 期計画(国道15号~東名高速道路間)の早期具体化に向けた取組の推進を実施	14,000				
-								-	
5		1							
		1							
6									
<u> </u>		<u> </u>					 	<u> </u>	
1		1							
7		1						1	
1		1							
1		1							
1							/_		
8		1							
1		1						1	
							<u> </u>	<u> </u>	
1									
9		1						1	
۱									
1									
1		1							
10									
1								1	

4 施策の進	4 施策の進捗状況												
11-11-	区分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由										
進捗状況 (指標等の成果を中 心に施策を構成す る事務事業の評価 等から総合的に評	(目標達成に向けて進捗している)	В	●配下の事務事業において、広域的な交通網の整備に向けた関係する事業者や国、他自治体との連携した取組により、掲げた目標達成に向けて一定の進捗がありました。 ●なお、成果指標1は、総合都市交通計画に位置付ける施策・事業を展開することで実現をめざす値であり、休止とした縦貫鉄道計画を含んでいることから、総合都市交通計画の見直しにおいて、縦貫鉄道計画の方向性を明確化するとともに、指標についても見直しの必要性等を検討する予定です。										

	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
今後の 事業構成の 妥当性 (<u>手段は妥当か?</u>)	I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	I	●広域的な交通網の整備には、関係する事業者や国、他自治体との連携した取組が必要となるため、引き続き、現在取り組んでいる事業を進めていきます。

事業の	概戛	Ē									
			事務事業コード			事務事業名			実施計画の記載		
	事務	事 某	40701010	総合交通計	画調査事業				有		
	10	Alt	所属コード				所属名				
	担	当	503500	まちづくり局ろ	を通政策室						
		#n ==	事業開始年度	事業終了年度	^{後了年度} 事務・サービス等 分		1(市民サービス等)	分類2(内部事務)		
	実施	期间	_	_	の分類		その他		_		
	実施	形態	☑ 市が直接実施	☑ 一部委託	. □ 全部委割	托·指定管理	□ ボランティア等との	の協働 口 そ	の他		
	実施	根拠	□ 国・県の制度	□ 国•	県の制度+市独国	自の制度 ☑] 市独自の制度				
	(法令	ì•要綱等)									
総合計画と連携する計画等			都市計画マスタープ 推進基本計画、総合	ラン、防災都市づく 都市交通計画、第	り基本計画、高齢 2次道路整備プロ	者保健福祉計画	■・介護保険事業計画、 事業経営プログラム、川	環境基本計画、計場市交通安全計	地球温暖化対策 ·画		
行財政改革プログラムに			改革項目 課題名								
関:	関連する課題名										
	年度		H27年		H284						
			予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	#1 - T 111P3	予算額	決算額		
	Щ.	事業費 A	19,412	17,448	12,207	10,60		14,482			
予決算	財	国庫支出金	1,526	-	1,000		- 1,000	2,000			
(単位:	源	市債	0	_	0		- 0	0			
千円)	内訳	その他特財	0	_	0		- 0	0			
		一般財源	17,886	-	11,207		- 11,207	12,482			
		人件費 [※] B			51,728	51,72	28 0	0	0		
	1	総コスト(A+B)			63,935	62,33	1 12,207	14,482	0		
人	工(単	·拉:人)			6.	1					

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

実施結果(Do)

計 画(Plan)		
	政策	総合的な交通体系を構築する
政策体系	施策	広域的な交通網の整備
	直接目標	首都圏における円滑な交通網を整える
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、来訪者、物流	流事業者等
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)		さすいこと」「安全・安心かつ円滑であること」「持続可能であること」を理念とする交通環境の実現を目指します。 本の人や物の動きを見据えた広域的な交通問題の把握と課題の分析及び施策への反映
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような 手段で実施しているか)	●翌年度から、計 ●現在は、平成29	S市の都市交通分野におけるマスタープランとして「川崎市総合都市交通計画」策定しました。 画に位置付ける施策・事業の着実な推進を図るため、進行管理を行っています。 1年度の計画の見直しに向け、計画の施策展開等について見直し作業を行っています。 Sける広域的な都市交通計画の検討に役立てるため、人の動き及び物の動きの調査・分析を行ってます。
今年度の事業の取組内容 (具体的に <u>今年度</u> どのような活動を するのか)	①総合都市交通記	十画の見直しに向けた検討

			の事業の する達成度	3	1. 目標を大きく 2. 目標を上回っ 3. ほぼ目標どお	って達成		標を下回っ 標を大きく				
「数 たか	記「当該 ^年 値等でよ できる取	F度の取 り具体的 組」、又()実績等 組内容」に対し、 I <u>に実績を示すこ</u> よ「 <u>未達成部分</u> 」 た部分」を記載)	①計画の見直しに向	引け、施策展開の方	向性を検討						
指	標分類	娄	値で事業の	実績・効果等を批	型握できる指標	(指標の説明)	E	目標·実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
								目標				
Ľ		説明						実績				
2								目標				
Ľ		説明						実績				
								目標				
3		説明						実績				
								目標				
4		説明						実績				

本市の都市交通分野におけるマスタープランである総合都市交通計画については、交通政策を取り巻く状況変化を踏まえ、必計画の見直しを行いながら、今後も計画を継承していく必要があります。また、東京都市圏における交通行動の目的、移動手具で行動時間帯など1日の詳細な交通データを取得することができることから、継続的に係わる必要があります。 「成果	評	価((check)									
関係の活用] 素形できる場合は記載 「できる場合は記載 「できる場合は記載 「できる場合は記載 「できる場合は記載 「できる場合は記載 「「市及のニーズ」 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか? 「市が実施する必要性 「市が実施する必要性 「他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか? 本市の都市交通分野におけるマスタープランである総合都市交通計画については、交通政策を取り巻く状況変化を踏まえ、必計画の見直とを行いながら、今後も計画を継承していく必要があります。また、東京都市圏における交通行動の目的、移動手行動時間帯など1日の詳細な交通データを取得することができることから、総続的に係わる必要があります。 「成果] 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか? 「は成果] 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか? またがっている。 「は成果] 活動は標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか? 「は原用の理由 総合都市交通計画に位置付ける施策・事業の多くは着実に進捗しています。また、平成30年度に予定しているバーソントリック査に向けた調査・企画・検討を予定通り行っており、成果は上がっております。 「は関の活用] 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか? 「本東手法等の見直し」 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる等政策の可能性があるか? 「東東手法等の見直し」 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる。の、既に実施済み 「「現の角上」 事業を適正な(過小でも、過大でもない) 規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内 路の職員、組織のの質の向上を図ることができる余地があるか? 「現の前日」 総合都市交通計画の見直し業務及びバーソントリップ調査に向けた調査・企画・検討業務については、業務委託を活用するな	(国・	県・他団体の	動向や法改正、規	本市の総合記す。	計画の策定	⋶や国の	の交通政策署	馨議会	の答申などの計画策定後の状況変化を	踏まえ、計画の見直しを行う必要	更がありま	
深色ないのできる場合は記載 現在、平成29年度の総合都市交通計画の見直しに向けて作業中です。できる場合は記載 できる場合は記載 下版のニーズ 中価項目 中価 中価 中価 中価 中価 中価 中価 中	4	事業の見直	し・改善内容	□ 実施	(直近)	Н	年度	Ø	未実施			
************************************		※過去に見	直した履歴も記載	現在、平成29	9年度の総	合都市	5交通計画の	見直	しに向けて作業中です。			
事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?					評	価項目				評価		
他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか? b. ある かます 本市の都市交通分野におけるマスターブランである総合都市交通計画については、交通政策を取り巻く状況変化を踏まえ、必計画の見直しを行いながら、今後も計画を継承していく必要があります。また、東京都市圏における交通行動の目的、移動手具行動時間帯など1日の詳細な交通データを取得することができることから、継続的に係わる必要があります。 a. 上がっている b. 徐々に上がっている b. 徐々に上がっている b. 徐々に上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない c. 上がっている b. 徐々に上がっておりにない c. 上がっている c. 上がっていない c. 上がっている c. 上がっているい c. 上がっている c. 上がっている c. 上がっているい c. 上がっている c. 上がっているい c. 上がっている c. 上がっている c. 上がっているい c. 民に実施済み c. 既に実施済み c. 既に実施済み c. 既に実施済み c. 既に実施済み c. 既に実施済み c. 既に実施済み 総合都市交通計画の見直し業務及びパーソントリップ調査に向けた調査・企画・検討業務については、業務委託を活用するな	Г			環境の変化等に	こより、事ま	業に対・						
計画の見直しを行いながら、今後も計画を継承していく必要があります。また、東京都市圏における交通行動の目的、移動手具に対験時間帯など1日の詳細な交通データを取得することができることから、継続的に係わる必要があります。 「成果		必要性				a						
活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?			評価の理由	計画の見直し	を行いな	がら、全	今後も計画を	継承し	していく必要があります。また、東京都市	圏における交通行動の目的、移		
総合都市交通計画に位置付ける施策・事業の多くは着実に進捗しています。また、平成30年度に予定しているパーソントリップをに向けた調査・企画・検討を予定通り行っており、成果は上がっております。 【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか? 【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどにおる事務改善の可能性があるか? 【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか? 総合都市交通計画の見直し業務及びパーソントリップ調査に向けた調査・企画・検討業務については、業務委託を活用するな		有効性		指標等)に対し	,事業の成	果(成!	果指標等)は	順調	こ上がっているか?	b, 徐々に上がっている	а	
お本性		137731_	評価の理由							30年度に予定しているパーソント	・リップ調	
事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどに よる事務改善の可能性があるか? 【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか? 総合都市交通計画の見直し業務及びパーソントリップ調査に向けた調査・企画・検討業務については、業務委託を活用するな				者制度など、	実施手法Ⅰ	こつい	て民間活用に	こよりコ	コストを削減できる余地があるか?	b. 余地はある	С	
【質の向上】 a. 余地はない 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか? b. 余地はある。 企、既に実施済み c. 既に実施済み		為衷사	事業の成果を維	ーー 持しながら、身		仕様の		а				
		<i>N</i> ITI	事業を適正な(過				b. 余地はある	а				
			評価の理由		客については、業務委託を活用す	けるなど効						
貢献度区分 上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由			貢	献度区分					上記「有効性」の成果等を踏まえ左記し	区分を選んだ理由		
			B. やや貢献し	Α	総合都市交通計画は、本市の都市交通分野におけるマスタープランとして、関連する施策・事業の取組 方針等を示すものであり、パーソントリップ調査は広域的な交通網の整備に係る検討などに活用している。							

改善(A	ction)								
	方向性区分			実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性					
今後の事業 の方向性 I. 現状のまま継続 Ⅲ. 改善しながら継続 Ⅲ. 事業規模拡大 Ⅳ. 事業規模縮小 Ⅴ. 事業廃止 Ⅵ. 事業終了			平成29年度の総合都市交通計画の見直し及び平成30年度のパーソントリップ調査に向けて、引き続き、作業を行います。						
			• •						
A AA		変更<u>前</u> (次年度計画上 の記載)							
今後の事業の方向性を 踏まえた次年度の計画上の 変更箇所		変更 <u>後</u> (上記計画上の記載に 対する変更点)							
		変更の	理由						

事業の	概引	Ę										
			事務事業コード		事務事業名 実施計							
	事務	事業	40701020	鉄道計画別	粵連事業				有			
			所属コード				所属名					
	担	当	503500	まちづくり局	交通政策室							
		40 BB	事業開始年度 事業終了:		事務・サービ	ス等 分類	1(市民サービス等)	分類2(内部事務)			
	夷虺	期間	_	_	の分類	_	その他		_			
	実施	形態	☑ 市が直接実施	市が直接実施 🛘 一部委託 🗘 全部委託・指定管理 🗘 ボランティア等との協働 🗘 その他								
	実施	根拠	□ 国・県の制度	□国	・県の制度+市独国	自の制度 ☑] 市独自の制度					
(法令•要綱等)												
総合計画と連携する計画等		まち・ひと・しごと創	生総合戦略、都市	計画マスタープラン	、総合都市交通	計画						
行財政改革プログラムに			改革項目			課	題名					
関連する課題名		お課題名										
			H27 	F度	H28	年度						
		年度	予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額			
		事業費 A	394,524	375,136	125,516	80,16	112,891	154,366				
予決算	財	国庫支出金	0	-	0		- 0	0				
(単位:	源	市債	0	-	0		- 0	18,000				
千円)	内	その他特財	384,955	-	107,538		- 107,873	108,332				
	訳	一般財源	9,569	-	17,978		- 5,018	28,034				
		人件費 [※] B			13,568	13,56	8 0	0	0			
	i	総コスト(A+B)			139,084	93,72	9 112,891	154,366	0			
人	工(単	单位∶人)			1.	6		·				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画(Plan)								
	政策	総合的な交通体系を構築する						
政策体系	施策	広域的な交通網の整備						
	直接目標	首都圏における円滑な交通網を整える						
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	●市民、鉄道事業	者、来訪者など						
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	●臨海部のポテン ●鉄道整備事業基 す。	更性を高めるとともに、移動の効率化を通じた市内の活性化や都市間競争力の向上を図ります。 ・シャルを最大限に発揮する交通体系の構築に向けた取組を進めます。 基金の目的である新線建設、新駅整備、駅改良の事業費に基金を充当することにより、鉄道整備事業を推進しま 曽強を促進します。						
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような 手段で実施しているか)	●鉄道整備事業基 ●神奈川県内の市	・ットワークの機能強化に向け、各鉄道計画の実現に向けた検討・調整作業を行います。 基金の新規積立及び運用利子を積み立てることにより、鉄道整備事業を推進するための財源を確保します。 市町村等が鉄道事業者に要望を伝える場である「神奈川県鉄道輸送力増強促進会議」を通じて、鉄道事業者によ 高策の促進を図ります。						
今年度の事業の取組内容 (具体的に <u>今年度</u> どのような活動を するのか)	②鉄道輸送力增殖	会の答申を踏まえた対応方針案の検討・策定 金の促進に向けた関係事業者との調整 也自治体と連携した鉄道ネットワークの機能強化に向けた取組の推進						

			の事業の する達成度	3	1. 目標を大きく 2. 目標を上回っ 3. ほぼ目標どれ	って達成		標を下回っ 標を大きく					
「 <u>数</u> (記「当該 ^年 直等でよ できる取	F度の取 り具体的 組」、又Ⅰ)実績等 組内容」に対し、 Iに実績を示すこ は「 未達成部分 」 た部分 」を記載)	①交通政策審議会の 29年度に予定されて が必要となります。 ②③交通政策審議会	には目標どおり達成しました。)交通政策審議会の答申を踏まえた対応方針案の検討・策定については、期日までに基本的な考え方を整理しました。なお、平成 9年度に予定されている「総合都市交通計画」の見直し(平成29年度予定)と整合を図る必要があるため、引き続き、内容の調整 必要となります。 /③交通政策審議会の答申に示された本市提案の6プロジェクトについて、関係する鉄道事業者や他自治体と、協議や意見交換 行うことで、各事業の取り組みを推進しました。								
指	漂分類	娄	枚値で事業の	実績・効果等を把	握できる指標	(指標の説明)	目標·実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位	
								目標					
1		説明						実績					
								目標					
2		説明						実績					
			-					目標					
3		説明						実績					
			-					目標					
4		説明						実績					

評価(C	Check)												
	社会環境の変化 動向や法改正、規 印など)								、関係する鉄道 を推進する必要		や他自治体と取り組 ます。	みを進め	る必要
事業の見直	し・改善内容	□ 実施	(直近) H	Н	年度		未実施						
※過去に見	見直し・改善内容 直した履歴も記載 場合は記載												
			評値	価項目							評価		
	【市民の二一ズ】 事業を取り巻く環	 環境の変化等I	こより、事業	ー 業に対す	 るニーズヵ	が薄れ	ていないか), ?			a. 薄れていない b. 薄れている		а
必要性	【市が実施する必 他都市で、民間等		是供してい	る事例が	がないか?						a. ない b. ある		a
	評価の理由		競争力	り込まれました。 1の向上を図るため、 があります。	引き続き	、鉄道事							
有効性	【成果】 活動結果(活動持	指標等)に対し	,事業の成:	果(成果	指標等)は	い順調に	こ上がって	いるか?			a. 上がっている b, 徐々に上がってし c. 上がっていない	N る	b
	評価の理由	・鉄道事業者	や他自治化	— 体と連携	 した取り組	1みを1	テ う ことで、	事業の推進	進を図ることがで	きました			
	【 民間の活用 】 委託や指定管理	者制度など、	実施手法に	こついて	民間活用に	こより=	コストを削減	咸できる余り	也があるか?		a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み		а
効率性	【事業手法等の見 事業の成果を維 よる事務改善の可	持しながら、契		仕様の見	見直しなどに	こよる	経費削減さ	や事務手続	きの見直しなどに		a. 可能性はない b. 可能性はある		b
初平江	【質の向上】 事業を適正な(遊 部(職員・組織)の						行いながら	ら、市民サー	-ビスや市役所内	1	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み		b
	評価の理由	・今後の事業	推進を見掛	居えて、事	事業の進め	- 5方に ⁻	ついて、検	討が必要と	なります。				
	黄	献度区分 _					上記「有	効性」の成	果等を踏まえ左!	尼区分	を選んだ理由		
施策への 貢献度	A. 貢献してい B. やや貢献し C. 貢献の度合	ている	Α	・鉄道事	事業者や他	1自治体	本と連携し	て取り組み	、事業の推進を図	図ること	こで、施策へ貢献しま	した。	

改善(A	ction)					
	方	向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性		
今後の事業 Ⅱ. 改善し の方向性 Ⅲ. 事業規				鉄道事業については事業主体が鉄道事業者などであるため、本市との適切な役割分担を協議してまいります。		
		変更<u>前</u> (次年度計画上 の記載)		①対応方針に基づく取組の検討及び「総合都市交通計画」への反映 ②鉄道輸送力増強の促進に向けた関係事業者との調整 ・列車の増発、停車駅の改善等による混雑緩和や新改札の増設等による利便性向上 ③鉄道事業者や他自治体と連携した鉄道ネットワークの充実に向けた取組の推進 ・JR南武線長編成化、小田急・東急の複々線化、横浜市営地下鉄3号線の延伸の検討・調整		
踏まえた次年	今後の事業の方向性を 踏まえた次年度の計画上の 変更箇所		まえた次年度の計画上の 変更後			①交通政策審議会の答申を踏まえた取組の考え方の「総合都市交通計画」の見直しへの反映【変更】 ③鉄道事業者や他自治体等と連携した鉄道ネットワークの充実に向けた取組の推進【変更】 ・JR南武線輸送サービス改善に向けた調整 ・通勤通学時間帯におけるオフピーク通勤等の取組検討・推進 ・小田急・東急の複々線化に向けた調整 ・横浜市営地下鉄3号線の延伸に関する調査・検討及び横浜市との協議・調整
		変更の	理由	①については、「対応方針に基づく取組」と、③の「鉄道事業者や他自治体等と連携した鉄道ネットワークの充実に向けた取組」が同内容であるため、内容の整合を図るよう文言を修正する。 ③については、交通政策審議会の答申を踏まえた各事業に関する文言の修正、新規事業を追加する。		

3	事業の	概引	<u>E</u>									
Г			ماله الله	事務事業コード			事	務事業名			実施計画の記載	
ı	-	事務	事業	40701030	広域幹線道	路整備促進事	集				有	
Г				所属コード				所	属名			
ı		担	当	531870	建設緑政局原	达域道路整備室						
Г			Wa 0 0	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービ	ス等	分類1(市民サービス等)		分類2(内部事務)	
	Ē	実施	期间	_	_	の分類	- 1		その他		_	
		実施	形態	□ 市が直接実施	□ 一部委託	□ 全部委託	託·指定	管理 □	〕ボランティア等との)協働 ☑ そ	の他	
		実施	根拠	☑ 国・県の制度 □ 国・県の制度+市独自の制度 □ 市独自の制度								
ı	(法令•要綱等)			道路法50条								
Г	総合計画と連携する計画等			まち・ひと・しごと創	生総合戦略、都市記	†画マスタープラン	⁄、緑の	基本計画、網	総合都市交通計画			
Г	行財政	改革.	プログラムに	改革項目 課題名								
П	関連	車する	課題名									
Г			年度	H27₫	F度	H28年度			H29年度			
П			干及	予算額	決算額	予算額	決算	額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
н			事業費 A	481,881	296,794	482,984		390,426	3,232,984	983,181		
П	予決算	財	国庫支出金	0	-	0		-	0	0		
П	(単位:	源	市債	432,000	-	480,000		-	2,907,000	980,000		
П	千円)	内	その他特財	0	-	1,103		-	1,103	1,300		
		訳	一般財源	49,881	-	1,881		-	324,881	1,881		
			人件費 [※] B			20,437		20,437	0	0	0	
			総コスト(A+B)			503,421		410,863	3,232,984	983,181	0	
	人	工(単	位:人)			2.4	11					
Κ.	人件費は、1	各年度	の予算における頭	戦員1人当たり人件費	まに、各年度の人工	を乗じて算出した	参考値で	です。				

計画(Plan)								
	政策	総合的な交通体系を構築する						
政策体系	施策	広域的な交通網の整備						
	直接目標	首都圏における円滑な交通網を整える						
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	直轄国道(1、15、	246、357、409号) 及び首都圏の高速道路						
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	広域的な幹線道路	域的な幹線道路網の整備を促進し、首都圏全体の都市構造の形成や本市の交通機能強化を図ります。 等関係機関と協議・調整を行い、広域的な幹線道路の整備等を促進します。						
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような 手段で実施しているか)	国等関係機関と協							
今年度の事業の取組内容 (具体的に <u>今年度</u> どのような活動を するのか) ①国道357号(多摩川トンネル区間)の整備促進 ②川崎駅周辺の交通円滑化に向けた協議・調整 ③高速道路の新たな料金体系導入等に関する関係機関との協議・調整								

取	上記「 4 組内容	今年度	の事業の する達成度	3	1. 目標を入ざく 2. 目標を上回っ 3. ほぼ目標どお	って達成	4. 日標 5. 目標		うた 下回った			
「 <u>数</u> (記「当該年 直等でよ できる取	F度の取 り具体的 <u>組</u> 」、又()実績等 組内容」に対し、 に実績を示すこ は「 未達成部分 」 た部分」を記載)	目標どおり達成できる	₹L <i>†</i> =。							
指	漂分類	娄	対値で事業の	実績・効果等を把	握できる指標	(指標の説明)	目	標·実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
			I					目標				
ľ		説明						実績				
2								目標				
		説明						実績				
			I					目標				
3		説明						実績				
								目標				
4		説明						実績				

評	価(の	Check)											
事 (国・	県・他団体の	社会環境の変化 動向や法改正、規 印など)	国道357号 平成28年4	の多摩川ト 月から「首	·ンネル 都圏の	区間につい [・] 新たな高速〕	ては、 道路料	平成28年2月に事業着手されました。 科金」が導入されました。					
事	業の見直	し・改善内容	□ 実施	(直近)	Н	年度	Ø	未実施					
	※過去に見	見直し・改善内容 直した履歴も記載 場合は記載											
				評	価項目				評価				
		【市民のニーズ】 事業を取り巻く環	環境の変化等	こより、事ま	業に対す	するニーズヵ	「薄れ	ていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a			
	必要性	【市が実施する必 他都市で、民間		提供してい	る事例	がないか?			a. ない b. ある	а			
		評価の理由		ル工事に向けた調査・設計が行われるな 或的な幹線道路網の整備促進に向けたI		るため、							
	有効性	【成果】 活動結果(活動持	指標等)に対し	-事業の成	果(成身	果指標等)は	順調	に上がっているか?	a. 上がっている b, 徐々に上がっている c. 上がっていない	b			
	1331II	評価の理由	国道357号 <i>の</i> ます。	多摩川トン	ノネルを	始めとする	広域的	内な幹線道路網の整備に向けた取組が追	・ Éめられており、成果は徐々に上	がってい			
		【 民間の活用 】 委託や指定管理	者制度など、	実施手法Ⅰ	こついて	て民間活用に	こより:	コストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a			
		【事業手法等の見事業の成果を維 よる事務改善の可	持しながら、		仕様の	見直しなどに	こよる	経費削減や事務手続きの見直しなどに	a. 可能性はない b. 可能性はある	b			
	効率性	【質の向上】 事業を適正な(過 部(職員・組織)の						行いながら、市民サービスや市役所内	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b			
		・国等関係機関との協議・調整については、民間活用の余地はありません。 ・国道357号の多摩川トンネルを始め、その整備には膨大が事業が見込まれることから、事業費の縮減や費用負担の平準化について検討が必要です。 ・現行体制の中で、創意工夫を行い、国等関係機関との協議・調整を円滑に進めていくことが必要です。											
		貢	献度区分					上記「有効性」の成果等を踏まえ左記	区分を選んだ理由				
	E策への 貢献度	への A. 貢献している 国営257号の名席川いさまな地がしてスロボがかか始営攻綱の敦雄に向けた取組が美宝に進めた											
		•											

改善(A	(ction			
	方	向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業 の方向性	Ⅱ. 改善しなか Ⅲ. 事業規模!			国道357号の多摩川トンネルについては、トンネル工事に向けた調査・設計を実施しており、着実に事業の効果が出ているため、引き続き、国等関係機関との協議・調整を進めるなど、広域的な幹線道路網の整備促進に向けた取組を進めます。
A 44	変更 (次年度 の記		計画上	
今後の事業の方向性を 踏まえた次年度の計画上 変更箇所		:の計画上の 変史 <u>18</u>		
		変更の	理由	

事業の	概引	Ę							
		-i 41b	事務事業コード			事務事業名			実施計画の記載
1	事務	事業	40701040	川崎縦貫道	1路の整備事業				有
			所属コード			所	属名		
	担	当	531870	建設緑政局原	広域道路整備室				
			事業開始年度	事業終了年度	事務・サービ	プログラス 学	市民サービス等)	分類2(内部事務)
	実施	期間	_	_	の分類		その他		_
	実施	形態	□ 市が直接実施	□ 一部委託	壬 🗌 全部委託	託·指定管理 [〕 ボランティア等との	0協働 ☑ そ	の他
	実施	根拠	□ 国・県の制度	☑ 国・	・県の制度+市独国	自の制度 □	市独自の制度		
	(法令	҈•要綱等)							
総合計画	iと連	携する計画等	まち・ひと・しごと創む	生総合戦略、都市調	計画マスタープラン	v、環境基本計画、	総合都市交通計画		
行財政	改革:	プログラムに	改革項目 課題名						
関連	車する	課題名							
		/r ==	H27年	F度	H28:	年度			
		年度	予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額
		事業費 A	60,332	0	66,000	9,205	61,000	14,000	
予決算	財	国庫支出金	46,000	-	46,000	-	46,000	0	
(単位:	源	市債	0	_	0	_	0	0	
千円)	ᇫ	その他特財	0	-	0	-	0	0	
	訳	一般財源	14,332	-	20,000	_	15,000	14,000	
		人件費 [※] B			19,419	19,419	0	0	0
	i	総コスト(A+B)			85,419	28,624	61,000	14,000	0
人	工(単	位:人)			2.2				
						4 + + - +			

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画(Plan)		
	政策	総合的な交通体系を構築する
政策体系	施策	広域的な交通網の整備
	直接目標	首都圏における円滑な交通網を整える
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	川崎縦貫道路	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	広域的な道路ネッ	トワークの整備を進め、本市の都市機能の強化を図ります。
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような 手段で実施しているか)	I期事業の早期	を備及びⅡ期計画の早期具体化に向け、国等関係機関と協議・調整を行うなどの取組を推進します。
今年度の事業の取組内容 (具体的に <u>今年度</u> どのような活動を するのか)	② I 期事業の国道	を部(大師ジャンクション〜国道15号間)の整備に向けた取組の推進 道409号(殿町〜国道15号)の街路先行整備等の促進 15号〜東名高速道路間)の早期具体化に向けた取組の推進

取組			争業の	3	2. 目標を上回っ 3. ほぼ目標どま		5. 目标	票を大きく	下回った			
「 <u>数値</u> とが・	記「当該年 直等でよ り できる取	り具体的 に 組」、又は 達成できた	内容」に対し、 二実績を示すこ 「 未達成部分 」 二部分 」を記載)	目標どおり達成できる								
指板	票分類	数	値で事業の	実績・効果等を把	!握できる指標	(指標の説明)	E	標·実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
								目標				
		説明						実績				
2								目標				
		説明						実績				
								目標				
3		説明						実績				
								目標				
4		説明						実績				

評	価(の	check)												
	県・他団体の	社会環境の変化 動向や法改正、規 ロなど)	平成28年2 協議会」が設			₿・川崎市が	意見交	換、検討す	る場として	、「東京外	かく環状	道路(東名高速•湾)	岸道路間)計	画検討
事	業の見直	し・改善内容	□ 実施	(直近)	Н	年度	Ø	未実施						
	※過去に見	見直し・改善内容 直した履歴も記載 場合は記載												
				評	価項目							Ŧ	平価	
		【市民のニーズ】 事業を取り巻く環	環境の変化等に	こより、事業	業に対す	するニーズた	「薄れて	ていないか?	?			a. 薄れていない b. 薄れている		а
	必要性	【市が実施する必 他都市で、民間等		是供してい	る事例	がないか?						a. ない b. ある		а
		評価の理由										早期具体化に向け 国等関係機関と協請		
	有効性	【成果】 活動結果(活動持	指標等)に対し	事業の成	果(成身	果指標等)は	順調に	上がってい	るか?			a. 上がっている b, 徐々に上がっ c. 上がっていな		b
	13793	評価の理由	I 期事業のほ がっています		の整備	iについては	、国が	エ事を進め、	、平成28年	F度は旭町	地区で道	i路改良を実施する	など、成果は	徐々に上
П		【 民間の活用 】 委託や指定管理	者制度など、	実施手法Ⅰ	こついて	て民間活用に	こより〓	ストを削減っ	できる余地	也があるか [、]	?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	٠	С
		【事業手法等の見 事業の成果を維 よる事務改善の可	持しながら、勢		仕様の	見直しなど(こよる糸	圣費削減や 事	事務手続き	きの見直し	などに	a. 可能性はない b. 可能性はある		b
	効率性	【質の向上】 事業を適正な(過 部(職員・組織)の						ういながら、	市民サー	ビスや市役	设所内	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	,	b
		評価の理由	・平成28年2月 取組を進める	目に東京を 必要があ	かく環 ります。	状道路(東	名高速	~湾岸道路	·間)計画村	6計協議会	がされた	民間活用の余地はことから、その検討 とが必要です。		
			献度区分					上記「有効	性」の成り	果等を踏ま	え左記区	(分を選んだ理由		
施策への 貢献度 A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い B I 期事業の国道409号の整備については、国が工事を進めており、II 期計画についても、早期具には、国等への要請活動を実施するなど、一定程度の施策への貢献はありました。									体化に向					

改善(A	ction)			
	方	向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業 の方向性	Ⅱ. 改善しなか Ⅲ. 事業規模!			I 期事業の国道409号の整備については、国が工事を進めており、II 期計画についても、早期具体化に向け、国等への要請活動を実施するなど、着実に事業の効果が出ているため、引き続き、川崎縦貫道路の整備促進に向け、国等関係機関と協議・調整を進めます。
		亦亩	前	
		変更<u>前</u> (次年度計画上 の記載)		
今後の事業の方向性を 踏まえた次年度の計画上の 変更箇所				
		変更の	理由	

施策評価シート(第1期実施計画 中間評価)

1 施策の概	发 要										
	基本政策(1層)	活力と魅力あふれる力強い都市づくり									
政策体系上	政策(2層)	総合的な交通体系を構築する	計画当初値 (H27年)	直近実績値 (H28年度)	最終目標値 (H37年)						
の位置づけ	中央 🖺	新便性の高いまちだと思う市民の割合 62.0% 64.2%									
	実感指標②										
施策	施策コード	施策名									
(3層)	40702000	市域の交通網の整備									
担当	組織コード	所属名									
, <u> </u>	531830	建設緑政局総務部企画課									
関係課	まちづくり局計画部都	市計画課、建設緑政局道路河川整備部道路整備課、建設緑政局道路河川整	^E 備部道路施設調	ŧ							
他束の概要	性を総合的に検証し、 果的な整備を進めは、 慢性的な渋滞は、 に大きく関的かつ即切い の生活利便性の低下	都市機能の強化など都市の活力を支える都市計画道路については、今後の: 必要に応じて見直しを進めるとともに、実行性の高い「道路整備プログラム」「 す。 大きな経済損失を招くとともに、環境の悪化や安全性の低下、加えて、路線バ、課題です。一方で、渋滞の基本的な対策である道路ネットワークの形成には、 的な対策などにより、効率的・効果的に渋滞緩和を図ります。 一交通渋滞の原因となるとともに、路線バスの定時運行の支障となっています。 で、一次通渋滞の原因となるとともに、路線がスの定時運行の支障となっています。 、さらに、災害時には避難や物資輸送の障害が想定されるなど、さまざまな誤 ため、連続立体交差事業の推進など、本市の都市構造やまちづくりにまで効果	基づいた「選択 スの定時性の低ー定の期間を要す また、高齢者や込題の要因となって	と集中」による 下など、市民生 することから、: 通学児童の安 こいます。こう!	効率的、効 ミ活の豊かさ 交差点 全性や地域 した交通課題						
直接目標	自動車での下	「内交通を円滑化する									

		実施計画に位置付けた指標名(指標の説明)	現状値(年度)	目標·実績	H28年度		1	H29年度	単位
		都市計画道路進捗率	68	目標値@	_		【参考	71%(H37)	%
	1	11111111111111111111111111111111111111	00	実績値し	_		-		
	'	指標の 都市計画道路の完成延長(207km)/都市計画道路の計画延長	H26	達成率(b/a)	_		_		1
		説明 (305km)×100(%)	1120	指標達成度 ※1	-			-	増源
		市内幹線道路における混雑時(朝タピーク時)の平均	16.9	目標値@	_		【参考】	17.8km/h(H37)	km/
	2	走行速度	10.9	実績値し	-			-	
成		指標の H22道路交通センサス値	H26	達成率(b/a)	_			_	/
果指標		説明 HZZ道路交通センザス値	1120	指標達成度 ※1	_			_	増派
指				目標値@					
漂	3			実績値し					
		指標の		達成率(b/a)					
		説明		指標達成度 ※1					
				目標値②					
	4			実績値し					
	,	指標の		達成率(b/a)					
		説明		指標達成度 ※1					
		その他数値で把握できる補足指標(指標の説明)		実績	H27年度	H28	年度	H29年度	単位
	1	指標の説明		実績					
		נשתם							╁
	2	指標の		実績					
	_	制御機の		23.20					

について記載)

- (取組を進めたこと ●元木交差点の渋滞対策実施(最大通過時間 3分58秒短縮(5分48秒→1分50秒)、最大渋滞長 70m減少(170m→100m))

指標等の

を含めて記載)

成果分析 ●都市計画道路進捗率及び市内幹線道路における混雑時(朝夕ピーク時)の平均走行速度については、道路整備プログラムに基づく効率的・ (指標の目標値達成 効果的な道路整備や交差点な良などの渋滞対策等を進めており、各事業が着実に進捗していることから、平成28年度の成果指標は設定して を阻む外的要因等 おりませんが一定の成果があったと考えます。

3	施策を構成す	る主	な事務事業の評価							
	事務事業コード				事業費	(千円)	事業の			
番	〒初〒木→ 1	サービ	事務事業の概要	ナル取組の中値	予算額	決算額	達成度	施策へ	今後の	
号	事務事業名	ス分類	(簡潔に記載)	主な取組の実績	H27年度 H28年度(※決算額は見込) H29年度			の貢献 度	事業の 方向性	
	40702010				4,652	3,815				
1	都市計画道路網調査	その他	将来の都市構造を支える、適切な都市計 画道路網への対応に向けた検証を進めま す。	●都市計画道路網のあり方に基づく見直しの考え方の策定	5,000	5,423	4	A 貢献して いる	I 現状のま ま継続	
	事業		,		2,700				S-MELTINE	
	40702020		「道路整備プログラム」の適切な進行管理		11,532	7,916				
2	道路計画調査事業	その他	を行うとともに、各種調査の実施、計画的 な道路整備に向けた調査・検討を進めま	●道路整備プログラムに基づく進行管理 ●新たな渋滞対策の策定に向けた調査・検討 ●基礎データ構築に向けた調査の実施	12,383	10,366	3	A 貢献して いる	I 現状のま ま継続	
	担卸計四調正字来		す。 	●金属 / 大将来に向けた副星の大郎	10,745				S-MELTINE	
	40702030		都市計画道路などの幹線道路網の構築と	●世田谷町田線の工事施工及び用地交渉	7,508,686	5,499,144			,	
3	道路改良事業	その他	ともに地域特性を踏まえた道路拡幅、歩道 整備などにより道路交通環境の改善を進	●東京丸子横浜線の工事施工及び用地交渉●丸子中山茅ヶ崎線の工事施工及び用地交渉●苅宿小田中線【I期】の完成	8,159,353	6,421,579	3		I 現状のま ま継続	
	担 时以及手来		めます。	●国道409号ほか12路線の用地交渉等による事業推進	6,545,487				S-MELTINE	
	40702040				0	0				
4	渋滞対策事業	その他	早期に効果発現が期待できる交差点改良 などの渋滞対策を進めます。	●本町踏切の対策実施 ●元木交差点の対策効果検証の実施 ●稲生橋交差点の交通管理者等との協議・調整の実施	60,301	19,432	3		I 現状のま ま継続	
	汉 帝列 泉 季 未				98,910				S-14E-17E	
	40702050			●等々力大橋の工事着手に向けた河川協議及び準備工事の実	41,878	132,970				
5	100,11. 7 44. 111.44.41	その他	橋りょうの新設・架け替えにより道路ネット ワークの形成・強化を図ります。		200,915	72,254	3		I 現状のま ま継続	
	橋りょう整備事業			質調査、用地測量の実施	624,571			いる	ま胚統	
	40702060		渋滞緩和、踏切事故の解消、分断された	●1期区間(小島新田~東門前)の工事を推進	1,970,311	1,401,189		_		
6	京急大師線連続立体	その他	地域の一体化による利便性の向上などに 向けて、京浜急行大師線の連続立体交差	●1期区間(東門前〜川崎大師 鈴木町すり付け)の工事着手に向けた関係機関との協議調整	6,522,904	5,383,962	3	B やや貢献 している	I 現状のま ま継続	
	交差事業		化を進めます。	●2期区間(川崎大師~京急川崎)の事業環境の整理	6,561,658				S-MELTINE	
	40702070		渋滞緩和、踏切事故の解消、分断された	■古参ルーウは TB40の 環リ マ ぬけぬかんとっこ はは	71,200	93,679			_	
7	JR南武線連続立体交	その他	地域の一体化による利便性の向上、歩行 ●事業化に向けた取組の一環として、地域勉強会を6回、地域 者等の安全性向上など暮らしやすいまち の実現に向けたJR南武線の連続立体交 ●関連道路の予備設計や関係機関との協議、調整		98,175	21,120	3	B やや貢献 している	Ⅱ 改善しな がら継続	
	差事業		差化の取組を進めます。	TO STATE OF THE PARTY OF THE PA	40,175				> 172-196	

4 施策の過	進捗状況		
	区分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
進捗状況(指標等の成果を中 心に施策を構成す る事務事業の評価 等から総合的に評	A. 順間に推移 (目標達成している) B. 一定の進捗がある (目標達成に向けて進捗している) C. 進捗は遅れている (目標達成が遅れる可能性がある) D. 進捗は大幅に遅れている (目標達成が難しい可能性がある)	В	●配下の事務事業の取組は、概ね掲げた目標どおりに進捗しています。 ●都市計画道路進捗率及び市内幹線道路における混雑時(朝夕ピーク時)の平均走行速度については、道路整備プログラムに基づく効率的・効果的な道路整備や交差点改良などの渋滞対策等を進めており、各事業は着実に進捗しています。平成28年度及び平成29年度の成果指標は設定しておりませんが、第3期実施計画(平成37年度)の目標達成に向けて事業を推進します。 ●都市計画道路網調査事業については、都市計画道路網のあり方について、より効率的かつ実効性の高い取組を進めるため、関連する「総合都市交通計画」の見直しと連携し、平成29年度に「都市計画道路網のあり方に基づく見直し方針」を策定することとしました。 ●渋滞対策事業については、本町踏切と元木交差点の対策は完了しました。稲生橋交差点については、引続き交通管理者等と協議・調整を進め対策を実施していきます。

5 今後の方	5向性		
	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
(<u>手段は妥当か?</u>)	I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する) Ⅲ. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) Ⅲ. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) Ⅳ. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	П	●都市計画道路網調査事業・道路計画調査事業・道路改良事業・渋滞対策事業・橋りょう整備事業・京急大師線連続立体交差事業については、道路ネットワークの形成に向け着実に進捗していることから、今後も継続して取組を進めていきます。 ●JR南武線連続立体交差事業については、地域とのコミュニケーションについて、きめ細かな説明や意見交換の手法を検討して取り入れるなど、更に改善を図りながら、今後も継続して取組を進めます。

事業の	概引	E									
			事務事業コード			事系	多事業名			実施計画の記	載
	事務	事業	40702010	都市計画道	路網調査事業					有	
	-		所属コード				所	属名			
	担	当	502100	まちづくり局計	十画部都市計画課						
		45 BB	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービ	ス等	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)	
	実施	期間	_	_	の分類 その他			_			
	実施	形態	☑ 市が直接実施	☑ 一部委託	□ 全部委割	托•指定	管理 □] ボランティア等との	D協働 口 そ	の他	
	実施	根拠	□ 国・県の制度	✓ 国·	県の制度+市独自	自の制度	₹ □	市独自の制度			
	(法令	҈•要綱等)	都市計画法運用指統	ì							
総合計画と連携する計画等		携する計画等	まち・ひと・しごと創生	まち・ひと・しごと創生総合戦略、都市計画マスタープラン、環境基本計画、総合都市交通計画、第2次道路整備フ							
行財政	改革	プログラムに		改革項目				課	題名		
関注	連する	5課題名	2(13) 市民サービ	ごス等の再構築	30 都市計			画道路網のあり方板	 食討		
		年度	H27年	度	H28年度				H29年度		
		干及	予算額	決算額	予算額	決算	質(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
		事業費 A	4,652	3,815	5,000		5,423	2,000	2,700		
予決算	財	国庫支出金	0	-	0		-	0	0		
(単位:	源	市債	0	-	0		-	0	0		
千円) 内 その他特財		0	-	0		-	0	0			
	訳	一般財源	4,652	_	5,000			2,000	2,700		
		人件費 [※] B			12,296		12,296	0	0		0
	i	総コスト(A+B)			17,296		17,719	2,000	2,700		0
		单位:人)			1.4						
ノール・連ュー	성 노크	エのマダーナバナスド		リー タケ中の して	ナモドア管山」ナー	4 本はっ	~ _				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計 画(Plan)		
	政策	総合的な交通体系を構築する
政策体系	施策	市域の交通網の整備
	直接目標	自動車での市内交通を円滑化する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	都市計画道路以外	トの道路とともに、体系的、機能的に連携したネットワークを形成を目指します。
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような 手段で実施しているか)		D変化を踏まえると道路の必要性に変化が生じることも考えられるため、適時適切に都市計画道路網の検証を行 都市計画手続き等を行います。
今年度の事業の取組内容 (具体的に <u>今年度</u> どのような活動を するのか)	①「都市計画道路	網のあり方に基づく見直し方針」の策定

			の事業の する達成度	4	1. 目標を大きく 2. 目標を上回っ 3. ほぼ目標ども	て達成		標を下回っ 標を大きく				
「 <u>数</u>	記「当該年 値等でよ できる取	F度の取 り具体的 組」、又()実績等 組内容」に対し、 I に実績を示すこ は「 未達成部分 」 た部分」を記載)	平成29年度に、都市 道路網の見直しの考 取りまとめることで、。	え方・方針を整理し	、取りまとめ、平成	29年月	度に「総合者	都市交通計画」 <i>0</i>)見直しと連携し		
指	陳分類	娄	対値で事業の	実績・効果等を把	握できる指標	(指標の説明)	目標·実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
			I					目標				
1		説明						実績				
								目標				
2		説明						実績				
			I					目標				
3		説明						実績				-
								目標				
4		説明						実績				

評価(Check)								
(国・県・他団体の	社会環境の変化 動向や法改正、規 印など)	平成17年に されて以降、	長期未着 都市計画	手道路(可道路見	の建築制限(直しガイドラ	こついて インの分	での裁判において、損失補償が不要で 策定が各都市で行われています。	ある考え方は疑問である旨の補	足意見が出
事業の見直	し・改善内容	☑ 実施	(直近)	H 2	0 年度		未実施		
※過去に見	見直し・改善内容 直した履歴も記載 場合は記載	時間の経過	とともに、	道路に		能や役	都市計画決定後、長期に渡って事業 割が変化しているものも生じている可		
			i	平価項目				評価	
	【市民の二一ズ】 事業を取り巻く環	環境の変化等	こより、事	業に対	するニーズだ	が薄れて	こいないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
必要性	【市が実施する必 他都市で、民間		提供してし	ハる事例	がないか?			a. ない b. ある	a
	評価の理由	都市計画法 川崎市が必					じて計画の見直しを行うことが定められ あります。	1ており、今後も、都市計画決定材	権者である
有効性	【成果】 活動結果(活動持	指標等)に対し	事業の原	成果(成:	果指標等)は	は順調に	上がっているか?	a. 上がっている b, 徐々に上がっている c. 上がっていない	а
	評価の理由	これまで適用	・適切に	見直し作	作業を行って	おり、そ	-の結果を都市計画に反映しておりま	す 。	
	【 民間の活用 】 委託や指定管理	者制度など、	実施手法	まについ	て民間活用に	こよりコ	ストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	а
効率性	【事業手法等の見 事業の成果を維 よる事務改善の可	持しながら、		、仕様の	見直しなど(こよる経	R費削減や事務手続きの見直しなどに である。	a. 可能性はない b. 可能性はある	а
が生は	【質の向上】 事業を適正な(過 部(職員・組織)の						示いながら、市民サービスや市役所内	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	С
	評価の理由	適時・適切な す。	.見直しを	行うこと	で、効果的・	効率的	な都市計画道路網の形成を図る事が	でき、市民の交通環境の向上が	図られま
	黄	献度区分					上記「有効性」の成果等を踏まえ左言	区分を選んだ理由	
施策への 貢献度	A. 貢献してい B. やや貢献し C. 貢献の度名	る、ている	A	 社会: す。	経済条件の		ごに応じた適切な見直しを行うことで、		していま

改 善(A	ction)			
	方向性区分			実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業 の方向性	I. 現状のまま II. 改善しなお III. 事業規模 IV. 事業廃止 VI. 事業終了	ら継続 広大	Ι	引き続き、社会情勢の変化などに応じて、適切に計画の見直しを行うことが必要とされています。
	変り (次年度 の記 を で で で で で で で で で で で で で で で で で で		画上	「都市計画道路見直し方針」に基づく都市計画手続等の実施
踏まえた次年			の記載に	都市計画道路網のあり方に基づく見直しの実施方針の策定【変更】
		変更の現	理由 💮	関連する計画の検討作業と連携しながら、未着手路線だけでなく、非都市計画的手法による完成済み路線 の改良などを含めた、総合的な実施方針や、詳細な実施内容の検討を行い、その内容を公表することで、 市民の理解を得ながら効果的・効率的な交通体系の構築を行うことができる。

	事業の	概引	五										
Γ				事務事業コード			事務事業名			実施計画の記載			
ı	•	事務	事業	40702020	道路計画調	查事業				有			
ľ			416	所属コード			所	属名					
ı		担	当	531400	建設緑政局絲	総務部企画課							
Г			Wa 88	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービ	ス等 分類1	(市民サービス等)	分類2(内部事務)			
		夷虺	期間	_	_	の分類		_	政策推進計画等	F(策定·進行管理)			
		実施	形態	☑ 市が直接実施	☑ 一部委託	£ □ 全部委割	托·指定管理 [コ ボランティア等との	の協働 口 そ	の他			
実施根拠			根拠	□ 国・県の制度	□ 国・	県の制度+市独自	自の制度	市独自の制度					
(法令•要綱等)		҈ 要綱等)											
総合計画と連携する計画等		携する計画等	まち・ひと・しごと創生総合戦略、都市計画マスタープラン、環境基本計画、地球温暖化対策推進基本計画、総合都市交通計画、第 2次道路整備プログラム										
ľ	行財政i	改革:	プログラムに		改革項目			課	題名				
ı	関連	車する	課題名										
Γ			年度	H27年	度	H284	年度		H29年度				
ı			干疫	予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額			
ı			事業費 A	11,532	7,916	12,383	10,366	12,383	10,745				
	予決算	財	国庫支出金	0	-	0	_	0	0				
	(単位:	源	市債	0	-	0	_	0	0				
	千円)	ᇈ	その他特財	0	-	0	_	0	0				
		訳	一般財源	11,532	_	12,383		12,383	10,745				
		人件費 [※] B				51,728	51,728	0	0	0			
		i	総コスト(A+B)			64,111	62,094	12,383	10,745	0			
人工 (単位:人)						6.							
/	人件費は、各年度の予算における		競員1人当たり人件書	に 冬年度の人工	を垂じて質虫! た	糸字値です							

計 画(Plan)					
	政策	総合的な交通体系を構築する			
政策体系	施策	市域の交通網の整備			
	直接目標	自動車での市内交通を円滑化する			
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	人や物				
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	社会の産業・経済	活動を支える幹線道路の整備を進めることで、自動車での市内交通の円滑化を図ります。			
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような 手段で実施しているか)	「道路整備プログラム」の適切な進行管理を行うとともに、各種調査の実施、計画的な道路整備に向けた調査・検討を行い				
今年度の事業の取組内容 (具体的に <u>今年度</u> どのような活動を するのか)	①「道路整備プログラム」に基づく進行管理 ②基礎データ構築に向けた交通量調査等の実施 ③次期渋滞対策の策定に向けた調査・検討				

			の事業の する達成度	3	2. 目標を上回 3. ほぼ目標ど	って達成		票を大きく				
「 <u>数</u> (記「当該年 直等でよ ! できる取	F度の取 り具体的 組」、又は 達成でき	実績等 組内容」に対し、 に実績を示すこ は「 <u>未達成部分</u> 」 た部分」を記載)	目標どおり達成できる								
指	票分類	数	(値で事業の	実績・効果等を把	握できる指標	(指標の説明)	E	目標·実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
								目標				
1		説明						実績				
2								目標				
		説明						実績				
3								目標				
3		説明						実績				
4			-					目標				
		説明					\perp	実績				

評	評 価(Check)													
事(国	業を取り巻く 県・他団体の 制緩和	社会環境の変化 動向や法改正、規 ロなど)	都市計画道路 線道路には、 画的な道路	依然として	、交差	点や踏切に	おいて、	渋滞が発生	している	して他の大都市 ことなどから、市 必要です。	うに比べ 内交通(低い水準にある の円滑化などに	ことや、市 :向けては、	i内の幹 . 今後も計
4	事業の見直	し・改善内容	☑ 実施	(直近)	H 27	年度	口未	実施						
	※過去に見	見直し・改善内容 直した履歴も記載 場合は記載	H27年度:第	52次川崎市	方道路 整	を備プログラ	ムの策	Ė						
	評価項目													
		【市民のニーズ】 事業を取り巻く環	環境の変化等!	こより、事ま	美に対す	「るニーズが	薄れてし	いないか?				薄れていない 薄れている		а
	必要性	【市が実施する必 他都市で、民間等	等でサービス <u>!</u>								b.	ない ある		а
		評価の理由	た、慢性的な	渋滞は、ナ	きな経	済的損失を	招くとと	に、環境の	悪化や市	づく事業の執行 「民の安全性の 区的・効果的に没	低下など	、市民生活の	豊かさに大	
	有効性	【成果】 活動結果(活動持	指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?						b,	上がっている 徐々に上がっ ^っ 上がっていない		b		
		評価の理由	成果目標をほぼ達成している。今後は、新たな緊急渋滞対策箇所の抽出に向け、市内の主要な道路において渋滞の状況た上で次期緊急渋滞対策箇所を選定します。								兄を把握し			
		【 民間の活用 】 委託や指定管理	者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?						b.	余地はない 余地はある 既に実施済み		C		
	効率性	事業の成果を維	軟手法等の見直し】 業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどに 事務改善の可能性があるか?								可能性はない可能性はある		a	
	刈牛江										b.	余地はない 余地はある 既に実施済み		a
		評価の理由	社会経済環境 効果的な道路					路整備プロク	グラムの	改定や新たな緊	急渋滞	対策箇所の抽と	出を行い、3	効率的•
		貢	献度区分				L	記「有効性」	の成果	等を踏まえ左記	区分を達	悪んだ理由		
	施策への 貢献度	A. 貢献してい B. やや貢献し C. 貢献の度合	ている	Α	市内の す。)交通の円滑	化の実	現に向け、道	道路整備·	や渋滞対策を計	画的に	進めることで施:	策へ貢献し	ていま

改善(A	ction)				
	方	向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
今後の事業 の方向性					
		変更	前		
		(次年度計画上 の記載)			
今後の事業 踏まえた次年 変更	度の計画上の	変更 (上記計画上 対する変	の記載に		
		変更の	理由		

事業の	概引	Ę										
			事務事業コード			事務事	業名			実施計画の記載		
	事務	事 某	40702030	道路改良事	道路改良事業							
			所属コード				所.	属名				
	担	当	534100	建設緑政局道	路河川整備部道	路整備課						
		Wa 00	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービ	ス等	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)		
	実施	期间	_	_				その他		_		
実施形態			☑ 市が直接実施	□ 一部委託	□ 全部委託	託·指定管理	 □	〕ボランティア等との	の協働 口 そ	の他		
実施根拠			□ 国・県の制度 □ 市独自の制度									
(法令•要綱等)			道路法、都市計画法	.								
総合計画と連携する計画等		携する計画等	まち・ひと・しごと創生総合戦略、都市計画マスタープラン、環境基本計画、総合都市交通計画、第2次道路整備プログラム									
行財政	改革	プログラムに		改革項目				課	題名			
関	連する	課題名										
		年度	H27年	度	H28年度			H29年度				
		干及	予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額		
		事業費 A	7,508,686	5,499,144	8,159,353	6,4	21,579	8,206,448	6,545,487			
予決算	財	国庫支出金	2,960,036	-	3,127,389		-	3,127,389	2,086,335			
(単位:	源	市債	3,660,000	-	4,285,000		-	4,150,000	3,578,000			
千円)	ᇫ	その他特財	139,417	-	207,040		-	207,040	266,433			
	訳	一般財源	749,233	-	539,924		-	722,019	614,719			
		人件費 [※] B			347,934	3	47,934	0	0	0		
	総コスト(A+B)				8,507,287	6,76	9,513	8,206,448	6,545,487	0		
人工 (単位:人)					41.	03						

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

	計 画(Plan)									
		政	策	総合的な交通体系を構築する						
	政策体系	施	策	市域の交通網の整備						
		直接	妾目標	自動車での市内交通を円滑化する						
	事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、道	路利用者							
	事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	都市計画 ます。	部市計画道路などの幹線道路網の構築とともに、地域特性を踏まえた道路拡幅、歩道整備などにより道路交通環境の改善を図り ます。							
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような 手段で実施しているか) 都市計画法及び道路法に基づき、川崎市が管理する都市計画道路と一般国道・県道のうち主要地方道に指定され 事後で実施しているか)										
	今年度の事業の取組内容 (具体的に <u>今年度</u> どのような活動を するのか)	都市計画道路の整備推進 (①国道409号【市ノ坪・小杉・小杉御殿町 I 期・II 期・北見方】 (②東京丸子横浜線【市ノ坪】 (③丸子中山茅ヶ崎線【小杉御殿・蟻山坂】 (④宮内新横浜線【宮内・子母口】 (⑤世田谷町田線【登戸・片平・上麻生 I 期】 (⑥尻手黒川線【Ⅳ期】 (⑦苅宿小田中線【 I 期】の完成 (⑥丸子中山茅ヶ崎線【野川】の事業着手 ほか10路線の事業推進								

取	上記「4組内容	を年度した対	の事業の する達成度	3	1. 目標を入ざく 2. 目標を上回っ 3. ほぼ目標どは	って達成	4. 日標 5. 目標		うた 下回った			
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)				目標どおり達成できる	Eした。							
指	漂分類	数	値で事業の	実績・効果等を把	握できる指標	(指標の説明)	目	標·実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
								目標				
1		説明						実績				
2								目標				
Ľ		説明						実績				
								目標				
3		説明						実績				
4								目標				
+		説明						実績				

評	価((heck)											
	県・他団体の	社会環境の変化 動向や法改正、規 ロなど)											
事	業の見直	し・改善内容	□ 実施	(直近) Þ	I	年度	Ø	未実施					
	※過去に見	見直し・改善内容 直した履歴も記載 場合は記載											
	評価項目 評価												
		【市民の二一ズ】 事業を取り巻く環	境の変化等	こより、事業	に対す	ナるニーズが	薄れ	ていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a			
4	必要性	【市が実施する必 他都市で、民間等		a. ない b. ある	а								
評価の理由 道路交通環境改善の課題は継続しており、着実に事業を推進していく必要があります。													
	有効性	【成果】 活動結果(活動持	旨標等)に対し	,事業の成男	具(成果	具指標等)は	順調(こ上がっているか?	a. 上がっている b, 徐々に上がっている c. 上がっていない	b			
		事業用地の取得及び工事施工により整備進捗をはかっています。											
		【 民間の活用 】 委託や指定管理	】 管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?						a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	C			
	効率性	【事業手法等の見 事業の成果を維 よる事務改善の可	持しながら、身	a. 可能性はない b. 可能性はある	a								
	w r it	【質の向上】 事業を適正な(過 部(職員・組織)の		a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a								
本事業は、社会資本である道路整備を国土交通省の事業制度を基本として公共事業予算等支援を受けなが 路法に基づき実施するものです。 適正な執行体制により用地交渉・工事施工を実施し、着実に整備進捗を図りました。								算等支援を受けながら都市計画	法及び道				
		黄	献度区分					上記「有効性」の成果等を踏まえ左記	区分を選んだ理由				
	直策への 貢献度 A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い					関係地権者との交渉を進め道路整備に必要な用地を取得しました。また、取得が完了した箇所において電 泉共同溝や道路築造工事を執行し進捗を図ったことから、一定程度の施策への貢献はありました。							

改 善(Action)							
		方「	向性区分 .		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性		
	今後の事業 の方向性	I. 現状のまま継続 I. 改善しながら継続 II. 事業規模拡大 III. 事業規模ない III. 事業規模ない III. 事業規模ない III. 事業規模ない III. 事業規模ない III. 事業規模ない		引き続き、「第2次川崎市道路整備プログラム」に基づき、整備路線の重点化を図りながら、渋滞の著しい 交差点の先行整備など早期に事業効果の発現が図れるよう効率的・効果的に事業を推進するとともに、用 地交渉が難航・長期化する場合は土地収用法に基づく手続きも視野に入れ交渉を行います。			
		変更前 (次年度計画 の記載)		計画上			
	今後の事業 踏まえた次年 変更	度の計画上の	変更 (上記計画上 対する変	の記載に			
			変更の	理由			

		_											
事業の	概引	Ę											
			事務事業コード			事務事業	2		実施計画の記載				
•	事務·	事業	40702040	渋滞対策事	業				有				
			所属コード				所属名						
	担	当	531400	建設緑政局総	総務部企画課								
	cts +/r-	₩0 88	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービ	ス等 分	頁1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	実施	州间	_	_	の分類		その他		_				
	実施	形態	☑ 市が直接実施	☑ 一部委託	□ 全部委割	f·指定管理	□ ボランティア等と	の協働 口 そ	の他				
実施根拠			□ 国・県の制度	」 国・県の制度 □ 市独自の制度									
(法令•要綱等)			国土交通省が中心	となり、本市も委員	となる首都圏渋滞	ボトルネック対	策協議会						
総合計画	と連	携する計画等	まち・ひと・しごと創生総合戦略、都市計画マスタープラン、総合都市交通計画										
行財政	改革.	プログラムに		改革項目 課題名									
関連	車する	課題名											
		年度	H27⁴	年度 📗	H284	拝度		H29年度					
		十段	予算額	決算額	予算額	決算額(見込	計画事業費	予算額	決算額				
		事業費 A	0	0	60,301	19,4	132 60,301	98,910					
予決算	財	国庫支出金	0	-	0		- 0	0					
(単位:	源	市債	0	-	0		- 0	0					
千円)	内	その他特財	0	-	0		- 0	0					
	訳	一般財源	0	-	60,301		- 60,301	98,910					
		人件費 [※] B			6,360	6,3	360 0	0	0				
	総コスト(A+B)				66,661	25,7	92 60,301	98,910	0				
人工 (単位:人)					0.7				·				
/ 人供费什 /	夂乍由	の子質にむける関	91日1人 4 たし 人 4 身	男に 久在府の人工	た垂じて管 中した:	糸去値です							

計画(Plan)						
	政策	総合的な交通体系を構築する				
政策体系	施策	市域の交通網の整備				
	直接目標	自動車での市内交通を円滑化する				
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	人や物					
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	慢性的な渋滞を綴	農和し、自動車での市内交通の円滑化を図ります。				
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような 交差点改良など局所的かつ即効的な対策などにより、効率的・効果的に渋滞緩和を図ります。 手段で実施しているか)						
今年度の事業の取組内容 (具体的に <u>今年度</u> どのような活動を するのか)	①交差点改良など緊急渋滞対策の実施 ・本町踏切 ・元木交差点 ・稲生橋交差点					

取組内容の実績等 (上記『当該年度の取組内容』に対し、「教値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未選成部分計 若しくは「より達成できた部分」を記載) 指標分類 数値で事業の実績・効果等を把握できる指標(指標の説明) 目標・実績 1 説明 目標 2 説明 実績 3 説明 実績 4 説明 実績	Į			り争業のする達成度	3	2. 目標を上回っ 3. ほぼ目標どお	て達成		標を大きく				
1 目標 2 財明 3 目標 3 目標 4 其續	آؤ رخ	記「当該年 対値等でよ ができる取	≢度の取組 り具体的に 組 」、又は 達成できた	H内容」に対し、 二実績を示すこ 「 未達成部分 」 三部分 」を記載)	稲生橋交差点につい	ては、交通管理者	等と協議・調整を	進めまし					
1 説明 実績 2 説明 実績 3 説明 実績 4 計別	拊	標分類	数	値で事業の	実績・効果等を把	!握できる指標	(指標の説明)	目標·実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
2 目標 説明 実績 3 目標 説明 実績									目標				
2 説明 実績 3 目標 説明 実績	Ľ		説明						実績				
説明 実績 3 目標 説明 実績									目標				
3	Ľ		説明						実績				
説明 実績 目標									目標				
4	3		説明						実績				
									目標				
	4		説明						実績				

評	価((heck)										
	県・他団体の	社会環境の変化 動向や法改正、規 ロなど)		道路には、依然 くことが求め			切においっ	て、渋滞が	発生していることが	から、早期の	の効果発現を目的と	した渋滞対策
事	業の見直	し・改善内容	☑ 実施	(直近) H	25	年度 🗆	未実施					
	※過去に見	見直し・改善内容 直した履歴も記載 場合は記載	H25年度:第	92次緊急渋滞	带対策	策策定						
				評価項	頁目						評価	
		【市民のニーズ】 事業を取り巻く環	環境の変化等に	により、事業に	対す	うニーズが薄れ	ていない。	か?			薄れていない 薄れている	а
4	び要性 【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?										ない ある	a
		評価の理由 慢性的な渋滞は、大きな経済的損失を招くとともに、環境の悪化や市民の安全性の低下など、市民生活の豊かさに大きく要課題であり、交差点改良など局所的かつ即効的な対策により効率的・効果的に渋滞緩和を図る必要があります。										
	有効性	【成果】 活動結果(活動持	旨標等)に対し	,事業の成果(成果	!指標等)は順調	に上がって	ているか?		b,	上がっている 徐々に上がっている 上がっていない	b
		評価の理由	引き続き緊急	急渋滞対策を	実施し	していくことで市内	内の交通の)円滑化を	図ることができます	t.		
		【 民間の活用 】 委託や指定管理	者制度など、	実施手法につ	いて	民間活用により	コストを削	減できる余	地があるか?	b.	余地はない 余地はある 既に実施済み	С
	効率性	【事業手法等の見 事業の成果を維 よる事務改善の可	持しながら、身		兼の 見	見直しなどによる	経費削減	や事務手線	きの見直しなど		可能性はない 可能性はある	а
	WI T II	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内 部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?										a
	緊急渋滞対策は、交通管理者と連携を図り取組みを進めていますが、今後も引続き交通管理者等と連携を図りながら取組を ていきます。											ら取組を進め
		黄	『献度区分 上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分							記区分を過	選んだ理由	
	i策への 貢献度											

改善(A	ction)			
	方「	1性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業 の方向性	I. 現状のまま継続 Ⅲ. 改善しながら継続 Ⅲ. 事業規模拡大 Ⅳ. 事業規模縮小 V. 事業廃止 Ⅵ. 事業終了		I	市内の交通の円滑化の実現に向け、今後も引き続き緊急渋滞対策を進めていきます。
	の事業の方向性をたた火年度の計画上の		<u>前</u> 計画上 哉)	
踏まえた次年			<u>後</u> .の記載に 更点)	
		変更の	理由	

事業の	概引	E										
			事務事業コード			事務事業名			実施計画の記載			
	事務	事業	40702050	橋りょう整備	事業				有			
			所属コード			月	属名					
	担	当	534100	建設緑政局道	建設緑政局道路河川整備部道路整備課							
		40 BB	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービ	ス等 分類1	(市民サービス等)	分類2(内部事務)			
	実施期間		_	_	の分類	-	その他		_			
	実施	形態	☑ 市が直接実施	□ 一部委託	□ 全部委割	モ・指定管理	コ ボランティア等との	の協働 口 そ	の他			
	実施	根拠	☑ 国·県の制度	□ 国・!	県の制度+市独自	ョの制度 □	市独自の制度					
	(法令	҈•要綱等)	道路法、河川法									
総合計画	で連	携する計画等	まち・ひと・しごと創生	上総合戦略、都市計	画マスタープラン	、環境基本計画、	総合都市交通計画、	第2次道路整備ス	プログラム			
行財政	改革:	プログラムに		改革項目			課	題名				
関	連する	課題名										
		左车	H27年	度	H28 ⁴	丰度		H29年度				
		年度	予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額			
		事業費 A	41,878	132,970	200,915	72,254	942,215	624,571				
予決算	財	国庫支出金	0	-	59,400	_	444,000	252,120				
(単位:	源	市債	30,000	-	77,000	_	423,000	303,000				
千円)	ᇈ	その他特財	0	-	550	_	8,000	5,916				
	訳 一般財源		11,878	-	63,965	_	67,215	63,535				
		人件費 [※] B			41,722	41,722	0	0	0			
	i	総コスト(A+B)			242,637	113,976	942,215	624,571	0			
人	工(単	位:人)			4.9	2						
人供费什	久年氏	Fの予質におけるB	融昌1人 坐たけ 人 供 費	に 冬年度の人工	た垂じて質中! たっ	会 老 値 で す						

計 画(Plan)							
	政策	総合的な交通体系を構築する					
政策体系	施策	市域の交通網の整備					
	直接目標	自動車での市内交通を円滑化する					
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	(仮称)等々力大楠	(仮称)等々力大橋、末吉橋					
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	橋りょうの新設・架	け替えによる道路ネットワークの形成・強化を図ります。					
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような 手段で実施しているか))については、東京都との協働事業において多摩川に架かる新橋の整備を進めます。また、末吉橋についても、 『業において鶴見川に架かる老朽化した橋梁の架け替え整備を進めます。					
今年度の事業の取組内容 (具体的に <u>今年度</u> どのような活動を するのか)	①(仮称)等々カス②末吉橋架け替え	大橋の工事着手 E工事に向けた調整					

			の事業の する達成度	3	1. 目標を大きく 2. 目標を上回っ 3. ほぼ目標ども	って達成	4. 目標 5. 目標		った 下回った			
「 <u>数</u> ・	記「当該 ^会 値等でよ 「できる取	F度の取 り具体的 組∫、又∫ 達成でき	ま「 未達成部分 」 た部分」を記載)	目標どおり達成でき								
指	標分類	娄	対値で事業の	実績・効果等を把	2握できる指標	(指標の説明)	目	標·実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
								目標				
1		説明						実績				
2								目標				
		説明						実績				
			I					目標				
3		説明						実績				
			1					目標				
4		説明						実績				

評価(の	Check)										
(国・県・他団体の	社会環境の変化 動向や法改正、規 ロなど)	(仮称)等々力	大橋につい	いては、平成29	9年2月に	東京都と施行協定	官を締結。				
事業の見直	し・改善内容	□ 実施	(直近) F	I 年度	Ø	未実施					
※過去に見	見直し・改善内容 直した履歴も記載 場合は記載										
			評価								
	【市民の二一ズ】 事業を取り巻く珍	環境の変化等(こより、事業	に対するニー	a. 薄れていない b. 薄れている	а					
必要性	【市が実施する必 他都市で、民間		是供している	る事例がないか	٧?			a. ない b. ある	a		
	評価の理由	市内外の拠りる必要があり		める交通機能の	の強化が	求められているこ	とから、橋梁整備による	京浜間の連携や都心アクセス	を向上させ		
有効性	【成果】 活動結果(活動:	指標等)に対し	?	a. 上がっている b, 徐々に上がっている c. 上がっていない	a						
	評価の理由	交通管理者とは交通計画協議を平成28年12月に完了し、平成29年2月には東京都と施行協定を締結するなど着実に事 進しています。									
	【 民間の活用 】 委託や指定管理	者制度など、	実施手法に	ついて民間活	用により	コストを削減できる	る余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	а		
効率性	【事業手法等の見事業の成果を維 よる事務改善の可	持しながら、身	手続きの見直しなどに	a. 可能性はない b. 可能性はある	а						
が平は	【質の向上】 事業を適正な(近 部(職員・組織)の					行いながら、市民	サービスや市役所内	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a		
	評価の理由			5る東京都及で 道路法に基づき			幹線道路整備を国土交	・通省の事業制度を基本としてなる。	公共事業予		
	貢	献度区分				上記「有効性」の	の成果等を踏まえ左記	区分を選んだ理由			
施策への貢献度	A. 貢献してい B. やや貢献し C. 貢献の度名	ている		関係地権者と 連携を図り事		る理解を頂くとともに、そ	れぞれ事業主体である東京都	・横浜市とも			

改善(A	ction)			
	方「	向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業の方向性 I. 現状のまま系 II. 改善しながら III. 改善とがら IV. 事業規模施 IV. 事業廃止 VI. 事業終了		ら継続 広大		引き続き、関係自治体とも連携を図りつつ「第2次川崎市道路整備プログラム」に基づき事業効果の発現が 図られるよう効率的・効果的に事業を推進していきます。
	変更 <u>「</u> (次年度計 の記載 後の事業の方向性を えた次年度の計画上の 変更箇所 変更		一画上	②末吉橋架け替え工事着手
踏まえた次年			の記載に	②末吉橋架け替えに向けた調整
		変更のヨ	理由	事業主体である横浜市が進めている河川管理者との協議・調整に遅れが生じ、平成29年度内に工事着手することが困難となったため。

事業の	概引	Ę										
	単位:源市債		事務事業コード			事務事業	3		実施計画の記載			
1	事務	事 業	40702060	京浜急行大	師線連続立体3	交差事業			有			
	-	414	所属コード				所属名					
	担	当	534100	建設緑政局	道路河川整備部道	路整備課						
		#0 BB	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービ	ス等 分類	[1(市民サービス等)	分類2(内部事務)			
	天 .他	期间	1988	_	の分類	_	その他		_			
	実施根拠 (法令·要綱等)		☑ 市が直接実施	□ 一部委託	£ □ 全部委割	托·指定管理	□ ボランティア等との	の協働 🗸 そ	·の他			
	実施	根拠	☑ 国・県の制度 □ 国・県の制度+市独自の制度 □ 市独自の制度									
	(法令	令·要綱等) 都市計画法、踏切道改良促進法 等										
総合計画	と連	携する計画等	まち・ひと・しごと創	生総合戦略、都市調	計画マスタープラン	、総合都市交通	動計画					
行財政	汝革:	プログラムに		改革項目			課	題名				
関連	車する	5課題名										
		左车	H27年	F度	H284	年度		H29年度				
		干及	予算額	決算額	予算額	決算額(見込	計画事業費	予算額	決算額			
		事業費 A	1,970,311	1,401,189	6,522,904	5,383,9	62 8,443,002	6,561,658				
予決算	BJ	国庫支出金	899,800	-	3,499,841		- 4,589,100	3,506,789				
(単位:		市債	928,000	_	2,653,000		- 3,432,000	2,655,000				
千円)		その他特財	48,643	-	98,831		- 127,275	5				
	訳	一般財源	93,868	-	271,232		- 294,627	399,864				
		人件費 [※] B			35,870	35,8	70 0	0	0			
	i	総コスト(A+B)			6,558,774	5,419,8	8,443,002	6,561,658	0			
人	工(単	位:人)			4.2	23						

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画(Plan)										
	政策	総合的な交通体系を構築する								
政策体系	施策	市域の交通網の整備								
	直接目標	自動車での市内交通を円滑化する								
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、道路利用者									
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	誰もが安心、安全	誰もが安心、安全に通行できる道路環境をつくるとともに、市内交通を円滑化します。								
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような 手段で実施しているか)	京浜急行大師線の	Dほぼ全線を地下化することにより、沿線にある14箇所の踏切を除却します。								
今年度の事業の取組内容 (具体的に <u>今年度</u> どのような活動を するのか)	②1期区間(東門前	新田~東門前)の事業推進 前~川崎大師 鈴木町すり付け)の工事に向けた調整 大師~京急川崎)に関する関係機関との調整								

			の事業の する達成度	3	1. 目標を大きく。 2. 目標を上回っ 3. ほぼ目標ども	て達成		目標を下回っ 目標を大きく				
「 <u>数</u> が	記「当該年 直等でよ できる取	F度の取 り具体的 組」、又「)実績等 組内容」に対し、 Iに実績を示すこ は「 未達成部分 」 た部分 」を記載)	目標どおり達成できる	ました 。							
指	課分類	娄	枚値で事業の	実績・効果等を把	握できる指標	(指標の説明)		目標·実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
	活動	大師毅	第1期沿線協	議会の開催				目標		1	1	
1	指標	説明	沿線の住民に、工事	に対する理解や協力を得るた	:め、町会長を通して工事	の進捗等の報告を行うも	の。	実績	1	2		回
2								目標				
		説明						実績				
								目標				
3		説明						実績				
								目標				
4		説明						実績				

評価((Check)						
(国・県・他団体	く社会環境の変化 の動向や法改正、規 緩和など)				ないことによる事故が即効対策済みの踏切でも発生しては 対策や抜本的な対策の実施など継続的な踏切対策が求め		改正するな
事業の見	直し・改善内容	☑ 実施	(直近) H	27	年度 二 未実施		
※過去に	な見直し・改善内容 見直した履歴も記載 そる場合は記載	設定し、先行 平成24年度 針としました。	して整備を行 :整備効果を	う方針 早期(い産業道路の踏切を先行して除却すべく、暫定整備区間(計としました。 こ発現させるため、全線を3区間に分割するとともに、鈴木 きない2期区間について、都市計画事業認可の変更に併	、町すり付けを取り入れ、整備を	
			評価	項目		評価	
	【市民の二一ズ】 事業を取り巻く理	環境の変化等に	こより、事業に	こ対す	るニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
必要性	【市が実施する必 他都市で、民間	がないか?	a. ない b. ある	a			
	評価の理由	帯、地域分断等の課題は継続しており、着実に事業を推進	進していく必要があります。				
有効性	【成果】 活動結果(活動	指標等)に対し	a. 上がっている b, 徐々に上がっている c. 上がっていない	b			
	評価の理由	活動指標も目	目標を達成し ⁻	ており	、工事に対する地元の理解等も深まっています。		
	【 民間の活用 】 委託や指定管理	者制度など、	実施手法につ	いて	民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	С
効率性	【事業手法等の見事業の成果を維 よる事務改善の可	持しながら、身		様の見	見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどに	a. 可能性はない b. 可能性はある	а
が存在	【質の向上】 事業を適正な(ii 部(職員・組織)の				人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内 也があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	а
	評価の理由				もづき、鉄道事業者と施行協定を締結し実施しています。 りましたが、事業費増額など事業進捗に伴う新たな課題も	5発生しており、想定以上の労力	を要して
	Ţ	献度区分			上記「有効性」の成果等を踏まえ左記	区分を選んだ理由	
施策への貢献度	A. 貢献してい B. やや貢献し C. 貢献の度名	ている	一歩を図ったことから、一定程度の	の施策へ			

改善(A	ction)			
	方「	句性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業 の方向性	継続込継続広大宿小		全線を整備するまでには、長い期間と多くの事業費を必要とすることから、今後も着実な事業進捗を図りま す。	
	今後の事業の方向性を 踏まえた次年度の計画上の 変更箇所			①1期区間(小島新田〜東門前)の事業推進 ②1期区間(東門前〜川崎大師 鈴木町すり付け)の工事着手 ③2期区間(川崎大師〜京急川崎)に関する関係機関との調整
踏まえた次年			後 の記載に 更点)	②1期区間(東門前〜川崎大師 鈴木町すり付け)の工事に向けた調整【変更】
			理由	1期区間(小島新田〜東門前)の平成31年度完成に向けて、選択と集中をする必要があるため。

事業の	概引	Ę										
			事務事業コード			事務事業	名			実施計画の記載		
	事務	事業	40702070	JR南武線	車続立体交差事	業		有				
	-	.16	所属コード				所	属名				
	担	当	534100	建設緑政局	道路河川整備部道路整備課							
		Wa 88	事業開始年度 事業終了年度		事務・サービ	ス等	分類1(市民サービス等)		分類2(内部事務)			
	夷肔	期間	_	_	の分類			その他		_		
	実施	形態	☑ 市が直接実施	☑ 一部委託	壬 🗆 全部委託	託·指定管理] ボランティア等との	の協働 口 そ	の他		
	実施	根拠	☑ 国・県の制度 □ 国・県の制度+市独自の制度 □ 市独自の制度									
	(法令	҈•要綱等)	道路法、都市計画法、踏切道改良促進法等									
総合計画	iと連	携する計画等	まち・ひと・しごと創生総合戦略、都市計画マスタープラン、環境基本計画、総合都市交通計画									
		プログラムに		改革項目				課	題名			
関道	車する	課題名										
		年度	H27±	F度	H28年度				H29年度			
		十段	予算額	決算額	予算額	決算額(見	込)	計画事業費	予算額	決算額		
		事業費 A	71,200	93,679	98,175	2	,120	108,900	40,175			
予決算	財	国庫支出金	8,000	-	16,500		1	28,050	16,500			
(単位:	源	市債	0	-	0		-	0	0			
千円)	内	その他特財	21,634	-	26,117		-	25,060	0			
	訳	一般財源	41,566	_	55,558		-	55,790	23,675			
		人件費 [※] B			23,574	23	3,574	0	0	0		
総コスト(A+B)				121,749	44,	694	108,900	40,175	0			
人工 (単位:人)				2.7	78		-	-	_			

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画(Plan)		
	政策	総合的な交通体系を構築する
政策体系	施策	市域の交通網の整備
	直接目標	自動車での市内交通を円滑化する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、公共交通利	用者、企業、道路利用者
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	誰もが安心、安全	に通行できる道路環境をつくり、市内交通を円滑にするとともに公共交通の利便性を高めます。
		₹~武蔵小杉駅)にある13箇所の踏切を除却するために、国、JR、横浜市等と協議調整や調査、設計、更に地域 を深めながら都市計画手続きを進めます。
(具体的に <u>今年度</u> どのような活動を	②JRや国、横浜r	事業の事業化に向けた都市計画手続の実施 市など関係機関との調整 鹿島田線ほか沿線のまちづくり)と連携した取組の推進

			の事業のする達成度	3	1. 目標を大さく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり		標を下凹で標を大きく				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、 「改値等でより具体的に実績を示すことができる取組、又は「未達成部分」を記載) 若しくは「より達成できた部分」を記載) 日標どおり達成できました。 ①については、地域勉強会を6回、地域説明会を2回開催 ②については、5~6回程度実施 ③については、関連道路の予備設計を実施											
指	票分類	娄	枚値で事業の	実績・効果等を把	型握できる指標 (指標の説明)	目標·実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
	活動	地域と	:の勉強会、出	前説明、広報活動の	の開催数		目標		4	4	
1	指標	説明	地域で活動する多様 開催数	な主体の代表者との勉強会	in	実績	3	6			
	活動	市民訓	说明会の開催数	女			目標		1	1	
2	指標	説明	計画区間沿線の在信	主者、在勤者を対象とした説明		実績	2	2			
	活動	広報資	料配布数				目標		1,500	2,000	
3	指標	説明	事業紹介のパンフレ	ットや地域との勉強会や市民	民説明会の内容を記したリーフレットの配布数		実績	1,000	1,500		部
							目標				
4		説明					実績				

評価(Check)									
(国・県・他団体の	社会環境の変化 動向や法改正、規 和など)	近年、高齢者 ど、通学路に	が踏切を源 ある踏切の	度りきれた 安全対	ないことに。 策や抜本的	よる事的な対	故が即効対策済みの踏切 策の実施など継続的な踏む	でも発生してる	おり、国も踏切道改良促進法を られています。	改正するな
事業の見直	し・改善内容	□ 実施	(直近) F	I	年度	Ø	未実施			
※過去に見	見直し・改善内容 直した履歴も記載 場合は記載									
			評値	項目					評価	
	【市民のニーズ】 事業を取り巻く理	環境の変化等に	こより、事業	に対す	るニーズか	「薄れ [・]	ていないか?		a. 薄れていない b. 薄れている	a
必要性	【市が実施する必 他都市で、民間	要性】 等でサービス提供している事例がないか?							a. ない b. ある	a
	評価の理由	齢化、人口洞	むか社会にお	さいても	暮らしやす	く働き		、安全な通行	大きな支障となっており、今後の 環境の構築や経済活動の効率 があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?								a. 上がっている b, 徐々に上がっている c. 上がっていない	а
	評価の理由	成果指標も目 業に対する関		、将来のまちづくりの観点からも	着実に事					
	【 民間の活用 】 委託や指定管理	間の活用】 託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?							a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
効率性	事業の成果を維	(事業手法等の見直し) 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどに よる事務改善の可能性があるか?							a. 可能性はない b. 可能性はある	b
が平は		【の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内 (職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?								b
	評価の理由 地域勉強会などの運営については、委託化が可能であり、コストの削減も見込まれます。									
	Ţ	献度区分					上記「有効性」の成果等を	踏まえ左記図	3分を選んだ理由	
施策への貢献度	A. 貢献してい B. やや貢献し C. 貢献の度名	ている	B						る化するとともに、地域勉強会や とから、一定程度の施策への貢	

改善(A	ction)								
	方「	向性区分 .		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性					
今後の事業 の方向性 I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了		ら継続 広大		地域とのコミュニケーションについては、きめ細かな説明や意見交換の手法を検討して取り入れるなど、更 に改善を図りながら、今後も継続して取組を進めます。					
	今後の事業の方向性を 踏まえた次年度の計画上の 変更箇所		前 計画上 載)						
踏まえた次年			<u>後</u> :の記載に :更点)						
			理由						

施策評価シート(第1期実施計画 中間評価)

1 施策の概	发要				
	基本政策(1層)	活力と魅力あふれる力強い都市づくり			
政策体系上	政策(2層)	総合的な交通体系を構築する	計画当初値 (H27年)	直近実績値 (H28年度)	最終目標値 (H37年)
の位置づけ	m 🗷 °	交通利便性の高いまちだと思う市民の割合	62.0%	64.2%	70.0%
	実感指標②				
施策	施策コード	施策名			
(3層)	40703000	身近な交通環境の整備			
担当	組織コード	所属名			
	503500	まちづくり局交通政策室			
関係課	建設緑政局総務部企	画課			
体策の概要	バス事業者と連携した 段の導入などの幅広 ●バス停留所でバス すい地域交通環境の ●自転車は環境にや	さしく身近な交通手段として多くの市民に利用されている一方で、県内でも自転 正により自転車利用の法令遵守が厳格に求められていることから、地域特性に	食討を支援します・ 一ビスの向上な 「車に関わる交通	。また、さまさ ど、誰もが快な 近 事故の割合が	まな交通手 適に利用しや が高いこと
直接目標	地域の人々な	が生活しやすい交通環境を整える			

		実施記	 	現状値(年度)	目標·実績	H28年度		H29年度	単位
		±m2		31.6045	目標値@	31.8		32	T
	1	mM3	E 俗称ハ人の来単人貝数(ロ平均)	31.6045	実績値し	32.6			一一万人
	'		年間実利用者数/365日(川崎市営バス、川崎鶴見臨港バス、東急バ	H22~26平均	達成率(⑥/@)	102.5%	ó	_	7
		説明	ス、小田急バス)	1122 20 1 20	指標達成度 ※1	a			増減
		白転耳	■が関わる交通事故件数	1,097	目標値@	1,079		1,060	
	2	ш ты-		1,007	実績値し	899			
戉	_		各年の「交通年鑑」(神奈川県警察公表)の「市区町村別の発生状況」	H26	達成率(@/⑥)	120.0%	6	_	
艮		説明	における市内の合計値		指標達成度 ※1	a		-	
旨票					目標値@				
录	3				実績値⑥				
		指標の 説明			達成率(⑥/@)				
		武明			指標達成度 ※1				\perp
					目標値@				_
	4				実績値⑥				
		指標の 説明			達成率(b/@) 指標達成度 ※1				_
)他数値で把握できる補足指揮(指揮の説明)			H27年度	H28年	度 H20年度	11
 			の他数値で把握できる補足指標 (指標の説明)		実績	H27年度	H28年	度 H29年度	単
	1	その)他数値で把握できる補足指標(指標の説明)			H27年度	H28年	度 H29年度	単
	1)他数値で把握できる補足指標 (指標の説明)		実績	H27年度	H28年	度 H29年度	単
		その 指標の	の他数値で把握できる補足指標(指標の説明)		実績	H27年度	H28年	度 H29年度	単位
	1 2	その 指標の 説明	他数値で把握できる補足指標(指標の説明)		実績	H27年度	H28年	度 H29年度	単(
	2	その 指標の 説明 指標の 説明	の他数値で把握できる補足指標(指標の説明)		実績	H27年度	H28年	度 H29年度	単位
	2	指標の説明			実績	H27年度	H28年	度 H29年度	単
	2 その 生的	をの 指標の 説明 指標の 説明 の ひ他			実績	H27年度	H28年	度 H29年度	単
取紀	2 そ的 組を が 現し が	その 指標の 指標明 の他成たたまな	<u>-</u>		実績	H27年度	H28年	度 H29年度	単
取紀	2 そ的 組を が 現し が	を使うした。 指標の 説明 指標の 説明 の他 のは成果 も のがまたこ	<u>-</u>		実績	H27年度	H28年	度 H29年度	単
取紀	2 そ的 組を が 現し が	その 指標の 指標明 の他成たたまな	<u>-</u>		実績	H27年度	H28年	度 H29年度	単
取発に	2 そ的 通り 標	その 指標の 開開の を がは を を を を を の を の の を の の の の の の の の の			実績実績				単
取発に	2 そ的を対した 情報	その 指説 指説 を成か果ま をかる をかる を を のの のの のの のの のの のの のの のの のの のの のの のの	<u>-</u>	見を ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	実績実績実績	コが着実に増加し	. ております	d .	

3	施策を構成す	る主	<u>な</u> 事務事業の評価						
					事業費	(千円)	事業の		
番	事務事業コード	サービ	事務事業の概要		予算額	決算額	達成度	施策へ	今後の
号		ス分類	(簡潔に記載)	主な取組の実績		H27年度		の貢献	事業の
	事務事業名				H28年度	(※決算額は H29年度	見込)	度	方向性
	40703010			●路線バス社会実験(向ヶ丘遊園駅⇔たまプラーザ駅)の実施	9,728	11,044			
1	地域交通支援事業	その他	地域の特性やニーズを踏まえ、路線バス サービスの充実に向けた取組を進めま す。	(H28.8~H29.1) ●社会実験の実験結果のまとめ	9,313	8,945	3	B やや貢献 している	I 現状のま ま継続
	心体大应又接手术			●路線バスサービスに向けた取組の推進	0				
	40703020		地域の特性やニーズを踏まえた、地元住	●地域協議会等への支援(白幡台地区、岡上西地区) ●条件の整った地区における本格運行の実施に向けた取組の	0	0		В	п
2	コミュニティ交通支援	その他	民が主体となったコミュニティ交通に関する必要な支援に取組みます。	推進(岡上西地区の運行実験の実施(H28.9~12)) ●事業継続に向けた取組の推進(長尾台地区、高石地区) ●コミュニティ交通のさまざまな導入手法に関する検討	19,239	15,371	3	やや貢献 している	
	事業			●多様な主体と連携したコミュニティ交通の支援の検討	9,762				
	40703030		パスロケーションシステム導入補助を行う	●パスの運行状況を示すパスロケーションシステムのパス停へ の送すの原本(4年に送す)	2,203	2,203		В	I
3	 交通案内情報の充実	その他	など、利用しやすい交通環境整備に向け た取組を進めます。	の導入の促進(4箇所導入) ●バス運行案内等、ICTを活用した情報提供の促進(経路検索サイトにコミュニティ交通の運行情報を提供)	1,339		3	やや貢献 している	現状のま ま継続
					987				
	40703040		自転車の通行環境整備により、道路を利 用するすべての人が安全・安心で快適に	●歩行者・自転車利用者の安全性の向上に向けた緊急的な整	133,407	44,839		В	I
4	自転車通行環境整備 事業	その他	通行できる道路空間の形成に向けた取組 を進めます。		118,911	110,251	4	やや貢献している	改善しな がら継続
					66,246				
5								-	
								-	
6								-	
								-	
7									
8									
\vdash									
_									
9									
10									
	l								

4 施策の進													
	区 分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由										
進物状況 (指標等の成果を中心に施策を構成する事務事業の評価等から総合的に評	A. 順調に推移 (目標達成している) B. 一定の進捗がある (目標達成に向けて進捗している) C. 進捗は遅れている (目標達成が遅れる可能性がある) D. 進捗は大幅に遅れている (目標達成が難しい可能性がある)	В	●配下の事務事業の取組は、ほぼ掲げた目標どおりに進捗しています。 ●自転車通行環境整備事業について、自転車通行環境整備は目標を上回る箇所数の整備を実施しました。新たな実施計画の策定については、自転車の通行環境整備、駐輪場整備、マナー啓発のほか、観光への活用など様々な視点での検討が新たに必要となったことから、平成28年度に予定していた実施計画を策定することはできませんでしたが、効率的・効果的な自転車施策の展開を図るため、川崎市の自転車利用に関する考え方について素案を作成しました。										

5 今後の万	可性		
	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
今後の 事業構成の 妥当性 (<u>手段は妥当か?</u>)	I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	Щ	 ●地域交通支援事業については、引き続き、路線パス社会実験支援制度を活用し、利用者の利便性の向上の取組を推進していきます。 ●コミュニティ交通支援事業については、適切な支援のあり方等を検討しながら、引き続き、地域主体の取組について支援していきます。 ●交通案内情報の充実については、高齢者の進展や東京オリンピック・パラリンピック開催等を踏まえ、引き続き、事業を推進していきます。 ●自転車通行環境整備事業については、川崎市の自転車利用に関する基本的な考え方を整理するとともに、現在取り組んでいる事業を継続して進めていきます。

事業の	概引	更											
			事務事業コード			事系	§事業名			実施計画の記載			
	事務	事業	40703010	地域交通支	援事業					有			
			所属コード				所	属名					
	担	当	503500	まちづくり局交	逐通政策室								
	cts +/r-	V 088	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービ	事務・サービス等		市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	天 肔	期間	H26	_	の分類	_	補	助・助成金		_			
実施形態			□ 市が直接実施	」	□ 全部委割	モ・指定 ^を	管理 🗆	〕ボランティア等との	○協働 □ そ	の他			
実施根拠			□ 国・県の制度	□ 国・県の制度 □ 国・県の制度+市独自の制度 ☑ 市独自の制度									
	(法令	ì•要綱等)	川崎市路線バス社会実験支援補助金交付要綱										
総合計画	と連	携する計画等	まち・ひと・しごと創生総合戦略、都市計画マスタープラン、総合都市交通計画 改革項目 課題名										
行財政	改革:	プログラムに					課	題名					
関連	車する	課題名											
		年度	H27年	F度	H28年度				H29年度				
		十尺	予算額	決算額	予算額	決算額	頂(見込)	計画事業費	予算額	決算額			
		事業費 A	9,728	11,044	9,313		8,945	4,500	0				
予決算	財	国庫支出金	0	-	0		-	0	0				
(単位:	源	市債	0	-	0		_	0	0				
千円)	内	その他特財	0	-	0		-	0	0				
	訳	一般財源	9,728	_	9,313		-	4,500	0				
		人件費 [※] B			2,968		2,968	0	0	0			
	i	総コスト(A+B)			12,281		11,913	4,500	0	0			
人	工(単	i位:人)			0.3	35		·					
7. 人件费什 :	久在氏	Fの子質にむけるB		まに 久午中の人工	た垂じて管 中した:	糸老値で	5 4	•		•			

計 画(Plan)												
	政策	総合的な交通体系を構築する										
政策体系	施策	身近な交通環境の整備										
	直接目標	地域の人々が生活しやすい交通環境を整える										
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	バス事業者	- · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·										
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	バス事業者の主体 進します。	ス事業者の主体的な取組により川崎市域における整合性のとれた路線バスネットワーク構築とサービス向上に向けた取組を推 します。										
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような 手段で実施しているか)		各線バスの路線新設又は既存路線の見直し検討において、バス事業者が路線バス社会実験を実施する場合に補助金を交付する ともに、バス事業者の取組を支援します。										
今年度の事業の取組内容 (具体的に <u>今年度</u> どのような活動を するのか)	②社会実験の実験	ミ験 (向ヶ丘遊園駅⇔たまプラーザ駅) の実施 検結果のまとめ ごスの充実に向けた取組の推進										

			の事業の する達成度	3	1. 目標を大きく 2. 目標を上回っ 3. ほぼ目標どお	って達成		標を下回っ 標を大きく				
「 <u>数</u>	記「当該年 直等でよ できる取	F度の取 り具体的 組」、又(実績等 組内容」に対し、 I に実績を示すこ は「 <u>未達成部分</u> 」 た部分」を記載)	①②③路線バス社会	実験の結果、平成	₹28年度に向ヶ丘	遊園駅	〜たまプラ	一ザ間で本格運	『行の実施につな	こがりました。	
指	漂分類	娄	植で事業の	実績・効果等を把	!握できる指標	(指標の説明	1)	目標·実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
								目標				
		説明						実績				
2								目標				
		説明						実績				
								目標				
3		説明						実績				
								目標				
4		説明						実績				

評																		
	県・他団体の	社会環境の変化 動向や法改正、規 ロなど)	川崎市総合報 よる地域交通	部市交通記 風の充実を	†画の 図る <i>†</i>	重点施第	をとして、 的な需要	、市民 要等を	生活を発	支えるな ることが	公共交	通の強	化を図る 、ス社会	としては実験制	いること 度を推っ	:から、引 進する必:	き続き、路 要がありま	線バスに きす。
4	業の見直	し・改善内容	☑ 実施	(直近)	н 2	27 年度	[コ 未	実施									
	※過去に見	見直し・改善内容 直した履歴も記載 場合は記載	H26~H27年 H26年度:川										果、本運	望行とな	らました	: 50		
				評	価項	3								評価				
		【市民のニーズ】 事業を取り巻く環	環境の変化等に	こより、事	業に対	ナるニ -	-ズが薄	れて	いないか	١?				a. 薄れていない b. 薄れている				
	必要性													. ない . ある			a	
	路線バス社会実験期間中にアンケート調査を実施したところ、8割以上の方から、「生た」、「外出頻度が広がった」と回答いただき、9割以上の方から、「社会実験終了後のら、路線バス社会実験支援制度の取組について、バス事業者と連携しながら継続的に											了後の運	行継続	売を希望	望する」と[回答があっ	たことか	
	有効性	【成果】 活動結果(活動持	指標等)に対し	事業の成	果(成	果指標等	寿) は順	調に_	上がって	いるか	?			b	,徐々	っている に上がっ [・] っていなし		b
		評価の理由	路線バス社会 更なる利便性						成してお	ります。	。引き	続き、路	路線バス 神	社会実	験制度	を活用し、	、地域交通	における
		【 民間の活用 】 委託や指定管理	!者制度など、	実施手法	こつし	て民間流	舌用によ	りコス	トを削減	域できる	余地	があるか	٧,	b	. 余地に . 余地に . 既に写			С
	効率性	【事業手法等の見 事業の成果を維 よる事務改善の可	持しながら、身		仕様の	の見直しア	などによ	:る経	貴削減や	ち事務手	手続き(の見直し	しなどに			生はない 生はある		а
	劝辛注	【質の向上】 事業を適正な(過 部(職員・組織)の						で行	いながら	、市民	サーヒ	ごスや市	役所内	b	. 余地に . 余地に . 既に写			C
		評価の理由	・路線バス社す。・社会実験実												布·集計	等が民間	間に委託し	ておりま
		黄	献度区分					_	記「有刻	物性」の	成果	等を踏る	まえ左記	区分を	選んだ	理由		
	重策への 貢献度	A. 貢献してい B. やや貢献し C. 貢献の度名	ている	В													きの向上に はありました	

改善(A	ction)			
	方「	向性区分 _		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業 の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続		Ι	路線バス社会実験支援制度については、バス事業者が路線バスネットワークの構築やサービス向上に向けた路線新設や既存路線の見直しの検討を行う際に需要などを把握し、その事業性を判断するための取組であることから、引き続き、社会実験支援制度を活用し、利用者の利便性の向上に向けた取組を推進していきます。
	(次生		<u>前</u> 十画上 戏)	
今後の事業 踏まえた次年 変更	度の計画上の	変更 (上記計画上 対する変	の記載に	
		変更の	理由	

_									
概引	E								
		事務事業コード			事務	事業名			実施計画の記載
事務	事業	40703020	コミュニティ	/交通支援事業					有
		所属コード				所	属名		
担	当	503500	まちづくり局	交通政策室					
	40 BB	事業開始年度	事業終了年度	፟ቜ፠・サーヒ	ジス等し	分類1(市民サービス等)		分類2(内部事務)
天 他	期间	_	_		-	衤	輔助∙助成金		_
実施	形態	□ 市が直接実施	施 🗹 一部委託	託 □ 全部委	託·指定的	管理 [〕 ボランティア等との	D協働 口 そ	の他
実施	根拠	□ 国・県の制度		・県の制度+市独	自の制度		市独自の制度		
(法令	҈•要綱等)	川崎市コミュニティ	交通導入等の支援及	び補助金交付に関	する要綱、	川崎市コミ	ュニティ交通における	高齢者等割引事業	┊補助金交付要綱
と連	携する計画等	まち・ひと・しごと倉	削生総合戦略、都市	計画マスタープラン	ノ、環境基	基本計画、	総合都市交通計画		
牧革:	プログラムに	改革項目 課題名							
車する	5課題名								
	/r ===	H27	年度	H28年度					
	干度	予算額	決算額	予算額	決算額	原(見込)	計画事業費	予算額	決算額
	事業費 A	0	0	19,239		15,371	10,000	9,762	
BH	国庫支出金	0	-	0		_	0	0	
源	市債	0	-	0		-	0	0	
	その他特財	0	-	0		-	0	0	
一般財源		0	_	19,239		-	10,000	9,762	
	人件費 [※] B			27,984		27,984	0	0	C
i	総コスト(A+B)			47,223		43,355	10,000	9,762	0
工(単	位:人)			3	.3				
	事担実実実はと改動財源内訳	実施期間 実施形態 実施根拠 (法令・要綱等) (と連携する計画等 改革プログラムに 重する課題名 年度 事業費 A 財源 内のに特別 一般財源	事務事業 40703020 担 当	事務事業	事務事業	本典数字 本数字集コード 本数字集コード 40703020	事務事業	事務事業	事務事業

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

į	計画(Plan)											
		政策	総合的な交通体系を構築する									
	政策体系	施策	身近な交通環境の整備									
		直接目標	地域の人々が生活しやすい交通環境を整える									
	事業の対象 (事業の対象となる人、物)	コミュニティ交	通を導入しようとする協議会(地域住民)及びコミュニティ交通を運行する交通事業者									
	事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	地域にふさわ	域にふさわしい持続可能な交通手段の導入の実現及び地域の活性化に資することを目的とします。									
	事業の内容 (どういった業務内容で、どのような 手段で実施しているか)		み近な地域交通の導入実現に向けた地域住民の主体的な取組に対する技術的な支援、本格運行時の車両購入費等に対する補助金交付及び運行継続に向けた支援を行います。									
		②条件の整っ ③事業継続に ④コミュニティ	等への支援(白幡台地区、岡上西地区) た地区における本格運行の実施に向けた取組の推進(岡上西地区の運行実験の実施) 向けた取組の推進(長尾台地区、高石地区) 交通のさまざまな導入手法に関する検討 と連携したコミュニティ交通の支援の検討									

実	施結	果(Do)								
			の事業の する達成度	3	1. 目標を大きく上[2. 目標を上回って 3. ほぼ目標どおり		. 目標を下回 . 目標を大きぐ				
「 <u>数</u> とか	記「当該年 値等でよ (できる取	F度の取り リ 具体的 組」、又に)実績等 組内容」に対し、 に実績を示すこ は「 <u>未達成部分</u> 」 た部分」を記載)	き」等の説明を行い、	ました。)導入に向け、新たに2 、協議会設立に向けた 計画の見直し作業の「	支援を行いました。	•	長尾台地区(隣	接地区))におい	て、「地域交通 <i>の</i>)手引
指	標分類	数	位で事業の	実績・効果等を批	型握できる指標 (指標の説明)	目標·実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
							目標				
1		説明					実績				
							目標				
2		説明					実績				
							目標				
3		説明					実績				
							目標				
4		説明					実績				

事業を取り機く社会環境の変化 川崎市総合総市交通計画の重点施策として、市民生活を支える公共交通の強化を図ると位置づけられている中、本市のコミュニ 「中央・他団体の動向や支政正、制	評	価(Check)													
日本の 日	事(国	県・他団体の	動向や法改正、規	ティ交通は小	型車両で独	い地は	或の需要に対	対し運行	するため	か、採算り	·共交通の 性の確保	D強化を図れ が厳しい事	ると位置 [・] 事業構造・	づけられてい であることから	る中、本市の ら、引き続き、)コミュニ . 持続可能
お事業を取りをで理を制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか? 「「本度の工力」	4	事業の見直	し・改善内容	☑ 実施	(直近) Þ	25	年度	□ <i>;</i>	卡実施							
(市民のニーズ)		※過去に見	直した履歴も記載		格運行を実	施して	いる地区に	ついて	持続的な	は運行を	目指し交	通事業者が	が負担と	ならないよう፤	車両の買替え	:補助を追
事業を取り巻、環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?					評値	項目									評価	
上記「有効性 一本格運行を実施している事例がないか?				環境の変化等Ⅰ	こより、事業	に対す	トるニーズか	で薄れて	いないか	٧,					۸,	a
		必要性			是供している	事例:	がないか?									a
活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?		評価の理由 地域住民が主体となって行う取組であり、事業の継続に向けて行政による支援が不														
評価の理由 本格運行実施地区において運行を継続するとともに、新たな地域においてコミュニティ交通導入に向けた取組を開始しています。 【民間の活用】	П	有効性		旨標等)に対し	事業の成界	具(成果	具指標等)は	順調に	上がって	いるか?	?		b,	徐々に上が	っている	а
大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大			評価の理由	本格運行実施	施地区にお	ハて運	行を継続す	るととも	に、新た	な地域に	こおいて:	コミュニティ	交通導入	、に向けた取締	組を開始して	います。
事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどに				者制度など、	実施手法に	ついて	民間活用に	こよりコ	ストを削減	域できる会	余地があ	るか?	b.	余地はある	N	a
「大田の南上] 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内 おの (職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか? 評価の理由 地域住民との協働により、適切に事業を実施しています。 「貢献度区分 上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由 上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由 本格運行を実施している地域においては、持続的な運行を支援しています。また、新たに2地区での取組開		쳈茲쌁	事業の成果を維	持しながら、勢		:様の.	見直しなどに	よる紹	費削減や	5事務手	続きの見	直しなどに				а
では、		刈平江	事業を適正な(過						ういながら	、市民+	サービス・	や市役所内] b.	余地はある	N	а
施策への A. 貢献している B. やや声献している A. 貢献している			評価の理由	地域住民との	D協働により	、適切]に事業を実	施して	います。				-			
■ 香齢度			黄	献度区分					上記「有刻	物性」の	成果等を	踏まえ左言	厄区分を:	選んだ理由		
C. 貢献の度合いが薄い		施策への 貢献度	B. やや貢献し	ている											折たに2地区で	での取組開

改善(A	ction)			
	方	向性区分 _		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業 の方向性				採算性の確保が難しいというコミュニティ交通事業構造を踏まえ、適切な支援のあり方を検討しながら引き 続き事業を継続していく必要があります。
	変更 (次年度語 の記述 今後の事業の方向性を 踏まえた次年度の計画上の 変更箇所 対する変		計画上	
踏まえた次年			の記載に	
		変更の	理由	

事業の	概引	Ę								
			事務事業コード			事	務事業名			実施計画の記載
1	事務	事業	40703030	交通案内帽	制の充実					有
	-	.16	所属コード				所.	属名		
	担	当	503500	まちづくり局	交通政策室					
	do +4-	40 BB	事業開始年度	事業終了年度	事務・サーヒ	て等	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)
	天 肔	期間	H19	_	の分類	- 1	補	i助∙助成金		_
	実施	形態	☑ 市が直接実施	□ 一部委託	壬 🗌 全部委	託·指定	管理 [〕 ボランティア等との	D協働 口 そ	の他
	実施	根拠	□ 国・県の制度		・県の制度+市独口	自の制度	₹ 🗸	市独自の制度		_
	(法令	҈•要綱等)	川崎市バスロケーシ	/ョンシステム導入	補助金交付要綱					
総合計画	iと連	携する計画等	都市計画マスタープ	プラン、総合都市交	通計画					
行財政	改革:	プログラムに	改革項目 課題名							
関連	車する	課題名								
		年度	H27年	F度	H28年度					
		十尺	予算額	決算額	予算額	決算	額(見込)	計画事業費	予算額	決算額
		事業費 A	2,203	2,203	1,339		1,339	1,247	987	
予決算	財	国庫支出金	0	-	0		-	0	0	
(単位:	源	市債	0	-	0		-	0	0	
千円)	内	その他特財	0	-	0		-	0	0	
	訳	一般財源	2,203	-	1,339		-	1,247	987	
		人件費 [※] B			2,544		2,544	0	0	0
	i	総コスト(A+B)			3,883		3,883	1,247	987	0
人	工(単	位:人)			0	.3			•	

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画(Plan)											
	政策	総合的な交通体系を構築する									
政策体系	施策	身近な交通環境の整備									
	直接目標	地域の人々が生活しやすい交通環境を整える									
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	バス事業者										
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)		事業者のバスロケーションシステムの導入事業に対し補助金を交付し、公共交通の利用が促進することにより、道路混雑の約 地域環境の改善に資することを目的とします。									
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような 手段で実施しているか)	バス事業者がバス	ス事業者がパスロケーションシステムの表示機設置やシステムの機能向上に係る更新に対し、補助金を交付します。									
今年度の事業の取組内容 (具体的に <u>今年度</u> どのような活動を するのか)		Rを示すバスロケーションシステムのバス停への導入の促進(年5か所以上) 、ICTを活用した情報提供の促進									

Į			の事業の する達成度	3	1. 目標を大きく 2. 目標を上回っ 3. ほぼ目標どお	って達成		標を下回 ⁻ 標を大きく				
آ <u>*</u> رع	記「当該4 は 値等でよ ができる取	∓度の取 り具体的 組」、又)実績等 組内容」に対し、 <u>句に実績を示すこ</u> は「 未達成部分 」 た部分 」を記載)	目標どおり達成できまで、 ①バスロケーションシ 4か所の導入となりま ②経路検索サイトにこ	ノステムの導入促進 した。				入を目標にしてい	いましたが、事業	者の計画変更等	手により
拼	標分類	娄	枚値で事業の	実績・効果等を把	握できる指標	(指標の説明)	目標·実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
		バスロ	1ケーションシス	テムの設置件数				目標		5	5	
		説明	停留所などでバスの ての補助件数	運行情報が分かるバスロケー	ーションシステムについて	、バス事業者による設置	置に対し	実績	8	4		
2								目標				
Ľ		説明						実績				
			T					目標				
3		説明						実績				
								目標				
4		説明						実績	*			

評	肾価(Check)										
(国	事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規 制緩和など) 東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、路線バスの案内表示の更なる充実が求められます。											
	事業の見直	し・改善内容	□ 実施 (直近) H 年度 ☑ 未実施									
	具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載 できる場合は記載											
	評価項目											
		【市民の二一ズ】 事業を取り巻く環	環境の変化等!	こより、事業	に対す	るニーズが	薄れ	ていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている			
ı	必要性	【市が実施する必 他都市で、民間等		a. ない b. ある a								
		評価の理由 高齢化の進展や東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、路線バスの案内表示の更なる充実が求められます。										
ı	有効性	【成果】 活動結果(活動持	指標等)に対し	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない								
		評価の理由 未導入のバス停に対しては、引き続き必要に応じて導入を検討していく必要があります。										
ı		【 民間の活用 】 委託や指定管理	者制度など、	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	а							
ı	効率性	【事業手法等の見 事業の成果を維 よる事務改善の可	持しながら、身	a. 可能性はない b. 可能性はある								
ı		【質の向上】 事業を適正な(過 部(職員・組織)の		a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み								
		評価の理由 年度ごとの導入計画に基づき適切に処理しています。										
		黄	献度区分					上記「有効性」の成果等を踏まえ左記	区分を選んだ理由			
:	施策への 貢献度	A. 貢献してい B. やや貢献し C. 貢献の度合	ている	В	目標を	1箇所下回	りまし	たが、路線バスの利用促進に寄与してい	ます。			

改善(A	ction)								
	方向性区分			実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性					
今後の事業 の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了			高齢化の進展や東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、路線バスの役割が重要になっており、他 都市の取組状況を含め、引き続き事業を推進していく必要があります。					
			<u>前</u> 計画上 載)						
今後の事業の方向性を 踏まえた次年度の計画上の 変更箇所		変更<u>後</u> (上記計画上の記載に 対する変更点)							
		変更の	理由						

事業の	概引	Ę												
			事務事業コード			事務	事業名			実施計画の記載				
•	事務	事業	40703040	自転車通行	環境整備事業		有							
			所属コード				所	属名						
担当		531400	建設緑政局絲	建設緑政局総務部企画課										
中 恢 ###		事業開始年度	事業終了年度	事務・サービ	ス等し	分類1(市民サービス等)		分類2(内部事務)					
実施期間			_	_	の分類	-	その他			_				
	実施	形態	☑ 市が直接実施	□ 一部委託	□ 全部委割	託·指定管	理] ボランティア等との	○協働 □ そ	の他				
実施根拠		根拠	□ 国・県の制度	□ 国・県の制度 □ 市独自の制度										
	(法令	҈•要綱等)	安全で快適な自転車利用創出ガイドライン、川崎市の自転車通行環境整備に関する考え方											
総合計画と連携する計画等 行財政改革プログラムに 関連する課題名		携する計画等	都市計画マスタープラン、環境基本計画、総合都市交通計画											
			改革項目		題名									
		年度	H27年	F度	H28年度			H29年度						
		干及	予算額	決算額	予算額	決算額	(見込)	計画事業費	予算額	決算額				
		事業費 A	133,407	44,839	118,911		110,251	48,661	66,246					
予決算	財	国庫支出金	56,550	-	51,150		-	10,900	26,950					
(単位:	源	市債	37,000	-	38,000		-	4,000	19,000					
(単位: 千円)	内	その他特財	0	-	0		_	0	0					
	訳	一般財源	39,857	-	29,761		-	33,761	20,296					
	人件費 [※] B 総コスト(A+B)				11,533		11,533	0	0	0				
					130,444	1	21,784	48,661	66,246	0				
人	工(単	(位:人)			1.3	36								

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画(Plan)									
	政	策	総合的な交通体系を構築する						
政策体系	施	策	身近な交通環境の整備						
	直	接目標	地域の人々が生活しやすい交通環境を整える						
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、自	市民、自転車利用者							
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	自転車道	自転車通行環境整備により、誰もが安全・安心で快適に道路を利用できるようにします。							
		安全・安心で快適な道路利用環境構築に向けて、平成27年2月に策定しました「川崎市自転車通行環境整備の考え方」及び「川崎 市自転車通行環境整備実施計画」に基づき自転車通行環境整備を推進します。							
今年度の事業の取組内容 (具体的に <u>今年度</u> どのような活動を するのか)			竟の連続性の確保に向けた新たな実施計画の策定 利用者の安全性の向上に向けた緊急的な整備の実施(10か所以上)						

夫	心祠	未((Do)									
			の事業の する達成度	4	1. 目標を大きく 2. 目標を上回っ 3. ほぼ目標どお	て達成	4. 目標を 5. 目標を					
「 <u>数</u>	記「当該年 値等でよ り できる取	F度の取 月体的 組」、又(達成でき	は「 未達成部分 」 た部分」を記載)	①新たな自転車通行活用など様々な視点 策の展開を図るため	での検討が新たに 、川崎市の自転車	必要となったことか 利用に関する基本	ら、実施計 的な考え方	画策定	とには至りません	しでしたが、効率		
指	標分類	娄	枚値で事業の	実績・効果等を把	温握できる指標	(指標の説明)	目標	·実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
	活動指標	自転車	通行環境整備	講箇所				標		10	12	
1		説明	川崎市自転車道施した箇所数。	通行環境整備実施計 [画などに基づき、自	転車通行環境整備	を実実	績	12	12		箇所
								標				
2		説明					実	:績				
			1				■■■	標				
3		説明					美	績				
							B	標				
4		説明					美	:績				
			•		•				•	•		

评 価((Check)									
国・県・他団体の	社会環境の変化 動向や法改正、規 和など)				転車通行環境創出ガイドライン」が改定され、自転車ネッ どが示されており、継続的な自転車通行環境の整備がオ		や通行空			
事業の見直	し・改善内容	☑ 実施 (直近) H	26	年度 □ 未実施					
※過去に見	見直し・改善内容 直した履歴も記載 場合は記載	平成26年度:自	目転車通行班	環境整	備に関する考え方及び実施計画策定					
評価項目										
	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環	環境の変化等に。	より、事業に	対する	5ニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	а			
必要性	【市が実施する必 他都市で、民間		a. ない b. ある	a						
	評価の理由	評価の理由 国などによる平成28年7月の「安全で快適な自転車利用創出ガイドライン」の見直しや、平成28年12月の「自転車活用推進法」の成立などにより、継続的な自転車通行環境整備が求められています。								
有効性	【成果】 活動結果(活動持	指標等)に対し事	事業の成果(成果指	旨標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b, 徐々に上がっている c. 上がっていない	b			
	評価の理由	評価の理由 成果指標は目標値を達成しています。								
	【 民間の活用 】 委託や指定管理	書制度など、実	施手法につ	いて民	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	С				
	【事業手法等の見事業の成果を維 よる事務改善の可	持しながら、契約	a. 可能性はない b. 可能性はある	b						
効率性	【質の向上】 事業を適正な(過 部(職員・組織)の		員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内 があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	а					
	評価の理由	・基本的な考え方の検討にあたって、委託を発注し業務を進めています。 ・自転車通行環境整備における路面表示の仕様について、大きさや間隔などの検討が必要であり、それに伴いコストの縮減が見込まれます。 ・事業の推進にあたっては、適正な規模の人員体制・費用で行っております。								
	黄	献度区分			上記「有効性」の成果等を踏まえ左記図	区分を選んだ理由				
施策への 貢献度	A. 貢献してい B. やや貢献し C. 貢献の度名	ている			通行環境整備は順調に進んでおり、また、川崎区、幸区、 っる交通事故件数が減少していることから、一定程度のか		区で自転			

	改 善(Action)							
		方[向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性				
	「		ら継続 広大 T	新たな自転車通行環境整備実施計画の策定に至らなかったことから、効率的・効果的に自転車施策の展 開を図るため、川崎市の自転車利用に関する基本的な考え方を整理し、自転車通行環境整備を推進して いきます。				
	今後の事業の方向性を 踏まえた次年度の計画上の 変更箇所		変更<u>前</u> (次年度計画上 の記載)	①自転車通行環境の連続性の確保に向けた新たな実施計画に基づく取組の推進 ②歩行者・自転車利用者の安全性の向上に向けた緊急的な整備の実施(12か所以上)				
			変更 <u>後</u> (上記計画上の記載に 対する変更点)	①自転車利用に関する基本的な考え方の整理【変更】 ②歩行者・自転車利用者の安全性の向上に向けた緊急的な整備の実施(10か所)【変更】				
			変更の理由	①効率的・効果的に自転車施策の展開を図るため、自転車利用に関する基本的な考え方を整理する。 ②都市計画道路の整備に合わせるなどにより、H29予定箇所の自転車通行環境整備を先行して実施した ため。				

事業の	概引	E C								
		ulb	事務事業コード			事務事業名	i		実施計画の記載	
1	事務	事業	40703050	駐車施設塾	を備推進事業				無	
			所属コード				所属名			
	担	当	503500	まちづくり局	交通政策室					
		#A 88	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービ	ス等 分類	j1(市民サービス等)	分類2(内部事務)	
	実施期間		_	_	の分類		許認可等		_	
	実施	形態	☑ 市が直接実施	□ 一部委割	迁 □ 全部委	託·指定管理	□ ボランティア等との	の協働 口 そ	の他	
実施根拠		□ 国・県の制度] 国・県の制度 □ 市独自の制度							
	(法令•要綱等)		駐車場法(第4条、	第4条の2、第20多	A)、川崎市建築物	における駐車施	設の附置等に関する条	を例ほか		
総合計画	iと連	携する計画等	総合都市交通計画	、川崎駅周辺地区	荷さばき対策基本	計画				
行財政	改革:	プログラムに		改革項目		課	題名			
関連	車する	課題名								
		在車	H27年	₣度	H28:	年度				
		年度	予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
		事業費 A	2,635	2,462	2,764	2,1	2,764	3,064		
予決算	財	国庫支出金	0	-	0		- 0	0		
(単位:	源	市債	0	-	0		- 0	0		
千円)	内	その他特財	0	_	0		- 0	0		
	訳	一般財源	2,635	_	2,764		- 2,764	3,064		
人件費 [※] B		人件費 [※] B			15,688	15,6	38 0	0	0	
		総コスト(A+B)			18,452	17,79	2,764	3,064	0	
人	工(単	位:人)			1.8	85				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画(Plan)						
	政策	総合的な交通体系を構築する				
政策体系	施策	身近な交通環境の整備				
	直接目標	地域の人々が生活しやすい交通環境を整える				
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	建築主、駐車場管	皇築主、駐車場管理者等				
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	路上駐車の防止及	路上駐車の防止及び道路交通の円滑化を図ります。				
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような 手段で実施しているか)	●駐車場法、駐車施設の附置等に関する条例及び駐車施設に関する事項の取扱要綱に基づく駐車場の設置に関する協議の実施、指導により駐車場の整備を推進します。 ●川崎駅東口周辺地域における路上荷さばきを防止するための対策を検討、推進します。					
今年度の事業の取組内容 (具体的に <u>今年度</u> どのような活動を するのか)	①附置義務駐車場の設置に関する協議・指導、路外駐車場及び管理規定の届出業務を行います。 ②川崎駅東口周辺地域における路上荷さばきを防止するための対策を検討、推進します。					

1	_	WE TH	<u> </u>	DU									
(上配「当該年度の取組内容」に対し、「教権等でより具体的に実績を示すことできる数組」、又は「未達成形力」を取りまとめました。		田紹内家 ルー 対する 達成 2. 目標を上回って達成 5.											
1 計算 2 目標 説明 実績 3 説明 4 野科田	取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「教債等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」を記載) 若しくは「より達成できた部分」を記載)										後の		
1 説明 実績 2 説明 実績 3 計明 実績 4 野田 財用	指	標分類	数	対値で事業の	実績・効果等を排	2握できる指標	(指標の説明))	目標·実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
2 目標 3 説明 4 野科B									目標				
2 説明 実績 3 目標 4 手績	Ľ		説明						実績				
説明 実績 3 目標 説明 実績	2								目標				
3			説明						実績				
説明 実績 4 目標									目標				
4	3		説明						実績				
									目標				
	4		説明						実績				

評価(Check)								
(国・県・他団体の	〈社会環境の変化 の動向や法改正、規 和など)	・平成6年に ました。	附置義務駐耳	車場条	・例のひな型とし	て通知している標準	駐車場条例に荷さば	き駐車施設の附置に関する条準	項を追加し
事業の見正	直し・改善内容	☑ 実施	(直近) H	22	年度 🗆	未実施			
※過去に	に見直し・改善内容 見直した履歴も記載 る場合は記載	附置義務	26年度末現在	ある1				荷さばき駐車施設に関する条エ 、平成22年度から荷さばき駐エ	
	評価項目								
	【市民のニーズ】 事業を取り巻く理	環境の変化等	により、事業に	こ対す	⁻ るニーズが薄れ	いないか?		a. 薄れていない b. 薄れている	а
必要性		【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?							а
	評価の理由 社会状況等の変化により駐車需要は低下してきているが、駐車施設の業務については 続していく必要があります。							目治事務でもあるため、引き続き	き業務を継
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?						a. 上がっている b, 徐々に上がっている c. 上がっていない	b	
	評価の理由	評価の理由 市内における駐車施設の量は整備されてきており、事業成果は上がってきております。							
	【 民間の活用 】 委託や指定管理	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?						a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	а
効率性	事業の成果を維	(事業手法等の見直し) 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどに よる事務改善の可能性があるか?						a. 可能性はない b. 可能性はある	а
初平任	【質の向上】 事業を適正な(近 部(職員・組織)の					で行いながら、市民	ナービスや市役所内	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	評価の理由 附置義務制度の改正等を行う制度の所管と、駐車場附置の協議・届出等を行う協議・指 行う建築部門において駐車施設附置の協議・指導を行うことで、業務の効率化、サービン							
	黄	献度区分				上記「有効性」の	成果等を踏まえ左記図	区分を選んだ理由	
施策への	A. 貢献してい B. やや貢献し C. 貢献の度名	ている	$\parallel \mathbf{B} \parallel$					による構造等基準に基づいた! れており、一定程度の施策への	

改善(A	ction)		
	方「	句性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
「I. 現状のまま 引. 改善しなが 皿. 事業規模拡 IV. 事業規模 V. 事業廃止 VI. 事業終了		がら継続 拡大 TT	利用実態を踏まえた駐車場の整備や適正配置等の課題に対応するため、必要な調査・検討を進めながら駐車場施策を推進していきます。
		変更<u>前</u> (次年度計画上 の記載)	①附置義務駐車場の設置に関する協議・指導、路外駐車場及び管理規定の届出業務を行います。 ②川崎駅東口周辺地にける路上荷さばきを防止するための対策を検討、推進します。
今後の事業 踏まえた次年 変更	度の計画上の	変更 <u>後</u> (上記計画上の記載に 対する変更点)	③附置義務原単位の見直し検討【新規】
		変更の理由	国が附置義務原単位を改正したことを踏まえ、駐車需要の実態に即した附置義務原単位を算出、把握する必要があるため、原単位見直しの条例改正を行う。

施策評価シート(第1期実施計画 中間評価)

1 施策の概	发 要						
	基本政策(1層)	活力と魅力あふれる力強い都市づくり					
政策体系上	政策(2層)	総合的な交通体系を構築する	計画当初値 (H27年)	直近実績値 (H28年度)	最終目標値 (H37年)		
の位置づけ	m 🗷 °	交通利便性の高いまちだと思う市民の割合	62.0%	64.2%	70.0%		
	実感指標②						
施策	施策コード	施策名					
(3層)	40704000	市バスの輸送サービスの充実					
担当	組織コード	所属名					
, <u> </u>	822300 交通局企画管理部経営企画課						
関係課	庶務課、経理課、労利	祭担当、管理課、運輸課、安全・サービス課					
施策の概要	く状況の変化に適切! ●臨海部への企業進済環境が大きく変化し 共施設・病院等への ●厳しい経営状況の	 ■道路交通法の改正に伴う自転車の車道走行の徹底などによる道路走行環境の変化や高齢者利用の増加など、市バスの安全運行を取り着 (状況の変化に適切に対応するため、運転手等の安全教育の充実・強化など、輸送安全性の更なる向上を図ります。) ■臨海部への企業進出等による就業者の増加や北部地域の市バス利用者の増加などによる輸送需要の高まり、高齢化の進展など、社会経 斉環境が大きく変化していることから、公共交通の役割を踏まえ、利用状況に見合った路線の見直しやダイヤ改正、高齢化への対応として公 性施設・病院等へのアクセスを向上させる路線の検討など、市バスネットワークの維持・充実に向けた取組を推進します。 ■厳しい経営状況の中で、市バスサービスを安定的に提供する事業運営が不可欠であることから、営業所管理委託の拡大や、老朽化した営業所等の計画的な整備など、安定的な事業基盤の構築に向けた取組を推進します。 					
直接目標	安全で快適な	よ市バス輸送サービスを持続的に提供する					

		実施計画に位置付けた	指標名(指標の説明)	現状値(年度)	目標·実績	H28年度		H29年度	単位
		有責事故発生件数(走	う による プログロ 「	0.29	目標値@	0.28		0.28	件
	1	故発生件数)		0.29	実績値⑥	0.38			
	'		件)/走行距離(13,203千km))×100,000	H26	達成率(@/b))	73.7%		_	7
		説明 ※「指標達成度b」の個別	設定値:0.34件(過去の実績を考慮)	1120	指標達成度 ※2	С		_	維持
		お客様満足度		55.4	目標値@	60		62.5	 %
	2			33.4	実績値®	59.2			
t	_	扫標の サービス会配丸「港ワ と	調査(H26回答数 1,402)において市バスの ちや満足、普通、やや不満、不満」の5段階で	H26	達成率(b/a)	98.7%		_	
具			まと、の合計をお客様満足度として算出	1120	指標達成度 ※1	b		_	
見旨票			12.79	目標値@	12.85		12.9	万人	
	3	リハハツ木干八玖()に	1 T 237	12.79	実績値⑥	13.1			
	3		こより乗車人数(1日平均)の増減の変動が大	H22~H26平均	達成率(b/a)	101.9%	Ò	_	1
			" きいため、H22からH26の実績値の平均値を現状値として算出 ※実績値は直近5か年の平均で算出		指標達成度 ※1	a		_	増減
		'			目標値@				
	4				実績値®				
	4	指標の			達成率(b/a)				
		説明			指標達成度 ※1				
		その他数値で把握で	きる補足指標 (指標の説明)		実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
	1				実績				
	'	指標の 説明			天祖				
	2	He law a			実績				
	2	指標の説明			大 恨				

定性的な成果

(取組を進めたこと で発現した効果など について記載)

指標等の 成果分析

●自転車関係事故及び通行人接触事故は減少しましたが、静止物接触事故、車内人身事故及び車両接触事故については前年度と比較して 増加し、大都市公営事業者の中ではトップレベルの安全性を維持したものの、結果として走行距離10万km当たりの有責事故発生件数は0.38件 となりました。

となりました。
(指標の目標値達成
●お客様満足度については、事務改善を図るため、若年層を含めた幅広い層のお客様から御意見をいただくなど、市バスナビと連携してWEBを阻む外的要因等
を含めて記載)
とから、一定の成果があったと考えます。

3	施策を構成す	る主	な事務事業の評価						
					事業費	(千円)	事業の		
番	事務事業コード	サービ	事務事業の概要		予算額	決算額	達成度	施策へ	今後の
号	事務事業名	え分類 ス分類	(簡潔に記載)	主な取組の実績	H28年度	H27年度 (※決算額は H29年度	見込)	の貢献 度	事業の 方向性
	40704010			●運輸安全マネジメントの着実な推進(輸送安全委員会:4回)	22,131	18,185			
1	市バス運輸安全マネ	その他	運輸安全マネジメントに基づき、輸送の安 全性向上に向けた取組を推進します。	●効果的な事故防止対策の実施 ●運行管理体制の充実・強化 ●運行ミス防止対策の実施	162,713	73,708	4		II 改善しな がら継続
	ジメント推進事業			●ドライブレコーダーの更新(塩浜、井田、鷲ヶ峰、上平間営業 所分:312両)	14,010				70 SHEIDE
	40704020		**************************************		801	730			
2	市パス安全教育推進事業	その他	輸送の安全を取り巻く状況の変化等に的確に対応した教育及び研修の充実を図ります。	●営業所研修(全運転手対象)の実施(営業所:8回) ●階層別研修、派遣研修の実施(派遣別研修・派遣研修25回)	735	626	3	A 貢献して いる	Ⅱ 改善しな がら継続
	予 未				735		L		
	40704030		到田中能以上に理接の本ル。ナのナナ ざ	●溝口駅南口広場整備に伴う、停留所位置変更、市民プラザ線 等の乗り入れ	13,082	12,407		R	п
3	市バスネットワーク推 進事業	その他	利用実態や走行環境の変化、市のまちづくりに対応した運行を行い、市バスネット ワークの維持・充実を図ります。	● たまプラーザ駅系統の社会実験の実施、本格運行の検討 ●溝口駅と新百合ヶ丘駅の接続に向けた検討 ●五所塚線の延伸による宮前区役所へのアクセス向上	8,282	9,185	2	り やや貢献 している	ュ 改善しな がら継続
	延尹未			●井田病院へのアクセス向上	55,668				
	40704040		わを送の書もわを送送り座ればの本ルナ	●市バスサービス向上研修(2回実施) ●大系領域(2回実施)	5,521	6,308			
4	市バスお客様サービス	その他		●「市バスお客様アンケート調査」の実施、調査結果の分析·検 証	5,850	8,186	3		I 現状のま ま継続
	推進事業			●「市バス定期券購入者調査」の実施、調査結果の分析・検証	9,312				
	40704050			●停留所上屋整備数(建替·補修整備)(14基実施) ●照明付標識(20基代替整備)	1,241,635	947,223		A	Ⅱ 改善しな がら継続
5	市バス移動空間快適	その他	バリアフリー化の推進や分かりやすい案 内サービスの充実などに取り組みます。	●ベンチ(50脚整備) ●ノンステップバス車両(6両更新)	1,205,355	1,096,390	2	貢献して 改	
	化事業			●巻き取り式車いす固定ベルト(全車両整備) ●タブレット型等運行情報表示器(13基設置、英語表示対応)	1,199,575				3411170
	40704060				31,748	20,656			I 現状のま ま継続
6	市バス事業基盤強化	その他	人材の確保・育成や営業所の計画的整備 など、安定的な事業基盤を構築します。	●公募非常勤嘱託運転手(22名採用) ●上平間営業所建替整備実施設計、第一期工事着手 ●職員表彰、職員提案、技能コンクール、職種別等研修の実施	103,339	41,595	2		
	事業				566,678				
	40704070			●上平間及び菅生営業所の管理委託	1,723,531	1,685,607			
7	市バス経営力強化事	その他	より一層のコスト削減などに取り組み、経 営力の強化を図ります。	●北部地域のバスネットワーク充実に向けた管理委託営業所及 び営業所管轄路線の見直しの調整・準備等 ●委託営業所の評価・検証(評価委員会:3回)	1,898,486	1,819,159	3		Ⅱ 改善しな がら継続
	業			●変形労働時間制の検証及び見直し	2,174,753				10 34111/30
	40704080			●大型ハイブリッドノンステップバス(1両導入) ●災害時の取組(局所管業務訓練と津波防災の日情報受伝達	2,214	16,766			
8	市バス地域貢献事業	その他	地域貢献に向けた取組を拡充するととも に、市バスのイメージアップに取り組みます。	訓練の2回実施) ●ギャラリーバス(365日運行) ●ノルフィンとハローキティのコラボによる事業展開	13,611	37,208	3	B やや貢献 している	Ⅱ 改善しな がら継続
				●藤子・F・不二雄ミュージアム5周年記念事業	12,346				
	40704090				119,202	3,588			
9	市バス経営計画推進	その他	交通局内の進捗管理会議等を活用し、 「市バス事業経営プログラム」に基づく事 業を効果的に推進します。	●交通局内進捗管理会議(2回開催) ●「市バス事業アドバイザリー・ボード」(1回開催)	9,735	3,085	3	B やや貢献 している	Ⅱ 改善しな がら継続
	事業				39,915				
10									
			I.	I .					

4 施策の進	善		
15-45-	区分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
進捗状況 (指標等の成果を中 心に施策を構成す る事務事業の評価 等から総合的に評	A. 順間に推移 (目標達成している) B. 一定の進捗がある (目標達成し向けて進捗している) C. 進捗は遅れている (目標達成が遅れる可能性がある) D. 進捗は大幅に遅れている (目標達成が難しい可能性がある)	В	●配下の事務事業の取組は、ほぼ掲げた目標どおりに進捗しています。 ●走行距離10万km当たりの有責事故発生件数の目標値は達成できませんでしたが、大都市公営事業者の中でトップレベルにある安全水準を維持することができました。 ●お客様満足度については、若年層を含めた幅広い層のお客様から多様な御意見をいただけるよう取組を進めている中、昨年度に比べより多くの満足度を得ることで目標に近い値となりました。

5 今後のプ	5 今後の方向性									
	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」							
今後の 事業構成の 妥当性 (<u>手段は妥当か?</u>)	I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する) ■. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) ■. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	Π	●有責事故発生件数(走行距離10万km当たりの有責事故発生件数)については、形態別目標を設定し重点的に事故防止に取り組むとともに、職長運転手の事故防止関係会議への参加といった新たな取組だけでなく、交通安全教室の実施拡充といった従来の取組を強化するなど、引き続き事故防止に取り組んでいきます。 ●お客様満足度については、若年層を含めた幅広い層のお客様から多様な御意見をいただくとともに、市バス輸送サービスの満足度が得られるよう継続して取組を進めていきます。							

既書	E C											
		事務事業コード	業コード 事務事業名 実施計画の									
事務-	事 業	40704010	市バス運輸	市パス運輸安全マネジメント推進事業								
	414	所属コード		所属名								
担 当		824400	交通局自動車	車部安全・サービス	(課							
\$ ₩₩₽			事業終了年度	事務・サービ	ス等 分類	[1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
美			_		_	その他	7	の他				
実施:	形態	☑ 市が直接実施	」 □ 一部委託	任 □ 全部委託	託·指定管理	□ ボランティア等との	の協働 口 そ	の他				
実施	根拠	☑ 国・県の制度	☑ 国・県の制度 □ 国・県の制度+市独自の制度 □ 市独自の制度									
(法令	•要綱等)	道路運送法、旅客目	自動車運送事業運輸	偷規則等								
総合計画と連携する計画等			コグラム									
行財政改革プログラムに			改革項目			課	題名					
する	課題名											
	左曲	H27年	F度	H28:	年度		H29年度					
	平及	予算額	決算額	予算額	決算額(見込	計画事業費	予算額	決算額				
	事業費 A	22,131	18,185	162,713	73,7	08 19,635	14,010					
財	国庫支出金	0	-	0		- 0	0					
源	市債	0	-	143,000		- 0	0					
千円) 内 その他特財		22,131	-	19,713		- 19,635	14,010					
一般財源		0	-	0		- 0	0					
人件費 [※] B				23,998	23,9	98 0	0	0				
#	総コスト(A+B)			186,711	97,7	06 19,635	14,010	0				
人工 (単位:人)				2.8	33							
	事 担 定 と と と 文 す 財源内訳 まます お まままる まままる まままる まままる まままる まままる ままま	上施 期間 上施 形態 上施 根拠 (法令・要綱等) 上連携する計画等 文革プ課題名 年度 事業費 A 財源 内駅 一般財源 一般財源 一般財源 人件費** B 総コスト(A+B)	事務事業	事務事業	事務事業	事務事業	本務事業コード 本務事業名 40704010 市パス運輸安全マネジメント推進事業 所属コード 824400 交通局自動車部安全・サービス課 事務・サービス等 分類1(市民サービス等) その他 での機関・	事務事業コード 40704010 市バス運輸安全マネジメント推進事業 所属コード 形属名 多24400 交通局自動車部安全・サービス課 予集開始年度 事業・サービス等 分類2(市民サービス等) 分類2(一の分類 その他 年度 本の本質 本の				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

実施結果(Do)

計画(Plan)								
	政策	総合的な交通体系を構築する						
政策体系	施策	市バスの輸送サービスの充実						
	直接目標	安全で快適な市バス輸送サービスを持続的に提供する						
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	バスを利用する市	、スを利用する市民等						
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	バスを利用する市	、スを利用する市民等に信頼されるよう、安全な輸送サービスを提供します。						
(どういった業務内容で、どのような	輸送の安全を確保するため、国の指針に基づき、交通事業管理者や安全統括管理者など経営トップの主体的な取組の下で、職員の安全意識の向上、PDCAサイクルの構築による安全管理体制の継続的改善、発生要因を踏まえた効果的な事故防止対策の実施などの取組を進めます。							
今年度の事業の取組内容 (具体的に <u>今年度</u> どのような活動を するのか)	①運輸安全マネジメントの着実な推進(輸送安全委員会:4回) ②効果的な事故防止対策の実施 ③運行管理体制の充実・強化 ④運行ミス防止対策の実施 ⑤ドライブレコーダーの更新(塩浜、井田、鷲ヶ峰、上平間営業所分:312両)							

ſ		上記「全	う年度	の事業の	1	1. 目標を大きく		_	標を下回っ				
	取	組内容	」に対	する達成度	4	2. 目標を上回っ 3. ほぼ目標どお		5. E	標を大きく	ト回った			
	「 <u>数</u> 値	記「当該年 直等でよ できる取	F度の取 り具体的 <u>組</u> 」、又)実績等 組内容」に対し、 記 に実績を示すこ は「 未達成部分 」 た部分 」を記載)	●走行距離10万km 事故、車内人身事故 維持したものの、結身 ます。	及び車両接触事故	については前年原	度と比輔	咬して増加し	、大都市公営事	業者の中では	ップレベルの安	全性を
	指标	票分類	娄	枚値で事業の	実績・効果等を把	握できる指標	(指標の説明))	目標·実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
		活動	マネジ	メントレビュー	(輸送安全委員会)				目標		4	4	
	'	指標	説明		を計画的に実施し、運輸安全 、輸送安全性の継続的な向」		の進捗管理や安全管理	体制の	実績	4	4		Ш
Ī	•	成果	走行路	主離10万km当	たりの有責事故発生	生件数			目標		0.28	0.28	111
	2	指標	説明		事故を有責事故発生件数とし は事故防止対策等の一定の原		うバス事業の使命である	安全運	実績	0.19	0.38		件
Ī	•								目標				
	3		説明						実績				
									目標				
	4		説明						実績				

評	価(C	check)												
	県・他団体の	社会環境の変化 動向や法改正、規 ロなど)	道路交通法の 見込まれるこ									ぶ齢化の進展に	子供い高齢者利用	用の増加が
4	業の見直	し・改善内容	☑ 実施	(直近)	∃ 28	年度		未実施						
	※過去に見	見直し・改善内容 直した履歴も記載 場合は記載	及C H27年度:自 重 H26年度:東 H24年度:與 H23年度:川 市 川 H22年度:運	ド 伝大内送書碕生バ崎バ行管車事人安時市営ス市ス管生接故身全に交業営交運理にお通所業通転業事生おしの所業通転業の原産の場所を表現した。	所な時ではいる。所な時である。所な時ではいる。これではいる。これではいる。これではいる。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	む全営業と 上マ対ス 対報伝を 対報伝を さい、 対報伝を さい、 が管理 でいた でいた でいた でいた でいた でいた でいた でいた	行のに、 強環でブレ系プリーの、、つ優化境運コよるロ者でする。 では、の頼コる改意のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、	両のでのでは、 のでは、 のでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	カメラを1かメラを1かかります。 また 大の 大き 意日 できる また かいっぱ まま まま まま まま まま まま まま とり かい	基表に主デジガーのびしめ、おおいたのでは、からない方のでは、からない方の性申運が、	5カメラ化) サンカーのを構成 サンカーの体制及が サインのをなった。 サインのをなった。 サインのをなった。 サインのをはます。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	などお客様へのないなど、本とは、本では、本では、本では、本では、本では、本では、本では、本では、本では、本で	業所応援体制を を実施 非常時連絡体制 解しやすい内容 を設置(任期1年	整備
				評化	西項目								評価	
	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?											a. 薄れて(b. 薄れて(а	
	必要性	【市が実施する必 他都市で、民間	る事例がないか?						a. ない b. ある		а			
		評価の理由	運輸安全マネ	ジメント制	度による	る安全管理	体制σ)構築・改	善が求め	かられて	おり、今後も、	自転車の車道	安全性を向上さ 走行の徹底等に 性の向上に取り	よる道路走
	有効性	【成果】 活動結果(活動持	指標等)に対し	事業の成績	果(成果指標等)は順調に上がっているか?						a. 上がっ ⁻ b, 徐々に c. 上がっ ⁻	上がっている	а	
	1377312	評価の理由	走行距離10 平均(平成26										おり、大都市公	営事業者の
		【 民間の活用 】 委託や指定管理	者制度など、	実施手法に	こついて	民間活用に	こよりコ	ストを削減	咸できる?	余地があ	るか?	a. 余地は b. 余地は c. 既に実	ある	a
	効率性	【事業手法等の見事業の成果を維 よる事務改善の可	持しながら、契		土様の見	直しなどに	こよる糸	圣費削減や	や事務手	続きの身	直しなどに	a. 可能性 b. 可能性		a
【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、同部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?								5、市民+	ナービス	や市役所内	a. 余地は b. 余地は c. 既に実	ある	b	
	運輸安全マネジメントに基づき、毎年度、取組の進捗管理、チェック、改善を継続的に実施しています。													
		貢	献度区分 _					上記「有	効性」の	成果等を	踏まえ左記	区分を選んだ理	里由	
	施策への 貢献度	策への A. 貢献している キャケル・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・									営事業者の			
					-				•					

	改善(A	ction)			
		方	Ⅲ. 事業規模拡大 Ⅳ. 事業規模縮小		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	今後の事業 の方向性	II. 改善しなか III. 事業規模打 IV. 事業規模 V. 事業廃止			静止物接触事故、車内人身事故及び車両接触事故について、形態別目標を設定し重点的に事故防止に取り組むとともに、職長運転手の事故防止関係会議への参加といった新たな取組だけでなく、街頭指導の実施時間の延長や関係機関と連携した交通安全教室の実施拡充といった従来の取組を強化するなど、引き続き事故防止に取り組んでいきます。
	今後の事業の方向性を 踏まえた次年度の計画上の 変更箇所		変更 (次年度 の記	計画上	
			変更 (上記計画上 対する変	の記載に	
			変更の	理由	

事業の	概引	Ę											
	-		事務事業コード		事務事業名 実施計								
1	事務	事業	40704020	市バス安全	教育推進事業	有							
	-	.16	所属コード		所属名								
担当			824400	交通局自動	車部安全・サービス	ス課							
	do +#-	40 BB	事業開始年度	事業終了年度	事務・サーヒ	て等	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)			
実施期間			_	_	の分類			その他	そ	の他			
	実施	形態	□ 市が直接実施	☑ 一部委訓	任 □ 全部委	託·指定	管理 [〕 ボランティア等との	D協働 口 そ	の他			
1	実施	根拠	□ 国・県の制度 ☑ 国・県の制度+市独自の制度 □ 市独自の制度										
	(法令	҈•要綱等)	旅客自動車運送事	業運輸規則第38约	条第1項及び第2項	頁、川崎ī	市安全運転	指導教育•特別指導	教育実施要綱等				
総合計画	と連	携する計画等	市バス事業経営プロ										
行財政改革プログラムに				改革項目				課	題名				
関連	車する	詩題名											
		年度	H27±	羊度	H28年度				H29年度				
		十段	予算額	決算額	予算額	決算	額(見込)	計画事業費	予算額	決算額			
		事業費 A	801	730	735		626	735	735				
予決算	財	国庫支出金	0	-	0		-	0	0				
(単位:	源	市債	0	-	0		-	0	0				
千円) 内 その他特財		801	-	735		-	735	735					
	訳 一般財源		0	-	0			0	0				
		人件費 [※] B			7,802		7,802	0	0	C			
	1	総コスト(A+B)			8,537		8,428	735	735	0			
人工 (単位:人)					0.9	92							

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画(Plan)								
	政策	総合的な交通体系を構築する						
政策体系	施策	市バスの輸送サービスの充実						
	直接目標	安全で快適な市バス輸送サービスを持続的に提供する						
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	運転手							
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	運転手の安全・サ	ービスへの意識の向上						
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような 手段で実施しているか)		運転手等の職員を対象とした安全教育・研修による人材育成の推進など、運輸マネジメントに基づく取組を着実に推進し安全な輸送サービスの確保と安全水準の更なる向上に取り組みます。						
		運転手対象)の実施(営業所研修:8回) 遺研修の実施(派遣別研修・派遣研修25回)						
今年度の事業の取組内容 (具体的に <u>今年度</u> どのような活動を するのか)								

取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「教値等でより具体的に実績を示すこ。 (①営業所研修(全運転手対象)の実施(営業所研修:8回)		
とができる取組」、又は「未達成部分」 (②階層別研修、派遣研修の実施(派遣別研修・派遣研修25回) 若しくは「 より達成できた部分 」を記載)		
指標分類 数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明) 目標・実績 H27年度 H28年度	H29年度	単位
営業所研修 目標 8	8	
指標 説明 運転手を対象とした安全教育に係る各種研修 実績 8 8		回
2 活動 階層別研修 目標 25	25	
2 指標 説明 運転手を対象とした安全教育に係る各種研修 実績 25 25		Ш
目標		
3 説明 実績		
目標		
3		

評	評 価(Check)											
	県・他団体の	社会環境の変化 動向や法改正、規 印など)	健康管理や実	労基法遵 す。	守の	観点	から、運転	手の服	寺間外勤務の縮減が課題であるとともに、	、営業所の事務負担を軽減するが	ための対	
4	業の見直	し・改善内容	☑ 実施	(直近)	Н	27	年度		未実施			
	具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載 できる場合は記載										٥-	
	評価項目											
	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか? a. 薄れていない b. 薄れている											
	必要性 (市が実施する必要性) a. ない 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか? b. ある											
	評価の理由輸送の安全を取り巻く状況に応じて教育及び研修が求められており、今後も教育及び研修を充実していく必要があります。											
	【成果】 a. 上がっている 方動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか? b. 徐々に上がっている c. 上がっていない c. 上がっていない									b		
		評価の理由	状況の変化	等に適確に	こ対ル	応しか	た研修を実施	もして	います。			
		【 民間の活用 】 委託や指定管理	者制度など、	実施手法	につ	いて	民間活用に	より	コストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	а	
	, 등 등 사는	【事業手法等の見事業の成果を維 よる事務改善の可	持しながら、き		仕様	もの 見	見直しなどに	よる	経費削減や事務手続きの見直しなどに	a. 可能性はない b. 可能性はある	а	
	数率性									b		
		評価の理由	計画に基づる	き、継続的	に実	施し	ています。					
		黄	献度区分						上記「有効性」の成果等を踏まえ左記	区分を選んだ理由		
	施策への											

	改善(A	ction)							
		方向性区分			実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性				
	今後の事業 の方向性		基業規模縮小 ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■		運転手等の安全教育・研修による人材育成の推進など、運輸マネジメントに基づく取組を着実に推進し、安全な輸送サービスの確保と安全水準の向上に向けた取組を継続して行います。				
	今後の事業の方向性を 踏まえた次年度の計画上の 変更箇所		変更<u>前</u> (次年度計 の記載	画上					
			変更 <u>後</u> (上記計画上の記載に 対する変更点)						
			変更の理	曲					

事業の	概引	Ę											
			事務事業コード		事務事業名 実施計								
· ·	事務	事業	40704030	市バスネッ	トワーク推進事業 有								
		414	所属コード		所属名								
担当		当	824300	交通局自動	車部運輸課								
		#0 BB	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービ	ス等 分類1	分類1(市民サービス等)		内部事務)				
実施期間			_	_	の分類	_	_		_				
	実施	形態	□ 市が直接実施	☑ 一部委訓	壬 🗌 全部委割	托·指定管理	□ ボランティア等との	の協働 口 そ	の他				
	実施	根拠	□ 国・県の制度	□ 国・県の制度 □ 国・県の制度+市独自の制度 ☑ 市独自の制度									
	(法令	ì·要綱等)											
総合計画と連携する計画等			まち・ひと・しごと創む	生総合戦略、総合	都市交通計画、市	バス事業経営プロ	グラム						
行財政改革プログラムに				改革項目			課	題名					
関連	車する	課題名											
		在中	H27年	F度	H28	年度		H29年度					
		年度	予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額				
		事業費 A	13,082	12,407	8,282	9,185	11,666	55,668					
予決算	財	国庫支出金	0	-	0	-	0	0					
(単位:	源	市債	0	-	0	_	. 0	39,000					
千円) 内 その他特財		その他特財	13,082	-	8,282	_	11,666	16,668					
	訳	一般財源	0	-	0	_	. 0	0					
		人件費 [※] B			54,696	54,696	0	0	0				
	i	総コスト(A+B)			62,978	63,881	11,666	55,668	0				
人	工(単	i位:人)			6.4	15							

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計 画(Plan)								
	政策	総合的な交通体系を構築する						
政策体系	施 策 市バスの輸送サービスの充実							
	直接目標	安全で快適な市バス輸送サービスを持続的に提供する						
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	バスを利用する市	、 スを利用する市民等						
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	公共交通機関を利	共交通機関を利用しての移動について、利便性を高めます。						
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような 手段で実施しているか)	利用実態や走行環	可用実態や走行環境の変化、市のまちづくりに対応した運行を行い、市バスネットワークの維持・充実を図ります。						
今年度の事業の取組内容 (具体的に <u>今年度</u> どのような活動を するのか)	① 溝口駅南口駅前広場の整備完了後のバス停留所位置変更等の対応 ② 北部地域の輸送需要等に対応する路線の見直し ・たまプラーザ駅接続に向けた社会実験の実施、検討 ・溝口駅と新百合ヶ丘駅の接続に向けた検討 ③ 高齢化に対応した路線の見直し ・井田病院へのアクセス向上 ④ 産業道路駅前交通広場や臨港道路東扇島水江町線の整備にあわせた塩浜営業所管内の路線見直しの検討							

		171	• = •										
取			の事業の する達成度	4	2 :	1. 目標を大きく 2. 目標を上回っ 3. ほぼ目標ど	って達成		標を下回っ 標を大きく				
「豊	:記「当該 (値等で 。 ができる)	年度の取 り具体的 収組 」、又)実績等 組内容」に対し、 <u>Iに実績を示すこ</u> は「 <u>未達成部分</u> 」 た部分」を記載)	①につい 性を重視! ②につい ③につい	し、乗り場位置 ては、上記のf	Dスペースが限 の変更を行いる 也、五所塚線の 東口から井田病	られる中で、他事 ました。 宮前区役所への3 院への便を大幅は	延伸を検	討し、実施	しました。			
推	標分類	娄	女値で事業の	実績·効	果等を把握	できる指標	(指標の説明	l)	目標·実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
									目標				
Ľ		説明							実績				
2									目標				
Ĺ		説明							実績				
									目標				
3		説明							実績	/			
									目標				
4		説明							実績	-			

評価(Check)												
(国・県・他団体(〈社会環境の変化 の動向や法改正、規 和など)											されています。また、市民ニー への対応が求められています	
事業の見正	し 改善内容	☑ 実施	(直近) ト	- 27	年度		未実施						
※過去に	:見直し・改善内容 見直した履歴も記載 る場合は記載	清 ; H26年度∶都	構口駅南口 構口駅と新 井田病院へ	駅前広場 百合ヶ丘 のアクセ 路菅早野	場の整備其 ∶駅の接続 セス向上に F線の整備	期間中 に向け 向けた 情に伴う	のバス(けた検討 :検討、 市バス	停留所(ダイヤ♂ の新系	位置変 效正作業 統運行	*	応、整備等	完了後の乗り場等についての	調整
			評値	西項目								評価	
	【市民のニーズ】 事業を取り巻く理	環境の変化等に	こより、事業	だに対する	るニーズカ	が薄れ [・]	ていなし	いか?				a. 薄れていない b. 薄れている	а
必要性	【市が実施する必 他都市で、民間		是供している	る事例が	ないか?							a. ない b. ある	b
	評価の理由 市の施策と密接して事業を展開する公営交通として、今後も市バスネットワークを											き実する必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動	指標等)に対し	事業の成績	果(成果	指標等)は	順調は	こ上がっ	ている	か?			a. 上がっている b, 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	ダイヤ改正に	より井田病	病院への	アクセス向	上行い	い、輸送	きサービ	スの充	実をもた	らしていま	र द े .	
	【 民間の活用 】 委託や指定管理	者制度など、	実施手法に	こついて	民間活用に	こより=	コストをi	削減でき	きる余地	!があるカ	٧,	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
効率性	【事業手法等の見事業の成果を維 よる事務改善の可	持しながら、契		士様の見	直しなどに	こよる糸	经費削》	載や事 剤	答手続き	の見直し	んなどに	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
刈 平住	【質の向上】 事業を適正な(道 部(職員・組織)の						行いなれ	がら、市	民サー	ビスや市	役所内	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	管理委託営業 能性がありま		に伴い、	管轄路線	の見画	— <u>—</u> 直しが次	年度以	は降も予!	定されて	いることか	^ら、効率的なダイヤへ見直し	を行える可
	黄	献度区分 _					上記「	有効性.	」の成果	等を踏っ	まえ左記	区分を選んだ理由	
施策への 貢献度	A. 貢献してい B. やや貢献し C. 貢献の度名	ている			院へのアク ービスを充							溝口駅南口広場への乗り入れ	などにより、

i	改善(A	ction)			
		方「	向性区分 _		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	今後の事業 の方向性	I. 現状のまま II. 改善しなか III. 事業規模 IV. 事業廃止 VI. 事業終了	ら継続 広大		今後も市民ニーズや高齢化社会への対応に向けて、市のまちづくり施策と連携した拠点駅や公共施設へ の接続、利用実態に即したダイヤ改正などに取り組み、市バスネットワークの維持、充実を図ってまいりま す。
		後の事業の方向性を えた次年度の計画上の		<u>前</u> 十画上 丸)	・宮前区役所へのアクセス向上に向けた取組の推進 (五所塚線の延伸)平成30年度実施
j	踏まえた次年			<u>後</u> の記載に 更点)	・宮前区役所へのアクセス向上に向けた取組の推進 (五所塚線の延伸)平成28年度実施
			変更のヨ	理由	・委託営業所の変更に伴うダイヤ改正にあわせ、五所塚線延伸を実施したため

事業の	概引	Ę												
			事務事業コード			事務事業	名		実施計画の記載					
	事務	事業	40704040	市バスお客	様サービス推進	事業			有					
		414	所属コード				所属名							
	担	当	824400	交通局自動車	車部安全・サービス	裸								
		#0 BB	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービ	ス等分	頃1(市民サービス等)	分類2(内部事務)					
	天 肔	期間	_	_	の分類		その他		_					
	実施	形態	☑ 市が直接実施	☑ 一部委託	壬 🗌 全部委託	託·指定管理	□ ボランティア等と	:の協働 口 そ	の他					
	実施	根拠	□ 国・県の制度	□ 国・県の制度 □ 国・県の制度 + 市独自の制度 ☑ 市独自の制度										
	(法令	ì·要綱等)	川崎市バスサービ	ス向上推進本部設	置要綱									
総合計画	iと連	携する計画等	市バス事業経営プ	ログラム										
		プログラムに		改革項目			1	果題名						
関連	車する	課題名												
		年度	H27⁴	年度	H28:	年度		H29年度						
		十段	予算額	決算額	予算額	決算額(見)	(L) 計画事業費	予算額	決算額					
		事業費 A	5,521	6,308	5,850	8	186 5,850	9,312						
予決算	財	国庫支出金	0	-	0		- 0	0						
(単位:	源	市債	0	-	0		- 0	0						
千円)	内	その他特財	5,521	-	5,850		- 5,850	9,312						
	訳	一般財源	0	-	0		- 0	0						
		人件費 [※] B			25,016	25	016 0	0	0					
	i	総コスト(A+B)			30,866	33,2	02 5,850	9,312	0					
	人工 (単位:人) 2.95													

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画(Plan)		
	政策	総合的な交通体系を構築する
政策体系	施策	市バスの輸送サービスの充実
	直接目標	安全で快適な市バス輸送サービスを持続的に提供する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	バスを利用する市	民等
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	市バスサービスポ	リシーの実践を通してお客様に満足いただけるサービスを提供します。
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような 手段で実施しているか)		リシーの実践により、日々のお客様からの意見・要望である「お客様の声」やお客様の満足度などの変化を踏ま供するとともに、「お客様満足度」の向上を図ります。
今年度の事業の取組内容 (具体的に <u>今年度</u> どのような活動を するのか)	向上研修:2回) ②添乗観察の実が ③「市バスお客様	向上推進本部会議の運営を通じた施策の進捗管理・評価・改善によるサービスポリシーの着実な推進(サービス 他と個別助言・指導等による継続的なサービスの向上(添乗観察:2回) アンケート調査」の実施、調査結果の分析・検証 購入者調査」の実施、調査結果の分析・検証

				の事業のする達成度	3	1. 日標を入るへ 2. 目標を上回っ 3. ほぼ目標どお	て達成		目標を大きく				
	取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」 若しくは「より達成できた部分」を記載) 指標分類 数値で事業の実績・効果等を把握できる指標(指標の説明) 目標・実績 H27年度 H28年度 H29年度												
	指相	東分類	娄	枚値で事業の	実績・効果等を把	!握できる指標	(指標の説明))	目標·実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
		活動	サービ	ス向上研修					目標		2	2	
	'	指標	説明	運転手を対象にした。	サービス重点項目や「お客様	の声」を反映した接遇につ		実績	2	2			
	,	活動	添乗制	際					目標		2	2]
	2	指標	説明	運転手を対象にした	覆面調査員の添乗による安全	È・サービス項目の実施 <i>の</i>)チェック		実績	2	2		
	,								目標				
	3		説明						実績				
	4								目標				
	4		説明						実績				
_					·	· ·							

評	価(Check)									
	·県·他団体の	社会環境の変化 動向や法改正、規 和など)						など、市バスを取り こが求められている		切に対応するため、運転手等へ	のサービ
3	事業の見直	し・改善内容	☑ 実施	(直近) H	∃ 25	年度	□ :	未実施			
	※過去に見	見直し・改善内容 直した履歴も記載 場合は記載						の行動基準の策なスポ客様アンケー	È ┣┣ままで現行調査(こ改め、実施	
				評値	西項目					評価	
		【市民の二一ズ】 事業を取り巻く環	環境の変化等に	こより、事業	美に対す	ナるニーズが	薄れて	こいないか?		a. 薄れていない b. 薄れている	а
	必要性	【市が実施する必 他都市で、民間			a. ない b. ある	a					
		評価の理由	市バスサーヒ に取り組むこ		民やお客様の声にこたえ、満足	を頂くため					
	有効性	【成果】 活動結果(活動持	指標等)に対し	事業の成績	果(成果	見指標等)は	順調に	上がっているか?		a. 上がっている b, 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
		評価の理由	サービスポリ	シーの実践	桟につし	いて行ってい	るお客	様アンケートの総	合満足度が昨年度に	比べ向上しているため。	
		【 民間の活用 】 委託や指定管理	者制度など、	実施手法に	こついて	て民間活用に	よりコ	ストを削減できるタ	余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	С
	効率性	【事業手法等の見事業の成果を維 よる事務改善の可	持しながら、多		土様の	見直しなどに	よる紹	経費削減や事務手	続きの見直しなどに	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	刈年ほ	【質の向上】 事業を適正な(過 部(職員・組織)の						テいながら、市民+	ナービスや市役所内	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	
		評価の理由	運転手への流	忝乗観察業	務につ	いては、すっ	でに外	部事業者に委託済	斉みである 。		
		貢	献度区分					上記「有効性」の	成果等を踏まえ左記	区分を選んだ理由	
	施策への 貢献度	かり、指導すべき点を改善させ ^ん の貢献はありました。	ることでお								

改善(A	ction)			
	方「	向性区分 _		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業 の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了		I	市バスサービスポリシーに基づき、次年度以降もお客様の声を聴取しながら、事業に反映してまいります。
		変更 (次年度詞 の記載	画上	
踏まえた次年	業の方向性を F度の計画上の 更箇所 対する		の記載に	
		変更の	理由	

事業の	概引	Ę													
	-		事務事業コード			事務	8事業名			実施計画の記載					
1	事務	事業	40704050	市バス移動	空間快適化事業	集				有					
	-	.16	所属コード		所属名										
	担	当	824100	交通局自動車	車部管理課										
	do +4-	40 BB	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービ	ス等	分類1(市民サービス等)		分類2(内部事務)					
	天 .他	期間	_	_	の分類	i	施彭	との管理・運営	内部	部管理					
	実施	形態	☑ 市が直接実施	□ 一部委託	£ □ 全部委託	託·指定的	管理 [〕 ボランティア等との	の協働 口 そ	の他					
1	実施	根拠	□ 国・県の制度 □ 国・県の制度+市独自の制度 ☑ 市独自の制度												
	(法令	҈•要綱等)													
総合計画	iと連	携する計画等	都市計画マスタース	部市計画マスタープラン、総合都市交通計画、市バス事業経営プログラム											
行財政	改革:	プログラムに		改革項目				課	題名						
関連	車する	課題名													
		年度	H27年	F度	H28年度										
		十尺	予算額	決算額	予算額	決算額	頂(見込)	計画事業費	予算額	決算額					
		事業費 A	1,241,635	947,223	1,205,355		1,096,390	1,144,101	1,199,575						
予決算	財	国庫支出金	2,756	-	2,823		-	3,133	3,693						
(単位:	源	市債	61,000	_	173,000		-	115,000	159,000						
千円)	内	その他特財	1,164,181	_	1,000,338	_		1,012,036	1,007,638						
	訳	一般財源	13,698	_	29,194		-	13,932	29,244						
		人件費 [※] B			67,416		67,416	0	0	0					
	i	総コスト(A+B)			1,272,771	1,	163,806	1,144,101	1,199,575	0					
人	工(単	位:人)			7.9	95				•					

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

実施結果(Do)

活動

指標

タブレット型等運行情報表示器の設置数

利便性の向上のため、複数系統が連行する停留所や利用されるお客様が多い停留所に連行情報表示器 を設置します。

計画(Plan)		
	政策	総合的な交通体系を構築する
政策体系	施策	市バスの輸送サービスの充実
	直接目標	安全で快適な市バス輸送サービスを持続的に提供する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	バスを利用する市	民等
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	バスを利用する市	民等の利便性・快適性の向上を図るため
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような 手段で実施しているか)	ノンステップバスの	・ベンチを計画的に新設・建替(代替)します。また、広告付きバス停留所上屋の整備を推進します。)更新により、バリアフリー法に適合した低床バス導入率100%を維持します。 案内のために、タブレット型等運行情報表示器を設置します。
今年度の事業の取組内容 (具体的に <u>今年度</u> どのような活動を するのか)	②照明付標識は、 ③ベンチは、都市: ④ノンステップバス ⑤巻き取り式車い	景観や長寿命化に配慮した仕様のベンチ50脚の整備

	WC TH											
			の事業の する達成度	2		標を下回っ 標を大きく						
「数f とが	記「当該 ^会 直等でよ できる取	F度の取 リ具体的 組」、又) 実績等 組内容」に対し、 <u>別に実績を示すこ</u> は「 <u>未達成部分</u> 」 <u>た部分</u> 」を記載)	①上屋整備について ②照明付標識につい ③ベンチについては ④ノンステップバス車 ⑤巻き取り式車いす ⑥タブレット型等運行	ヽては、20基代替整 、都市景観や長寿命 遠両については、昨年 固定ベルトについて	備 う化に配慮した化 手度購入出来な は、全車両に整	±様のべ かった分 強備	ンチ50脚()の1両と藤	子線の1両を含む	む6両の更新		
指	票分類	娄	枚値で事業の	実績・効果等を把	握できる指標	(指標の説明	∄)	目標·実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
	活動	停留所	斤上屋整備数 (建替•補修整備)				目標		14	14	
1	指標	説明	老朽化の著しい箇所	fについて建替えを行います。				実績	14	14		基
	活動	照明作	寸標識整備数					目標		20	20	基
2	指標	説明	老朽化の著しい箇所	「について、メンテナンスの簡素	易化及び省エネの観点から	SLED照明を採用しま	す。	実績	20	20		基
•	活動	ベンチ	整備数					目標		50	50	n+r
3	指標							実績	50	50		脚
	活動	ノンス	テップバス車配	更新数				目標		4	3	_
4	指標	説明	車両配置計画に基づ	ゔきノンステップバスの車両更	新を行います。			実績	1	6		両

目標

実績

5

13

13

13

基

評	価(の	check)										
	・県・他団体の	社会環境の変化 動向や法改正、規 ロなど)	近年、外国人 の増加が見込							の開催など	ご、今後も本市を訪れる外国人	観光客等
3	事業の見直	し・改善内容	☑ 実施	(直近) H	28	年度	□ 未実施	Ē				
	※過去に見	見直し・改善内容 直した履歴も記載 場合は記載	H28年度:タフ	ブレット型等選	②行情	報表示器に	ついて、英語	語表示に対	対応したものを	を導入しまし	.†=。	
				評価	項目						評価	
		【市民のニーズ】 事業を取り巻く環		a. 薄れていない b. 薄れている	а							
	必要性	【市が実施する必 他都市で、民間		a. ない b. ある	b							
		評価の理由	きます。									
	有効性	【成果】 活動結果(活動持	指標等)に対し	,事業の成果	(成果	!指標等)は	順調に上が [。]	っているか	٧?		a. 上がっている b, 徐々に上がっている c. 上がっていない	а
	1379312	評価の理由	タブレット型選	重行情報装置	の設	置で、バスだ	いつ来るか	いがわかる	うなどお客様 <i>σ</i>)利便性を	句上しています。	
		【 民間の活用 】 委託や指定管理	者制度など、	実施手法につ	いて	民間活用に	よりコストを	削減できる	る余地がある	か?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	С
	効率性	【事業手法等の見 事業の成果を維 よる事務改善の可	持しながら、多		様の見	見直しなどに	よる経費削	減や事務	手続きの見直	[しなどに	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	刈平江	【質の向上】 事業を適正な(過 部(職員・組織)の						がら、市日	ミサ <i>ー</i> ビスやテ	市役所内	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由 上屋の建替えにおける標識とベンチの一体型の採用、都市景観・長寿命化に配慮した座りやすいベンチの採用、広告付き 留所の整備など、仕様の見直しによる維持費等の経費削減や市民サービスの向上に取り組んでいます。											
		黄	献度区分				上記「	有効性」	の成果等を踏	まえ左記図	区分を選んだ理由	
į	施策への 貢献度 A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い A 一体型上屋の設置や、英語表示にも対応したタブレット型運行情報装置の設置については、お客											客様の利便

改善(A	ction)			
	方	向性区分 .		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業 の方向性				お客様サービス向上に向けて、計画的なバス停留所施設の整備等を行い、お客様の利便性・快適性の向 上を図るため、多言語化などに対応しながら事業内容を継続していく必要があります。
	今後の事業の方向性を 踏まえた次年度の計画上の 変更箇所		前 計画上 載)	
踏まえた次年			<u>後</u> :の記載に 更点)	
		変更の	理由	

事業の	概引	Ę											
			事務事業コード			事形	8事業名			実施計画の記載			
	事務 [·]	事業	40704060	市バス事業	業基盤強化事業 有								
			所属コード		所属名								
	担	当	822100	交通局企画管	管理部庶務課								
		Wa 00	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービ	ス等	分類1(市民サービス等)		分類2(内部事務)			
	実施	期间	_	_	710 7 274					部管理			
	実施	形態	□ 市が直接実施	☑ 一部委託	£ □ 全部委割	託·指定的	管理 [〕 ボランティア等との	の協働 口 そ	の他			
:	実施	根拠	□ 国・県の制度 □ 市独自の制度 □ 市独自の制度										
		ì•要綱等)	地方公務員法、労働	動安全衛生法、労働	b安全衛生規則、J	崎市職	員の任用に	こ関する規則等					
総合計画	iと連	携する計画等	市バス事業経営プロ	ログラム									
		プログラムに		改革項目				課	題名				
関連	車する	課題名	2(9) 公営企業の	D経営改善	9 市バス			の安定的な事業運営	常に向けた人材の	確保と育成			
		在中	H27±	丰度	H28年度								
		年度	予算額	決算額	予算額	決算額	頂(見込)	計画事業費	予算額	決算額			
		事業費 A	31,748	20,656	103,339		41,595	433,101	566,678				
予決算			0	-	0		-	0	0				
(単位:	(単位: 源 市債		0	_	93,000		-	419,000	537,000				
千円)	千円) 内 その他特財		31,748	-	10,339			14,101	29,678				
	一般財源		0	-	0		-	0	0				
人件費*		人件費 [※] B			18,232		18,232	0	0	0			
A 計員 B 総コスト(A+B)					121,571		59,827	433,101	566,678	0			
人	工(単	·位:人)			2.1	15		'					

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画(Plan)		
	政策	総合的な交通体系を構築する
政策体系	施策	市バスの輸送サービスの充実
	直接目標	安全で快適な市バス輸送サービスを持続的に提供する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	①採用 運転手: ②上平間営業所發 ③研修 職員	=大型2種免許保有者、整備職=2級自動車整備士免許(ガソリンまたはジーゼル)保有者 建替整備
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)		者を確保し、高倍率の競争試験による質の高い合格者の確保 の建替工事の実施 の実施
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような 手段で実施しているか)	す。また、公募非常す。 ②建替に伴う法的	受験者増を図り、筆記・面接選考等に加え、実技選考を取り入れ、よりレベルの高い職員を採用するよう努めま 常勤嘱託運転手の採用については、応募者が希望する営業所での採用を実施する等多様な採用選考を実施しま な手続きや費用対効果を考慮した設計・工事の実施 もの取組や職種ごとの研修計画に基づく研修を実施
今年度の事業の取組内容	非常勤嘱託運転引日も応募者の希望 また、ライフスタイ、 ②建築基準法の語	○交換等による必要人員の変更を踏まえ、退職動向等を勘案した計画的な採用選考等を計画・実施します。公募 ●の採用については、より多くの応募者を募るため、応募者が希望する営業所での採用を実施するとともに、受験 を極力取り入れ実施します。 ルの多様化に対応した短時間勤務嘱託職員の募集も併せて実施します。 F可取得、営業所の実施設計、第一期工事着手 提案、技能コンクール、職種別等研修を実施

Ĺ.		7年度	の事業の する達成度	2	1. 目標を大きく。 2. 目標を上回っ 3. ほぼ目標どお	て達成		標を下回っ 標を大きく				
「 <u>数</u>	記「当該年 値等でよ り できる取	度の取り 具体的 組」、又は	実績等 組内容」に対し、 <u>に実績を示すこ</u> は「 <u>未達成部分</u> 」 た部分」を記載)	厳しい状況の中、退 ため、求人広告の引	成しましたが、特にな 退職動向を踏まえなか 金化だけでなく、応募 とで応募者が増加し	公募非常勤嘱託 がら経営状況や 者が希望する営	多様な働 業所での	き方への対 の採用を実	t応を考慮し、公 施するとともに、	募非常勤嘱託運 受験日も応募者	転手の活用を図	図る
指	標分類	数	植で事業の	実績・効果等を	巴握できる指標	(指標の説明	月)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
	成果	公募嘱	託運転手職員	員数(年度当初在第	着者)			目標		30	45	Τ.
'	指標	説明	翌年度4月1日に在第	籍している公募嘱託運転手	数			実績	30	42		^
	活動	市長表	彰制度の運用	Ħ				目標		1	1	
2	指標	説明	各年度において勤務	系成績が特に優秀な職員を で	市長から表彰			実績	1	1		
	活動	職員摄	案制度の運用	Ħ				目標		1	1	
3	指標	説明	交通局職員から事務	務改善に資する提案を募集し	し優れた提案を表彰			実績	1	1		
	活動	技能コ	ンクールの実	施				目標		1	1	
4	指標	説明	各営業所の代表運転	芸手が安全・サービスの技能	とを競い合い市民代表も含む	かた審査員が評価		実績	1	1		

評	価(の	check)											
事	県・他団体の	社会環境の変化 動向や法改正、規 ロなど)	大型二種免	許保有者の》	域少∙≀	高齢化							
事	業の見直	し・改善内容	☑ 実施	(直近) H	28	年度		未実施					
	※過去に見	見直し・改善内容 直した履歴も記載 場合は記載	人広告を掲 H27年度:応	128年度:公募嘱託運転手の求人広告の強化のため、1都8県(関東地方・静岡・山梨)の各都県販売シェア1・2位の新聞全てに求 人広告を掲載、短時間勤務(週20時間勤務)の職を直営全営業所に拡大 127年度:応募者のニーズにあわせて、配属希望営業所において都合のよい受験日で実技選考実施、優良な公募嘱託運転手について、正規採用選考時の実技試験を免除、高齢者や女性などの多様なライフスタイルに対応可能な短時間勤務(週20時間勤務) D職を設置									
				評価	項目				評価				
П		【市民のニーズ】 事業を取り巻く理	環境の変化等	により、事業	こ対す	トるニーズだ	が薄れ	ていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	а			
	必要性	【市が実施する必 他都市で、民間:		提供している	事例	がないか?			a. ない b. ある	b			
		評価の理由	市バスネット	ワークの維持	∳•充፮	実や持続可	『能な事	事業運営を図るため、人材の確保・育成や	o営業所の計画的整備などが必	要です。			
	有効性	【成果】 活動結果(活動:	指標等)に対し	」事業の成果	(成果	a. 上がっている b, 徐々に上がっている c. 上がっていない	а						
		評価の理由						望する営業所での採用を実施するとともに となり、、市バス事業の基盤強化につなが		取り入れ			
		【 民間の活用 】 委託や指定管理	者制度など、	実施手法に	ついて	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	С						
	効率性	【事業手法等の見事業の成果を維 よる事務改善の可	持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどに						a. 可能性はない b. 可能性はある	a			
	<i>N</i> IFIC	【質の向上】 事業を適正な(近 部(職員・組織)の				行いながら、市民サービスや市役所内	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	C					
		評価の理由						が、直営営業所の人材確保と市長表彰や ことは、市バス事業の基盤強化につなが		などによ			
		貢	献度区分					上記「有効性」の成果等を踏まえ左記は	区分を選んだ理由				
	重策への 貢献度	A. 貢献してい B. やや貢献し C. 貢献の度名	ている					送サービスを持続的に提供するため、安 よる経営基盤の確保が行われたことから.					
					-								

改善(A	ction)			
	方	向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業 の方向性				市バスネットワークの維持・充実や持続可能な事業運営を図るため、人材の確保・育成や営業所の計画的 整備などは今後も継続的に実施する必要があります。
			<u> </u>	
			<u>前</u> 計画上 載)	
今後の事業 踏まえた次年 変更	度の計画上の	変更 <u>後</u> (上記計画上の記載に 対する変更点)		
		変更の	理由	

事業の	概	要												
	wier Wils		事務事業コード			事務事業名	i		実施計画の記載					
	争務	事業	40704070	市バス経営	力強化事業				有					
	.m	N/e	所属コード				所属名							
	担	当	822300	交通局企画管	营理部経営企画課									
		.44.00	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービ	ス等 分類	i1(市民サービス等)	分類2(内部事務)					
	実施	期間	_	- の分類 その他 その他										
:	実施	形態	☑ 市が直接実施	☑ 一部委託	□ 全部委割	託·指定管理	□ ボランティア等と	の協働 口 そ	の他					
	実施	根拠	□ 国・県の制度	□ 国・県の制度 ☑ 国・県の制度+市独自の制度 □ 市独自の制度										
	(法令	吟•要綱等)	道路運送法、交通局	B関係の条例・規程	等									
総合計画	で連	携する計画等	市バス事業経営プロ	1グラム										
行財政	改革	プログラムに		改革項目			鹊	題名						
関注	連する	5課題名	2(9) 公営企業の	経営改善		7 市バ	ス営業所業務の管理	委託の活用						
			2(9) 公営企業の	経営改善		8 市バ	ス事業における労働の)生産性向上に向	けた取組の強化					
		年度	H27年	度	H284	年度								
		平及	予算額	決算額	予算額	決算額(見込	計画事業費	予算額	決算額					
		事業費 A	1,723,531	1,685,607	1,898,486	1,819,1	59 2,077,790	2,174,753						
予決算	予決算 (単位: 財源 国庫支出金 市債		0	-	0		- 0	0						
(単位:			3,000	_	9,000		- 3,000	3,000						
千円)	内訳	その他特財	1,720,531	-	1,889,486		- 2,074,790	2,171,753						
	76	一般財源	0	_	0		- 0	0						
		人件費 [※] B			25,440	25,4		0	0					
総コスト(A+B)					1,923,926	1,844,59	9 2,077,790	2,174,753	0					
人	人工 (単位:人)				3	3		·						

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

実施結果(Do)

計 画(Plan)		
	政策	総合的な交通体系を構築する
政策体系	施策	市バスの輸送サービスの充実
	直接目標	安全で快適な市バス輸送サービスを持続的に提供する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	バスを利用する市	民等
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	より一層のコスト肖	川減などに取り組み、経営力の強化を図ります。
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような 手段で実施しているか)	・ 北部地域のバス・ 自動販売機設置・ 乗車券制度の構造・ 運転手の業務の	等を対象に、運行管理業務等を民間バス事業者へ委託する「管理の受委託」を実施します。 スネットワーク充実に向けた管理委託営業所及び営業所管轄路線の見直しを行います。 置、駐車場等の土地貸付により、交通局が保有する資産の有効活用を行います。 食証及び見直しを行います。 の効率化を図るため、変形労働時間制について、更なる効率化に向けて検証を行います。 動務体制の見直しや事務職員の業務の効率化を図り、時間外勤務の縮減を図ります。
今年度の事業の取組内容 (具体的に <u>今年度</u> どのような活動を するのか)	② 北部地域のバ ③ 委託営業所の ④ 交通局が保有 ⑤ 乗車券制度の ⑥ 変形労働時間	生営業所の管理委託 スネットワーク充実に向けた管理委託営業所及び営業所管轄路線の見直しの調整・準備等 評価・検証(評価委員会:3回) する土地等資産の有効活用 見直し後の検証及び新たな見直しの検討 制の検証及び見直し 員の勤務形態の検証及び見直し

			の事業の する達成度	3	1. 目標を大きく 2. 目標を上回っ 3. ほぼ目標ども	って達成		標を下回っ				
「 <u>数</u>	記「当該 ^会 値等でよ できる取	度の取 り具体的 組」、又()実績等 組内容」に対し、 <u>Iに実績を示すこ</u> は「 <u>未達成部分</u> 」 た部分」を記載)	目標どおり達成でき ③の管理の川崎市3 ④の交通局が保有す ⑤の乗車券制度につ ⑥の変形労働時間制 ⑦の営業所事務職員	交通局営業所管理 する土地等資産のす ついては、1日乗車 制の更なる効率化に	有効活用について 券の料金改定、匠 こ向け、ダイヤ改	は、旧紀 到数乗車 Eにあれ	線路用地の 券の見直し せた乗務	貸付けによる継	続的活用、自販	機1台の増設	
指	標分類	娄	女値で事業の	実績・効果等を把	児握できる指標	(指標の説明	1)	目標·実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
	活動	川崎市	交通局営業所	听管理委託事業者達	選定・評価委員会	€の開催数		目標		3	3	
1	指標	説明		部の視点から、委託業務には いて評価・検証を行うとともに、			半期ごとに	実績	3	3		
	活動	管理の	受委託運営委	長員会の開催数				目標		12	12	
2	指標	説明	管理の受委託にお 委員会を開催する。	ける委託業務の履行確認や	委託者・受託者相互の意	見交換を行うため、毎月	月1回、同	実績	12	12		回
								目標				
3		説明						実績				
								目標				
4		説明						実績				

評価(Check)								
(国·県·他団体の	社会環境の変化 動向や法改正、規 和など)							化等により経費が増加するなど などに取り組む必要があります	
事業の見直	し・改善内容	☑ 実施	(直近) H	28 年	度	未実施			
※過去に見	見直し・改善内容 直した履歴も記載 場合は記載	平成26年度: 平成25年度: 平成23年度: 平成22年度: 平成22年度:	自動販売機 運転手の勤 菅生営業所 IC6箇月定期 磁気1日乗車	設置に係 務体制に こついて !乗車券! !券につ!	る使用の見 ついて、変f 、管理の受 こついて、発 いて、ICカー	ど労働時間制を導 委託を開始し、人員 売を開始し、利用す ドの普及により磁気	を変更しました。	図りました。 Eした。 Eした。 Kト削減を図りました。	
			評価	項目				評価	
	【市民の二一ズ】 事業を取り巻く環	環境の変化等!	こより、事業に	ニ対する:	ニーズが薄ね	いないか?		a. 薄れていない b. 薄れている	a
必要性	【市が実施する必 他都市で、民間		是供している	事例がな	いか?			a. ない b. ある	b
	評価の理由							D課題やニーズにきめ細やかに へ委託する管理の受委託を実力	
有効性	【成果】 活動結果(活動持	指標等)に対し	事業の成果	(成果指	標等)は順調	に上がっているか	?	a. 上がっている b, 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由						圣営の効率化を図ってa 用を行い、収入の確保		
	【 民間の活用 】 委託や指定管理	者制度など、	実施手法につ	ついて民	間活用により	リコストを削減できる	5余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	С
効率性	【事業手法等の見事業の成果を維 よる事務改善の可	持しながら、多		様の見直	しなどによる	ら経費削減や事務 ⁵	手続きの見直しなどに	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
が平は	【質の向上】 事業を適正な(過 部(職員・組織)の					で行いながら、市民	サービスや市役所内	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	а
	評価の理由		の受委託の規	見模を拡え	大していくの	で、それに伴う人件	効活用して収入の確保 -費の削減が見込まれる	- に努めています。 ますが、同時に委託料が上昇し	ていること
	黄	献度区分				上記「有効性」の	D成果等を踏まえ左記	区分を選んだ理由	
施策への 貢献度	A. 貢献してい B. やや貢献し C. 貢献の度合	る ている	В	理の受	委託を実施す	することで、経営の	効率化を図っており、一	定程度の施策への貢献はあり	ました。

改善(A	ction)			
	方[向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業 の方向性	I . 現状のまる II . 改善しなか III . 改善規模 IV . 事業規模 V . 事業廃止 VI. 事業終了	ら継続 広大		今後も段階的に営業所管理の受委託の規模を拡大していく中、より効率的な管轄路線の見直しやダイヤ の改正等を行っていきます。また、保有する土地等について、継続して資産の有効活用を行います。
		変更 <u>前</u>		
			前 計画上 載)	
今後の事業 踏まえた次年 変更	度の計画上の	変更後 (上記計画上の記載に 対する変更点)		
		変更の	理由	

事業の	概引	E .											
			事務事業コード		事務事業名								
1	事務 [·]	事業	40704080	市バス地域	支 責献事業				有				
			所属コード		所属名								
	担	当	822300	交通局企画	管理部経営企画課								
		Wa a a	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービ	ス等 分類	分類1(市民サービス等)		内部事務)				
	実施	期间	_	- の分類 その他									
	実施	形態	☑ 市が直接実施	□ 一部委詢	壬 🗌 全部委	託·指定管理	□ ボランティア等との	の協働 口 そ	の他				
	実施	根拠	□ 国・県の制度	□ 国・県の制度 □ 国・県の制度+市独自の制度 ☑ 市独自の制度									
	(法令	・要綱等)											
総合計画	iと連	携する計画等	総合都市交通計画	、市バス事業経営	プログラム								
行財政	改革:	プログラムに		改革項目			課	題名					
関連	車する	課題名											
		Are other	H274	年度	H28:	年度							
		年度	予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額				
		事業費 A	2,214	16,766	13,611	37,20	8 3,710	12,346					
予決算			0	-	0		- 0	0					
(単位:	(単位: 源 市債		0	-	0		- 0	0					
千円) 内 その他特財 一般財源		その他特財	2,214	-	13,611		- 3,710	12,346					
		一般財源	0	-	0		- 0	0					
	人們				2,544	2,54	4 0	0	0				
人件費 [※] B 総コスト(A+B)					16,155	39,75	2 3,710	12,346	0				
人	工(単	位:人)			0.	3							

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画(Plan)							
	政策	総合的な交通体系を構築する					
政策体系	施策	市バスの輸送サービスの充実					
	直接目標	安全で快適な市バス輸送サービスを持続的に提供する					
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	バスを利用する市	民等					
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	地域社会の一員と	として、市バスをより身近に感じていただき、市民や地域に親しまれる市バスを目指します。					
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような 手段で実施しているか)	地域貢献に向けた	取組を拡充するとともに、市バスのイメージアップに取り組みます。					
今年度の事業の取組内容 (具体的に <u>今年度</u> どのような活動を するのか)	今年度の事業の取組内容 ①ハイブリッドバスの導入など環境対策の推進 ②災害時の迅速な対応に向けた取組の推進 ③ボスキャラクター「ノルフィン」と「ハローキティ」のコラボレーションによる事業展開						

			の事業の する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり		目標を下回っ 目標を大きく				
「 <u>数</u> 1	記「当該年 直等でよ できる取	F度の取り具体的 組」、又)実績等 (組内容」に対し、 りに実績を示すこ は「 未達成部分 」 た部分 」を記載)	また、それ以外にも前	:目標どおり達成しました。 藤子・F・不二雄ミュージアム5周年) トミカを新発売することで、市バスの						
指	票分類	娄	枚値で事業の	実績・効果等を把	型握できる指標 (指標の説 明	月)	目標·実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
l,	成果	ハイブ	「リッドバスの購	背入台数			目標		1	1	_
l	指標	説明	環境対策の取組とし	て、車両更新する大型乗合ノ	ヾスにハイブリッドバスを導入		実績	1	1		両
	成果	危機智	言理に係る訓網	東施回数			目標		2	2	
2	指標	説明	局所管業務訓練、九	.都県市合同防災訓練・頭上記	訓練等		実績	2	2		
	成果	ギャラ	リーバスの運行	行日数			目標		365	365	
3	3 指標 説明 川崎市内の小学校児童の絵画作品及び区役所が主催する絵画コンクール事業との連携分						実績	366	365		日
							目標				
1 4	l	説明					実績			i	1

評	価(Check)								
事(国	・県・他団体の	社会環境の変化 動向や法改正、規 印など)	公営バスとし	ての意義・	役割に	応じた事業:	運営を	日回り、社会的要請等に対応した事業を	推進する必要があります。	
3	事業の見直	し・改善内容	☑ 実施	(直近) I	27	年度		未実施		
L	※過去に見	見直し・改善内容 直した履歴も記載 場合は記載						レて、市バスキャラクター「かわさきノルフ 実施に向けた準備を行いました。	ィン」と「ハローキティ」のコラボレ	·ーションに
				評化	西項目				評価	
		【市民の二一ズ】 事業を取り巻く環	環境の変化等	により、事業	美に対す	ナるニーズか	「薄れ [・]	ていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	必要性	【市が実施する必 他都市で、民間		提供してい	る事例	がないか?			a. ない b. ある	b
		評価の理由	安全で快適な地域に親しま		「バスをより身近に感じていただる	き、市民や				
	有効性	【成果】 活動結果(活動持	a. 上がっている b, 徐々に上がっている c. 上がっていない	а						
		評価の理由	ハイブリッドル	バスの購入	、危機'	管理に係る語	訓練の)実施及びギャラリーバスの運行につい	ては、計画的に執行されています	۲.
		【 民間の活用 】 委託や指定管理	者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?						a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	а
	効率性	【事業手法等の見事業の成果を維 よる事務改善の可	持しながら、ま	a. 可能性はない b. 可能性はある	b					
	劝平压	【質の向上】 事業を適正な(過 部(職員・組織)の			a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b				
L		評価の理由	一部の営業を推進してい				が、公'	営バスとしての意義・役割に応じた事業	運営を図り、社会的要請等に対り	応した事業
		黄	献度区分					上記「有効性」の成果等を踏まえ左記	区分を選んだ理由	
İ	施策への 貢献度	A. 貢献してい B. やや貢献し C. 貢献の度合	ている					による環境対策の推進や、キャラクター けた取組を行うことで、一定程度の施策/	とのコラボレーション及びギャラリ	リーバスな

改善(A	ction)			
	方「	向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業 の方向性 I. 現状のまま II. 改善しなが II. 事業規模が IV. 事業規模が V. 事業廃止 VI. 事業終了		ら継続 広大		環境対策の推進や、社会的要請等に対応した事業を推進していくことで地域への貢献を行うとともに、市民や地域に親しまれる市バスを目指します。
		変更 (次年度 の記	計画上	
今後の事業 踏まえた次年 変更	度の計画上の	変更 (上記計画上 対する変	の記載に	
		変更の	理由	

事業の	概引	E .								
			事務事業コード			事務事業名			実施計画の記載	
事務事業		40704090	市バス経営	市パス経営計画推進事業						
担 当		所属コード			j	听属名				
		822300	交通局企画	交通局企画管理部経営企画課						
ch 44- H0 BB		事業開始年度	事業終了年度	事務・サービ	ス等 分類	(市民サービス等)	分類2(内部事務)		
美施期間		_	_	の分類	_	その他	政策推進計画等	穿(策定·進行管理)		
	実施	形態	☑ 市が直接実施	□ 一部委割	託 □ 全部委	託·指定管理	□ ボランティア等との	の協働 口 そ	の他	
	実施	根拠	□ 国・県の制度	□国	・県の制度+市独	自の制度 ✓	市独自の制度			
	(法令	҈•要綱等)								
総合計画	と連	携する計画等	市バス事業経営プロ	ログラム						
総合計画と連携9 る計画等 行財政改革プログラムに			改革項目 課題名							
関連	車する	お課題名								
	担当 実施期間 実施形態 実施根拠 (法令・要綱等) 総合計画と連携する計画 行財政改革プログラムに 関連する課題名 年度 事業費 A 財源 市債 その他特 一般財派 人件費* B	/r.mt	H27年	₣度	H28:	年度		H29年度		
	関連する課題名	牛皮	予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
		事業費 A	119,202	3,588	9,735	3,08	5 9,735	39,915		
予決算	財	国庫支出金	0	-	0		- 0	0		
(単位:	源	市債	0	-	0		- 0	0		
千円)		その他特財	119,202	_	9,735		9,735	39,915		
	駅	一般財源	0	-	0		- 0	0		
		人件費 [※] B			13,992	13,99	2 0	0	0	
	i	総コスト(A+B)			23,727	17,07	7 9,735	39,915	0	
人	工(単	位:人)			1.0	35				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計	画(Plan)								
		政策	総合的な交通体系を構築する						
	政策体系	施策	市バスの輸送サービスの充実						
		直接目標	安全で快適な市バス輸送サービスを持続的に提供する						
(4	事業の対象 事業の対象となる人、物)	バスを利用する市	民等						
(対象		公営バスとしてお客 を確保します。	公営バスとしてお客様に満足いただける利用しやすいサービスの提供に向けて継続的にサービス向上を図り、市民やお客様の足 を確保します。						
	事業の内容 いった業務内容で、どのような 手段で実施しているか)	交通局内の進捗管	理会議等を活用し、「市バス事業経営プログラム」に基づく事業を効果的に推進します。						
	F度の事業の取組内容 的に <u>今年度</u> どのような活動を するのか)	①交通局内進捗管 ②「市バス事業アド	理会議の開催 バイザリー・ボード」の開催						

			の事業の する達成度	3	1. 目標を大きく 2. 目標を上回っ 3. ほぼ目標どお	って達成		目標を下回っ 目標を大きく				
「 <u>数</u>	記「当該年 値等でよ り できる取	F度の取 リ具体的 組」、又)実績等 組内容」に対し、 I に実績を示すこ は「 未達成部分 」 I た部分 」を記載)	①交通局内進捗管理②「市バス事業アドバ			催					
指	標分類	娄	枚値で事業の	実績・効果等を把	握できる指標	(指標の説明)		目標·実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
	活動	交通局	内進捗管理会	会議の開催回数				目標		2	2	
	指標	説明	半期に一度、経営プロ	ログラムに基づく事業進捗状	況の確認を行う会議の開	実績	2	2				
	活動	「市バ	ス事業アドバイ	ザリー・ボード」開催回数				目標		1	1	
2	指標	説明	有識者、市民、事業有	者を委員とする会議の開催回]数			実績	1	1		回
			1					目標				
3		説明						実績				
								目標				
4		説明						実績				

評価(Check)											
(国·県·他団体の	事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など) おら「経営戦略」策定の要請があったことから、その動向にも注視していく必要があります。また、総務省制緩和など)											
事業の見直	し・改善内容	□ 実施	(直近) Þ	H 年度	Ø	未実施						
※過去に見	見直し・改善内容 直した履歴も記載 場合は記載											
			評値	項目			評価					
	【市民のニーズ】 事業を取り巻く理	環境の変化等に	こより、事業	に対するニー	ズが薄れ	ていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	а				
必要性	【市が実施する必 他都市で、民間		a. ない b. ある	а								
	評価の理由	市バス事業の	D意義·役害	りを踏まえなが	ら、持続す	可能な経営を行うためには、継続的に行政	対が運営を担っていく必要があ り	ります。				
有効性	【成果】 活動結果(活動:	指標等)に対し	a. 上がっている b, 徐々に上がっている c. 上がっていない	а								
	評価の理由			の開催や、「市 事業を効果的!	部有識者等の意見をいただくこ	とで、経営						
	【 民間の活用 】 委託や指定管理	者制度など、	実施手法に	ついて民間活	用により	コストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	а				
効率性	【事業手法等の見事業の成果を維 よる事務改善の可	持しながら、身	a. 可能性はない b. 可能性はある	b								
刈平圧	【質の向上】 事業を適正な(過 部(職員・組織)の			a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b							
	評価の理由	交通局内進持 等の見直しを	的で効率的な運営となるよう、	資料の様式								
	Į	献度区分				上記「有効性」の成果等を踏まえ左記	区分を選んだ理由					
施策への 貢献度	A. 貢献してい B. やや貢献し C. 貢献の度名	ている	В			プログラム」を着実に推進していくことが、 供と持続可能な経営を可能にすることから						

改善(A	ction)			
	方「	9性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業 の方向性	I . 現状のまま II . 改善しなが III . 改善規模模 IV . 事業規模 VI . 事業終了	ら継続 広大		局内の進捗管理会議及び外部有識者や利用者などを委員とする「川崎市バス事業アドバイザリー・ボード」の開催がより効果的になるよう運営を行うことで、「川崎市バス事業経営プログラム」に基づく事業を着実に推進していきます。
		本市	åfr	
	変更 (次年度 の記		計画上	
今後の事業 踏まえた次年 変更	度の計画上の	[の計画上の		
		変更の	理由	